



2010年国際協議会

講演集

米国カリフォルニア州サンディエゴ
2010年1月18日～24日

目次

地域を育み、大陸をつなぐ	1
レイ・クリンギンスミス RI会長エレクト	
ロータリー奉仕の発展.....	5
クリフ・ドクターマン 元RI会長	
ロータリー会員状況の概観	10
ジョン T. ブラウント RI理事	
未来に向けてのビジョン.....	14
ルイス・ピセンテ・ジアイ 元RI会長	
2010-11年度ロータリー財団の目標	17
カール・ヴィルヘルム・ステンハマー ロータリー財団管理委員長エレクト	
ポリオ・プラスの最新情報	20
ペニー・ルゲイト シアトルKIRO-TV 7局「Eyewitness News」リポーター／特別プロジェクトプロデューサー	
未来の夢計画の最新情報.....	23
キャロライン E. ジョーンズ 元ロータリー財団管理委員	
ロータリーと平和	27
カール・ヴィルヘルム・ステンハマー ロータリー財団管理委員長エレクト	
私の人生を変えたロータリー世界平和フェローシップ	29
ナイ H. ウー 2005-07年度ロータリー世界平和フェロー	
継続は力なり	31
マイケル・マクイーン The Nexgen Group創設者	

私たちはリーダーなのか、それとも管理者なのか?	34
レイ・クリンギンスミス RI会長エレクト	
職業奉仕の実践	37
田中作次 37 ロータリー財団管理委員	
アントニオ・アラジェ 39 RI理事	
トム・ソーフィンソン 41 RI理事	
RIからの支援	44
エド・フタ(布田) RI事務総長	
ロータリー独自のブランドを築く	47
K. R. ラビンドラン RI理事	
広報とは有意義な活動を多くの人に知らせること	51
ジェニファー・ジョーンズ 元地区ガバナー	
ロータリー青少年交換の舞台裏	55
アル・カルター 多地区合同青少年交換委員長	
ローターアクトからロータリーへ	59
ブリトニー・カットン、リズ・レインズ 現ロータリアン、元ローターアクター	
会長による閉会の辞	61
ジョン・ケニー RI会長	
会長エレクトによる閉会の辞	64
レイ・クリンギンスミス RI会長エレクト	

地域を育み、大陸をつなぐ

レイ・クリングスミス RI会長エレクト

「カリフォルニア、ヒア・アイ・カム」という歌をご存知の方も多いのではないでしょうか。昨年からの集いを夢に描き、思いを馳せてきた私たちの心を歌ったような懐かしのメロディーです。時が来て、今はすでに「カリフォルニア、ヒア・アイ・カム」ではなく、「カリフォルニア、ウィー・アー・ヒア」すなわち、「私たちはカリフォルニアにいる」に変わりました。新たなロータリーの指導者チームが、満を持してやって来たのです。

ロータリー・ボランティアの才能が結集されたネットワークには、目を見張るものがあります。私が壇上に上がる際に流れた音楽は、ロサンゼルスでのロータリー年次大会を推進する目的で、トルーマン州立大学の学生16名により、カークスビルという小さな町でレコーディングされたものです。この曲のアレンジとバンドの指揮は、わがロータリー・クラブ会員であるランディー・スミス氏が担当しました。あの音楽は、彼らの才能と超我の奉仕の精神の結晶です。

そして、今お聴きいただいている懐かしの曲はメアリー・サリーさんの演奏によるもので、この1週間、彼女はご自身の時間と才能を捧げてくださいます。音楽には人間の精気を奮い立たせる力がありますので、この協議会を通じて随所でメアリーさんの音楽の才能の恩恵にあずかることができるでしょう。米国オクラホマ州出身のロータリアンであるメアリーさんは、ロータリー奨学生としてウイーンで音楽を学んだ経験の持ち主です。ロータリー財団の申し子、メアリー・サリーさんに拍手をお願いします。

お話ししたいことが山ほどありますので、まずは、地区ガバナーが特に高い関心を寄せている来年度のテーマ・ブレザーから始めましょう。はじめてテーマ・ブレザーを採用したのはポール・ハリスだと思いの方もいらっしゃるかもしれませんが、実は、この伝統が始まったのは25年前です。

テーマ・ブレザーが導入されたのは、カルロス・カンセコ氏がRI会長を務めた1984-85年度のことでした。その発起人となったのが、当時、私の地区のガバナーを務めていたジム・フィッシャー氏で、これを伝統として受け継いでいくことにも力を注いだ人物です。弟さんとともにスポーツ用品店を経営していたジムさんは、「ロータリーの国際大会で仲間がすぐに見分けられるように、鮮やかな色のブレザーが欲しい」と同期のガバナーが話しているのを聞き、その年のガバナー・チームのために鮮やかな黄色のブレザーを大量に注文したのです。この黄色いジャケットは、「スズメバチ」の異名をとり、すぐさまロータリアンの間で話題となり、カンザスシティで開かれた1985年の国際大会では注目の的となりました。

このブレザーが大人気を博したことを受けて、M.A.T.カパラス1986-87年度RI会長が、1986年ナッシュビルで開催された国際協議会で販売するため、「ハーバード・クリムゾン」の名にふさわしい深紅のブレザーを作ってくれと、ジムさんに注文しました。ブレザーの人気は大変なもので、ジムさんは以来長年にわたり、会長が変わるたびに新しい色のブレザーを提供することになりました。その後のことは私がお話しするまでもありませんが、ここで、テーマ・ブレザーをロータリーの伝統へと昇華させた二人のヒーローに敬意を表したいと思います。セントルイス出身のジム・フィッシャー・パスト地区ガバナー、そして、フィリピン出身のM.A.T.カパラス元RI会長のお二方です。

来年度のブレザーの色については、皆さんご存知のとおり、バーミングハム大会中、ガバナー・ノミニー会議で赤紫と既に発表いたしました。今回、私たちのブレザーは、事前購入できるようにしたことによって、価格を半分に抑えることができました。価格の面だけではなく、それよりもっと重要な教訓も得ることができました。

従来どおりのやり方を見直すことで、よい良い方法が見つかったのです。これを機に、クラブや地区で既に時代遅れになってしまっているやり方など、ロータリーに存在するほかの慣習も見直してみたいものです。肝心なのは、伝統的な慣習のすべてを見直し、明らかにもっと良い別の方法があれば、新しい伝統を始めるべきだということです。

さあ、それでは、次期地区ガバナーの2番目の関心事項であるRIのテーマに焦点を移したいと思います。適切なテーマを選ぶにあたって、私はじっくりと考えを巡らせました。その過程で歴代RI会長のテーマをすべて参照し、種類別に分けてみることにしたのです。最新版の「公式名簿 (Official Directory)」に載っている最初のテーマは、1949-50年度のもので、初期のほかのテーマ同様、目標を連ねた非常に長いテーマとなっています。私たちが今日テーマと呼んでいる形のもの、3つのキーワードから成る短いテーマで、1950年代に始まりました。「ロータリーは活動する希望」、「我等の資源を開発しよう」、「将来を造るに助力しましょう」が、この例です。

もう少し新しいテーマになりますと「真心の行動、慈愛の奉仕、平和に挺身」や「ロータリーの心を あなたの住むところ 私たちの世界 そこに住むすべての人々に」、「行動 行動に努めよ 理解に途を求めよ 指導力を高めよ」など、長いものも出てきます。また、「参加し敢行しよう!」、「手をさし伸べよう…」、「ロータリーは分かちあいの心」といった短いものもあります。

動詞から始まり、行動を促すテーマとしては、「友達になろう」、「手を貸そう」、「率先しよう」などがあります。ほかには、要点を強調するテーマもあります。「あなたが鍵です」、「人類が私たちの仕事」、「まことの幸福は人助けから」がその例です。テーマの中に「ロータリー」という言葉が含まれているものが、16ありました。「ロータリーに生きよう」、「ロータリーを楽しもう!」、「ロータリーは分かちあいの心」、「ロータリーを祝おう」、「ロータリーは希望をもたらす」などです。

奉仕という言葉が含まれているテーマは、「超我の奉仕」、「奉仕の灯で道を照らそう」、「ロータリアン——奉仕に結束——平和に献身」の3つです。英語の「bridge」という言葉が含まれているテーマは、「隔りを取り除こう」、「生氣を与えよ 身につけよ 友愛の橋をかけよ」、「人類はひとつ 世界中に友情の橋をかけよう」の3つです。

こうしてロータリーのテーマを見ていく過程で、もう1つの重要な面が見えてきました。それは、ほとんどのテーマがロータリアンだけに呼びかけるもので、ロータリアン以外の人々を対象としていない点です。この両者に呼びかけるテーマを考えると、脳裏に浮かんだのが、ロータリーのスーパー営業マンであるフランク・デブリン氏の勧告でした。エレベーターに乗り込んだ瞬間から降りるまでの短い間に、ロータリアンではない人々にロータリーのことを売り込む簡潔なメッセージを、私たちの誰もが用意しておくべきだと、デブリン氏は言っています。そこで私は、「ロータリアン以外の人々にロータリーの目的を説明すること」と「ロータリアンに自分たちの活動の意義を再認識してもらうこと」、この2つの目標を満たす簡潔なテーマを探す決心をいたしました。

そして適切な言葉を探す上で、四大奉仕部門を再検討していたところ、クラブ奉仕と職業奉仕はどちらも人生を謳歌し、善き市民となるよう私たちを導いてくれるものであると気づいたのです。また、社会奉仕と職業奉仕を合わせるなら、地元の地域社会をより住みやすく、働きやすい場所にする事ができるでしょう。一方、国際奉仕は、国や大陸を異にする海外のクラブと協力し、世界理解、親善、平和を広め、世界をより良い場所にするための機会を、私たちに与えてくれます。そこで、海外と地元地域の両方で活躍するロータリアンのユニークな存在をどのように表現すればよいのかと、考えあぐねました。

次に、ジェームズ・コリンズの名著「ビジョナリー・カンパニー2」に書かれている非営利団体への助言について考えてみました。コリンズの助言は、将来の針路を見極めるために次の3点を考えよというものです。1) 会員が情熱を抱いているものは何か。2) あなたの団体が世界一と誇れるものは何か。3) 団体のリソースをつぎ動かすものは何か。

これら3つの問いは、ロータリー財団の未来の夢計画を立てる際の指針となりました。私も、ロータリアンの情熱、独創性、寛大さを的確にとらえた言葉を探る上で、この3つの問いを振り返ることになったのです。ここで少し立ち止まってみましょう。ロータリーを的確に表す3つないし4つの言葉を、皆さんも考えてみてください。ロータリーの外にいる人々にも私たちの目的が分かり、ロータリアンにとっても会員であることを誇りに思えるような言葉です。

適切な言葉を探す過程で、ロータリーが、ロータリー・クラブの連合体であると同時に、奉仕の精神から成り立っていることを忘れてはなりません。私たちは、「奉仕」「親睦」「多様性」「高潔性」「リーダーシップ」というロータリーの中核となる価値観を分かち合う必要があるのです。さあ、ロータリーの真髄に迫る魔法の言葉は何でしょうか。

昨年、この場でジョン・ケニー会長が思慮に富んだテーマを発表されてからというもの、私は数多くの言葉や語句を検討してきました。その結果、ロータリーの現在の使命を表し、私たちが得意とすることに焦点を当て、最終的に次のテーマを選びました。「地域を育み、大陸をつなぐ」

この簡潔な語句が、ロータリアンとしての私たちの存在と私たちの活動を的確に言い表すものであると賛同していただけることを願っております。ロータリーは世界でも比類のない優れた組織です。私たちは、地域社会の精神とリソースを築いています。このことを、わが地区の昨年度のカバナー、エリザベス・ウソヴィッチ氏が、次のように見事に語ってくれました。「クラブに前向きな意欲がみなぎると、地元地域をも元気にすることができると。そして私たちの存在と奉仕によって地域社会が活性化されると、新しい会員がもたらされる。こうして素晴らしい相乗効果が生じるのだ」と。

ロータリーの奉仕の精神を実現できれば、私たちはクラブと地域社会の両方を動かすことができるというウソヴィッチカバナーの言葉は、真実です。私たちロータリアンの中で、地域社会づくりにおいてロータリーが世界で最も秀でているという考えは浸透していますが、ロータリーの外では必ずしも認められているとは言えません。しかし、大陸をつなぐことに関して言えば、親善によって世界中の人々を結びつけ、世界をもっと住みやすく働きやすい場所にするために協力と支援を結集させることにかけては、ロータリーが世界一であることを疑う人は少ないでしょう。エド・カドマン元会長の言葉どおり、「ロータリーは、画一化ではなく、結束にある」のです。この目的に向けた結束こそが、私たちが世界最良の組織に成し得る要素です。ロータリアンである私たちは、誠に恵まれています。

ロータリー・クラブと地区の功績、そしてロータリーの華々しい成功を祝う今、忘れてならないのは、ロータリーを世界の絵舞台に送り出すために惜しみない努力を払ってきた無数のロータリアンの遺産の上に、今の私たちがいるという事実です。私たちにはロータリアン諸先輩という模範があります。国際協議会では、元会長や元役員に出会う機会があります。皆さん、私がロータリーの例会に出席してきたこの50年間、率先して活動してこられた方ばかりです。

そうです、ロータリー奨学生となったときからさかのぼって、ロータリー歴50年と言えることを、私は誇りに感じています。故郷ミズーリ州の小さな町、ユニオンビルクラブの賢明にして寛大な計らいによって、奨学金申請の推薦を受けてから南アフリカへの留学に向けて出国する日まで、私は無料ですべての例会に出席させていただくことができました。私が生まれ故郷初の留学生となれたのは、ひとえにロータリーのおかげです。

これまで5万人近くの奨学生が私と同じ機会を享受し、およそ6万人のGSEチームメンバーが別の国、あるいは別の大陸で学ぶ機会を得てきました。それだけではありません。10万人以上のロータリー青少年交換学生が、母国を離れ、海外のホストファミリーのもとで暮らしてきました。また、ポリオという身体の自由を奪う病の感染者数の減少にロータリーが大きく貢献してきた事実についても考えてみましょう。昨年の感染者は2千

人以下で、1979年の50万人という数字と比べると、世界的に99.9パーセント減少しています。今、私たちは世界史上最も悲惨な病気の一つに数えられるポリオを撲滅しようとしているのです。さらに、クラブとその会員は、毎年、ロータリー財団へ行う寄付の推定10倍の資金を地元地域のプロジェクトに費やしていることも、忘れてはなりません。社会奉仕プロジェクトの年間支出は、何十億ドルという金額になるはずで

こうした驚異的な数字を思えば、今現在、ロータリアンであることの素晴らしさを誰もが実感することでしょう。実際、世界を本当によりよい場所にするために時間と才能を捧げるのに、ロータリーほどふさわしい組織がほかにあるでしょうか。ともにロータリーに対する誇りを確かめ合う一方で、皆さんの責務が大きく変わることにも目を向けてください。皆さんは、間もなくロータリーの新たなリーダーとなられます。わずか5カ月後には、最も優れた組織としてのロータリーの地位を保ち続けるだけでなく、さらなる高みへと引き上げていく責務を、私たちは共有することになります。成功は、皆さん一人ひとりがどれだけの時間と才能を捧げ、地区内のクラブのために、友として、相談相手として、また応援団長として力になる覚悟があるかに、大きくかかってきます。船団は最もスピードの遅い船に合わせて進みますが、ロータリーにも同じことが当てはまります。ですから、ここにいらっしゃる地区ガバナー・エレクト全員が全力で進んでいく必要があるのです。百年前の1910年8月に初のロータリー・クラブ大会を開催した国際ロータリーが奉仕の新世紀に乗り出す中、遅れを取り、ロータリーという船団の速度を落とさせるようなことがないようにしなければなりません。

リーダーの素質を備えた皆さんに、リーダーとなる意志があるならば、必ずやロータリーにさらなる栄華がもたらされることでしょう。時間と労力という代償を払う覚悟が私たちにあるなら、きっとできます。120万というロータリーの会員数は、世界人口が60億人であることを考えれば、小さな数字かもしれません。しかし、著名な文化人類学者、マーガレット・ミードの貴重な助言を思い起こしてください。「思慮と熱意のある少人数の人々に世界を変えることなどできないとみくびってはいけません。実際には、それが世界を変える唯一の方法なのだから」

そうです、私たちは世界を良い方向へと変えてきたのです。そして、今後も変え続けていくのです。現在のような不況下にあっても、さらに良い変化をもたらすことができるでしょうか。「イエス・ウィー・キャン」、私たちにはできます。そうです、私たちはともにやり遂げます。やり方はシンプルです。来る年度を成功へと導くために必要なのは、ロータリアンが熱意を抱き、世界一得意としていること、すなわち「地域を育み、大陸をつなぐ」ことに専念するよう、力の限り、クラブと地区を励ましていくこと、それだけなのです。

ロータリー奉仕の発展

クリフ・ドクターマン 元RI会長

たった今皆さまがご覧になられたのは、来る2010-11年度に向けた会長の強調事項のビデオです。皆さまが実施し、推進されているプログラムに対し、このような明確なビジョンが地区ガバナーに与えられたことは、これまでめったにありませんでした。これらの強調事項は、特に新しいプログラムというわけではありませんが、実りある次年度に向けてロータリー世界の活動の焦点を定めるものです。

ロータリーのプログラムがどのように生まれ、ロータリーの歴史を通じてどのように発展してきたかを真に理解するような経験をしたことのあるロータリアンは、ごくわずかしかないでしょう。そこで、本日私からそのことについてお話しさせていただきます。

ロータリーのプログラムは、RI理事会や財団管理委員会が始めたものではありません。ほぼすべてのプログラムは、ニーズを目の当たりにしたロータリアンが、「自分たちのクラブで何かできるのではないか」と考え、創造力あふれる素朴なアイデアをもたらしたことから生み出されたものです。

皆さんの中で、オハイオ州のイリリア・ロータリー・クラブの会員、エドガー“ダディ”アレンというロータリアンの名前を聞いたことのある方は、おそらくほとんどいないでしょう。1919年当時、ダディ・アレンは、手足の不自由といった障害のある子供たちに対して、全ロータリー・クラブが支援の手を差し伸べるべきであると固く信じていました。路面電車の事故で息子を亡くした後、アレンは募金活動を実施したり、国内を旅してロータリー・クラブで講演を行い、障害のある子供たちへの支援をロータリーの主要な活動とするよう訴えました。その後間もなく、すべてのロータリー・クラブで、けがや先天性疾患、失明やその他の障害を患う子供たちの問題に取り組む「障害児委員会」が設立されました。また、州立や国立の肢体不自由児協会が次々と誕生しました。ロータリーの活動は、今日、障害者のための「イースター・シールズ」として知られる団体の結成につながりました。

アレンの熱意が、ロータリーの歴史の重要な節目と関係するのはなぜでしょうか。それは、障害児への支援を全ロータリー・クラブの主要な活動にするという呼びかけが、ロータリー世界を通じて熱い論争を引き起こしたためです。しかし最終的に、1922年のロータリー国際大会で行われた投票で、障害児への支援をロータリーの唯一の活動とするという提案は否決されました。それ以来、すべてのロータリー・クラブは、完全に自立して、それぞれのクラブと地域社会に最も見合ったプログラムや奉仕活動を選ぶようになったのです。

ロータリー・クラブは再び以前のようにプロジェクトを自分たちで選択し、クリスマスのプレゼントを届けたら、貧しい家族のために靴や衣類、食糧品を集めたり、恵まれない子供たちに玩具や本を提供したりしました。中には、公園にベンチを建てたり、遊び場を作ったりしたクラブもあります。このように、始めの50年間のロータリーの奉仕活動は、それぞれの地域社会でプロジェクトを選んだ個々のロータリー・クラブによって主に行われていました。

しかし、1960年代に入り、クラブが世界全体を一つの地域社会としてとらえるようになったことから、大きな変化が起きました。数々の国際奉仕活動が誕生したのです。1963年、当時のカール・ミラー会長は、「組み合わせ地区」と「クラブプログラム」という制度を導入しました。その後の1965年、ロータリー財団は、最初のマッチング・グラントを開始しました。翌年の1966年、世界社会奉仕という概念が正式なものとなりました。ロータリー・クラブは、国境と海を越えた活動を開始するようになり、国際奉仕活動は、地元の地域社会プロジェクトを支援するようになりました。1967年、ロータリーは、「海外ロータリー・ボランティア」制度とともにその国際的な活動を拡大し、発展途上国への技術・専門的な援助の提供を開始しました。災害救援もまた、世界的な奉仕活動へと発展していったロータリー・クラブの活動の一つです。

しかし、ロータリーのリーダーの中には、もっと大きなことをしようと夢を抱いていた人たちがいました。1978年、当時のクレム・レヌフRI会長が、クラブまたは地区では到底実施できないような大規模な国際的プロジェクトをロータリーが実現するために、「保健、飢餓追放、人間性尊重 (3-H)」プログラムを提唱しました。私は当時、最初の3-H委員会の共同委員長を務めていましたが、私たちはこの3-Hプログラムが、世界に真の違いをもたらすような大規模なプロジェクトをクラブが実施していくための新たな試みになると考えていました。しかし、このプログラムにはあまり多くの支持が寄せられず、実際、多くのシニアリーダーの間では異議や批判の声も上がりました。

幸いにも、1980年に、ロータリーの75周年を記念して特別資金が集められ、これらの資金によって最初の3-Hプログラムが発足しました。私たちは、3-Hプログラムの効果を実証できる成功談を直ちに報告したいと考えていました。そこで初めての3-Hプロジェクトとして、フィリピンの600万人の子供たちにポリオの予防接種を行ったのです。この活動とほかの予防接種プロジェクトの成功は、世界からポリオを撲滅することを目指した「ポリオ・プラス」プログラムの先駆けとなりました。ほかにも、コロンビアでの地域衛生プロジェクト、タイでの全国的な識字プログラム、複数国で行われた保健と食糧生産プロジェクトなど、数多くの3-Hプロジェクトが実施されました。ロータリーは、多くのシニアリーダーの反対にもかかわらず、国や地域レベルで大規模なプロジェクトを開始する方法を見出したのです。

3-Hプログラムを土台として1981年、当時のスタン・マッキヤフリーRI会長が「ニューホライズン委員会」を任命し、未来への新しい道が切り開かれました。同委員会が推奨し、RI理事会が採択した30の事項のうちの 하나가、世界中のすべての子供たちにポリオワクチンを提供するというアイデアでした。1984-85年度に任期を務めたカルロス・カンセコ会長が、「今こそ開始しよう」と呼びかけ、大規模な募金キャンペーンが本格的に始まりました。

ポリオ・プラスが世界中で成果を生み出すにつれ、ロータリーにおいても新しい姿勢が見られるようになりました。新しいアイデアを持ったロータリアンが、世界に違いをもたらすことができるということをいかに信じてきたかを示す例がたくさんあります。

ニューヨークのロータリアン、トニー・ジーノ氏が、ハイエナに襲われ大きな傷を負ったウガンダの子供の話を読んだときのことです。マーガレット・ローズ・イルコルという名のこの少女の悲劇に胸を痛めたジーノ氏は、少女の整形手術を援助する活動を実施しました。親切心から生まれたこの一つの行動が、「Gift of Life (命の贈り物)」と呼ばれるロータリーのプログラムのきっかけとなったのです。1974年、当時5歳のグレース・アグワルちゃんがウガンダからニューヨークにやってきて、4時間にわたる心臓切開手術を受けました。ロータリアンの素朴な思いやりが、世界中の60ロータリー地区の支援を呼び、1万人以上の子供たちの命を救うダイナミックなプログラムに発展したのです。

1968年には、P.K.セシ博士と地元の彫刻家の一人が、インド、ジャイプールの僻地で、費用のかからない義足を設計すれば、足を切断した人々や、生まれつき足の不自由な人々の多くに歩くチャンスを与えることができると思いつきました。こうして、プラスチックパイプとくずゴムを使った軽量のジャイプールフットが誕生したのです。今日までに、ロータリアンは、世界中の10万人以上の男女と子供たちにジャイプールフットを提供してきました。これらの人々は、歩けるようになっただけでなく、自立心と自尊心を持つことができるようになりました。

テキサス州では、メキシコ中部のタラウマラ族が直面していた深刻な飢饉のことを知ったJ.B.ロバーツ氏率いるロータリアンのグループが、同州で実施されていた「ブリードラブ乾燥食品」プロジェクトを通じて、メキシコに何百キログラムもの乾燥食品を送りました。この活動は、後にロータリー・クラブが提唱する「ハンガー・プラス」と呼ばれる救援組織に発展しました。これは、飢餓を軽減し、新しい食糧供給手段の開発を目指す組織です。1998年以来、飢餓と栄養失調を緩和し、災害救援を行うために、このプログラムを通じて、ロータリー・クラブから世界各地に乾燥した果物や野菜が送られてきました。

英国では、ロータリアンのトム・ヘンダーソン氏が、救命用品や用具を詰めた箱を用意し、洪水、地震、竜巻、津波などの災害に見舞われた地域に直ちに送れるようにするというアイデアを思いつきました。こうしてシェルターボックス・プログラムが生まれ、現在、このプログラムによって、10人が生活できるテント、調理器具、寝袋、水用の容器、その他の道具や必需品の入ったシェルターボックスが各地に送られています。クラブのミレニアムプロジェクトとして一人のロータリアンが始めたこのプログラムは、世界各地に広まり、多くのロータリアンによって実施されるようになりました。ロータリー・クラブは、災害に見舞われた30カ国以上の50万人を超える人々に迅速に支援を提供できるようになりましたが、これもロータリアンの思いやりの心があってのことです。

これらの例から、ロータリーが実施するほとんどのプログラムが、ニーズを感じ、何とかしようとして立ち上がった一握りのロータリアンによって始められたということをご理解いただけたのではないのでしょうか。

年月が経過し、ポリオ・プラス・プログラムで得た経験を基に、ほかの人道組織や非政府組織との協力によって、クラブや地区の活動が大幅に拡大できるのではないかという声が多くクラブと地区から上がりました。2000年、当時のフランク・デブリンRI会長が、人道的な目標を同じくする他団体との協力関係の構築を目指して実行グループを設置すると、ロータリーの活動はさらに大きく飛躍しました。

例えば、推定5千万人が、視力を失い、白内障の手術や眼疾患のための基本的な治療が受けられないために不自由な生活を送っています。そこでロータリアンは、世界保健機関、グローバルビジョン、国際トラコーマ計画などのような世界の主要機関からの協力と、数々の国際的な製薬会社や財団からの支援を得て「予防可能な失明救済活動」を発足しました。現在、クラブと地区は、3-H補助金とマッチング・グラントを通じて、河川盲目症、白内障、トラコーマ、その他の視力障害に苦しんだり、視力矯正レンズを持たずに不自由に暮らしている何百万もの人々を支援しています。また、ロータリアンだけでも、世界中で50万人以上の人々に白内障の手術のための資金を提供してきました。これは、ロータリーの世界社会奉仕の新たな方向性を示す素晴らしい一例です。

ロータリーの奉仕活動のもう一つの例は、2001年以来、車椅子財団と協力して続けられている活動です。これまで2千以上のロータリー・クラブと地区が、100カ国において20万台を超える車椅子を寄贈してきました。これらのクラブによって、ポリオ、先天性疾患、事故やその他の疾患の体が不自由になった人々が自由に移動できるようになりました。ロータリアンが支援するこの車椅子の寄贈活動は、ロータリー財団のマッチング・グラントからの支援、ならびにカナダ、英国、オーストラリア、米国フロリダ州とカリフォルニアで活動する車椅子財団からの協力によって、さらに拡大しています。ロータリーと他団体との協力活動を通じて、現在20万人以上の人々が、より良い生活を送ることができるようになりましたが、これは、ニーズを理解し、それに取り組んだロータリアンがいたからこそ実現したのです。

近年では、ロータリアン行動グループの誕生とともに、国際奉仕の新たな分野が開拓されました。行動グループの活動は、かつて「スポーツとレクリエーションのロータリー親睦活動」と呼ばれていた伝統ある親睦活動から発展したものです。新しく誕生したロータリアン行動グループは、人口と開発、マラリア撲滅、献血、多発性硬化症、元ポリオ患者への支援、災害救援などのさまざまな人道的分野で、世界規模の活動や意識向上に取り組んでいます。

ロータリアン行動グループの一つに、水と衛生のロータリアン行動グループがあります。これは、安全な水を利用できない12億の人々と、基本的な衛生設備を利用できない24億の人々のために、水に関連する長期的な活動を支援しているグループです。現在、推定7千以上のロータリー・クラブが、水プロジェクトに既に取り組んでいます。ロータリアン行動グループは、ウォーターエイド、ウォーター・フォー・ピープル、グローバル・ウォーター・チャレンジ、リビング・ウォーター・フォー・ザ・ワールド、国境なきエンジニア、カナダ国際開発局、その他多数の機関、教会、財団と協力して、アフリカの40カ国、アジアの25カ国、ラテンアメリカの17カ国に住む何百万もの人々のためにきれいな水と衛生設備への取り組みを推進しています。

また、世界中で猛威を振るうHIV／エイズの悲惨な状況に取り組むロータリアン行動グループがあります。ロータリアンは、人々を死に至らしめるこの病に、教育面と医療面でのさまざまな支援と介護活動によって対応してきました。エイズと闘うロータリアン行動グループは、アフリカの4万6千人の孤児と弱い立場にある子供たちに手を差し伸べています。また現在、同グループは、米国国際開発庁、コカ・コーラ・アフリカ財団、マイクロソフト、ナイキ、ゲイツ財団など、数々の財団と協力し、活動をケニアをはじめ各国での試験プロジェクトに拡大しています。ロータリアンは、アフリカの子供たちと青少年に教育と医療、希望を与えているのです。

私は、地区ガバナーの皆さま一人ひとりに、これらの特別なグループの可能性を知っていただきたいのです。ロータリアン行動グループの活動は、ロータリー財団の6つの重点分野に取り組む最も効果的な手段となり得るでしょう。行動グループが、未来のロータリーの奉仕において新境地を開いていくことになるはずです。ロータリアン行動グループは、ほかの非政府組織との協力関係の中で、ロータリアンの熱意と知識を生かし、一つのクラブや地区のプロジェクトでは実現できないような持続的な人道的奉仕活動を達成しています。

インターネットという情報通信技術の目覚ましい発展により、ロータリアンは、重要な問題について瞬時に知り、瞬間にロータリアンの支援を集めることができるようになりました。ロータリアンの創造力とアイデアは尽きることなくどこまでも膨んでいくに違いありません。

近年私たちは、共通の人道的目標を持つ団体や財団と協力し、リソースを倍増することによって、これまで太刀打ちできなかった大きな課題に立ち向かえるということを、世界に、そして私たち自身に証明してきました。

このようにロータリー・プログラムが発展する中で、私たちは、ロータリーを形づくってきたほかの伝統的プログラムについても忘れてはいけません。インターアクト、ローターアクト、ロータリー地域社会共同隊、ロータリー青少年指導者養成プログラム (RYLA)、ロータリー・ボランティア、友情交換、青少年交換などのプログラムはすべて、一つのクラブや一人のロータリアンの夢から生まれたものです。

青少年交換プログラムは、今年度の特別強調事項に該当する分野ですが、これもフランス、ニースの数名のロータリアンが始めたプログラムです。今日、7千人以上の青少年が、毎年、ロータリーの青少年交換に参加し、豊かな経験を積んでいます。

ロータリー財団の6つの重点分野において、これからも私たちは、医療機器の提供、血液バンクの設立、学校の建設、きれいな水の供給、衛生設備の改善、疾病予防、マイクロクレジットの提供、地雷撤去、識字率向上、食糧生産のための種まき、人々の自尊心の回復、難民への支援に取り組み、世界に希望をもたらしていくことができるでしょう。ロータリーのプロジェクトは無数にあります。それは、世界にニーズが限りなく存在するからです。

本日私が皆さまにお伝えしたいのは、例会を開き食事を共にすること以外に、ロータリーにはもっと多くの意義があるということです。百年以上にわたり、ロータリーのプログラムは発展を続けてきました。しかし、素晴らしいプログラムのアイデアは、今日ここにおられる皆さまの思考の中にまだ眠っているかもしれません。優れた活動とは、クラブと地区に情報を伝え、行動を起こすよう意欲を喚起し、刺激したときにこそ生まれるものではないでしょうか。

悲しいことに、世界の人々と時間、活力、リソースを分かち合う喜びや充足感を味わったことのないロータリアンが多く存在します。ガバナーとして、皆さまはロータリーのパレードの先頭に立つ必要があります。クラブがこのパレードをただ歩道から眺めるに任せておくのではなく、指導力を発揮し、クラブに積極的にパレードの行進に加わってもらおうのが皆さまの仕事です。

ロータリーの最盛期はまだまだこれからです。会長エレクトは、2010-11年度の強調事項と方向性を与えてくださいました。皆さま、そして地区が行動を起こすとき、素晴らしいことが成し遂げられるでしょう。

過去の功績は、ロータリーの未来に続く序曲にすぎません。2010-11年度の会長強調事項を実践すれば、ロータリーはより良い地域社会と世界を築くことができるでしょう。これを実現できるかどうかは、ロータリー世界の指導者として選ばれた皆さまの手にかかっているのです。早速、仕事に取り掛かろうではありませんか。

ロータリー会員状況の概観

ジョン T. ブラウト
RI理事

私は、今回の国際協議会に臨むにあたって、3つのことを依頼されました。1つは現在と過去のロータリー会員の統計を紹介すること、2つ目は昼食の直後、午後2時に皆さんにそれをお話すること、そして3つ目はロータリー世界の各地域によって状況が異なることをご説明することです。

私は喜んでこの依頼をお受けしました。

正直に申しますと、会員増強についてお話しする依頼を受けたときは大変驚きました。なぜなら、かつて自分も、入会して以来、会員増強を気にしたことのない9割のロータリアンのうちの1人だったからです。米国北カリフォルニアにある私のクラブには当時、65人の会員がいて、私はこれがちょうどいい規模だと考えていました。

4年間、新会員を推薦しようなどとは考えたこともありませんでした。それが変わったのも、不純な動機からでした。クラブ会長エレクトになって、ニュースレターや配布資料を作るのに、印刷関係者が必要だと思ったのです。そこで推薦した新会員が、印刷会社「Wine Press」のオーナー、ジム・コリーさんです。

昔を振り返ると、当時の私はつくづく物事を知らなかったと思います。クラブは、会員が増えればいいというだけではなく、新しいアイデアやエネルギー、リソース、考え方、機会が必要なのです。会員増強は、会員数だけの問題ではなく、発展や活力、倫理にも関係することなのです。

ロータリーの先駆者には成長への情熱がありました。創設から10年間は、毎年、会員数が2倍以上に増える勢いでした。続く10年間に、ロータリアンの数は毎年平均20パーセント以上増え続け、世界的な拡大ムードが高まりました。

初期にこれほどまで信じがたい成長が遂げられたのはなぜでしょうか。

それはロータリーのコンセプトが新しく、ユニークなものだったからです。事業や専門職に携わる選りすぐりのリーダーが、助け合いの精神の下、倫理的な価値観を尊重し、市民としての誇りをもって活動する、それがロータリーという組織です。

成長に向けて、ロータリーは組織精神を持つようになりました。クラブを始めるために世界各地に人々を派遣し、成長に寄与した人には報酬を払ったほどです。新しいクラブの結成方法から規定、クラブの運営方法に至るまで指導していました。

ロータリーが急速な発展を遂げたのは、チェス・ペリー、アーチ・クランフ、ブルー・ブルニアー、ポール・ハリス、カナダ、カルガリーのジム・デイビッドソンなど、休みなく活動に全霊を捧げた先人の苦労があったからでした。「ビッグ・ジム」の愛称を持つジム・デイビッドソンは、献身的なロータリアンの鑑のような人でした。1928年から1931年まで、自己資産の250,000ドルをはたいて妻と娘を連れ、2年半、ヨーロッパからアジアまで241,350キロメートルを旅行し、東ヨーロッパ、アジア、中東の主要都市に23の新クラブを作りました。ロータリーの発展を促した要因は至って明快です。新しくユニークなコンセプト、意欲的で結束した組織精神、献身的な指導者の成長に対する情熱があったからです。

1925年から1955年までは、年率5パーセント近い成長がありました。世界恐慌のあった2年間と第二次世界大戦の2年間に見られるわずかな減少を除いて、毎年10,000人から15,000人の増加があった計算になります。

1950年代、60年代、70年代、80年代、90年代は、1.5パーセントから4パーセントまでの年率、つまり、毎年12,000人から40,000人ほどの増加がありました。

こうした成長が維持できたのはなぜでしょうか。

1つには、成功がさらなる成功を生んだと言えます。事業、専門職、教育の関係者の間には、ロータリーが時代の先駆者の集まりであるという意識が常にありました。事業を成功させ、地域社会を築き、子供たちを育み、世界理解を広めることができるような豊富なリソースを持つ有力者の集まりがロータリーだと考えられていたのです。

世界情勢もロータリーの形成に影響しました。倫理観に欠ける工業化、世界恐慌、第二次世界大戦、超大国の核競争などの影響を受け、ロータリーのプログラムと活動の焦点が定められ、これに惹かれた有力者が大勢集まってきました。

ロータリーが成長を続けられたのは、豊富なリソースを持つ会員が集まり、深刻な社会問題に取り組むための実践的で目に見える解決方法を生み出していったからです。

ところが1997年になって突然、急成長にブレーキがかかりました。以来6年間、会員数は年々減少し、これまでにない縮小となりました。ある一年を除いて、増加はほとんど見られず、成長があってもわずか0.1パーセントにすぎませんでした。

ロータリーの指導者と職員は、あらゆる方法でこれに対処してきました。研修やスピーチを行い、地区やクラブに対して会員増強を強調してきました。会員の人口構成について、より詳細なデータを集めるようになりました。アンケート調査、座談会、データ分析を行って、「マーケット」におけるロータリーの位置づけを戦略的に分析し始めました。会員増強を推進し、会員状況をモニターする組織的な構造もつくりました。

組織的には、規定審議会、理事会とRI委員会の決定を通じて、会員に関する従来からの規定や伝統を見直し、修正を加えてきました。

ここ数年間は安定し、わずかな増加も見られます。そして今日に至ります。

全世界のロータリー・クラブ、地区、地域の指導者へのアンケート結果を踏まえて、会員増強は、長期的な最優先事項、あるいはその一つとなりました。これは皆さまの地区でも同じだと思います。地区内のロータリー・クラブがこれからも力強く活発に活動を続けられるよう全力を尽くされていることと確信しています。

私たちは組織全体の長期的な決定を下さなければなりません。しかし、地域によるわずかな違いが、それぞれのアプローチに影響を及ぼします。これからの数分間で、各地域において会員増強をどのように実践していくべきかについてお話したいと思います。個々のアプローチが世界全体の計画にどのように位置づけられるか。どういった方策が効果的か。それぞれのアプローチは、隣の席のガバナーとは違っているはずです。

ここでご紹介するデータから、皆さんの地域で次年度にどのような特有の課題が存在するかが見えてくことと思えます。

まず始めの表は、地域別の会員増減を示しています。各地域がどのようにグループ分けされているかもわかります。会員の人口構成が変わっていることにご注目ください。

年齢の統計を見ると、次世代の事業、専門職のリーダーに焦点を当て、彼らにふさわしい活動を行う必要があることがわかります。また、近い将来、皆さんの地域でロータリーを健全な状態に保ち続けられるかどうか、ここから予想がつきます。

クラブの寿命分布からは、会員を維持するためによりよいプログラム作りをすべきか、または従来とは違い、会員が頻繁に入れ替わることを受け入れるべきかを判断することができます。

退職した会員と現役の会員を比べたデータからは、クラブの長期的な健全性がわかるとともに、地元で職業関連のネットワークづくりの機会が魅力となっているかがわかります。

ロータリー・クラブの規模に関するデータは、クラブの拡大と終結をどのように管理するかについて興味深い情報を与えてくれるでしょう。ここ数年間、新クラブに頼って会員増強を進めてきましたが、このやり方は最善でない可能性があります。

そして最後に、地域別の男女比の推移が、国や文化によっては、今ご紹介したすべての統計の指標となっていることがわかります。

地区とクラブがロータリーの確かな未来を築いていくために、国際ロータリーの優秀な職員と地域レベル、また国際レベルのリーダーが皆さんを支えてくれることをどうか心に留めておいてください。

会員業務ブースで配布される会員増強資料には会員組織の詳細なデータが含まれています。このような統計は、会員増強担当部から定期的に皆さんの元へ届けられることになっています。

さて、先ほどお話しした私のロータリー・クラブはその後どうなったのかをお話ししましょう。あれから25年経った今、大きな成長を遂げました。会員数は106名となり、11年前には新しく朝食クラブを結成しました。このクラブには73名の会員がいますから、人口7,500人の町に179人のロータリアンがいることになります。

どうやってここまで成長できたのかと申しますと、会員増強活動によって実現したではありません。ずば抜けた会員増強のエキスパートがいた訳でもありません。会員の数を増やそうと思ったからでしょうか。いいえ、ここまでやってこられたのは、私たちが生き生きと活動するようになったからです。成長とは、機会であり、活力であり、影響であり、貢献です。成長しない選択肢などあり得なかったのです。

現在、世界のどの地域でも、ロータリーにとって成長しないというオプションは考えられません。

私たちには他にないモデルがあります。私たちは、互いを尊重し、同様の価値観を共有し、他者へ奉仕するという責任感を持ったリーダーたちが世界の多様な地域に点在する、大変ユニークな存在です。世界は私たちロータリアンを必要としています。

ドイツ財団、世界保健機関、国境なき技師団をはじめ、政府、非営利団体、企業などが長い列をなして、将来、ロータリーとともに活動に取り組みたいと望んでいるのは、彼らがロータリーはどのような組織で、どのような使命をもって活動しているかを理解しているからにほかなりません。

20世紀初頭の米国の有名な実業家、アンドリュー・カーネギーはこう言いました。「私の工場から人がいなくなれば、工場の床に草が生えてくる。しかし、工場がなくなっても人が残れば、新しくてさらに素晴らしい工場ができるだろう」

ロータリーの奉仕活動、善行、プログラム、プロジェクトは、まさに工場のようなものです。人がいなければ、その工場の床に草が生えてくるのです。しかし、力強く、聡明で、能力のあるロータリアンがいれば、工場、つまり私たちの活動は生き生きと継続されていくのです。

成長しないこと、人に投資しないことは、ロータリーにとって考えられません。

サンフランシスコのハイアット・リージェンシー・ホテル最上階のレストランで、友人と食事をしていたときのこ
とです。その部屋は360度ゆっくりと回転する仕組みになっていました。一日の終わりの一杯をゆったりと楽し
んでいたところ、窓の外に街の廃退した地域が見えました。東側のどんよりと汚染された空気の中に、無機質
なビルや古びて人気のない工業地域が広がっていました。友人との会話を続けていると、窓の景色は移り変
わり、美しい海にかかるゴールデン・ゲイト・ブリッジと息をのむほど壮大な夕日が目の前に現れました。これ
は、ほんの数分のうちに、部屋の角度が数度変わっただけで起こった変化です。角度を少し変えただけで、こ
れほど圧倒的な美しい景観を見ることができたのです。少しの変化が、これほどの違いをもたらしたのです。

21世紀にロータリーのモデルは古く、ロータリーの時代は終わった、世界はもっと複雑で、人々は常に多忙、
職場で裁量権をもった人々を見つけるのは難しく、彼らを引きつけるのはもっと難しいと言う人がいます。

私は、今こそ、ロータリーが繁栄するときだと思うのです。今の世の中はこれまでになく冷たく、ビジネスは
100年前よりもずっと不透明で、リーダー不在の時代です。

私たちのやり方の角度をほんのわずか変えれば、次世代のロータリアンの素晴らしい展望が開けるはず
です。

ガバナー・エレクトの皆さま、私からのお願いは、各地域で時代にそぐわず古錆びてしまったロータリーの習
慣は何か、また時代を超えて不変の伝統は何かを見極めていただきたいということです。その上で、ロータリー
が歩み始めた頃からやってきたこと、「より良い地域社会と世界をつくるために、未来をつかみ取り、形づくっ
ていくこと」です。

未来に向けてのビジョン

ルイス・ビセンテ・ジアイ 元RI会長

ロータリーの輝かしき歴史における数々の功績を祝うため、この国際協議会にお集まりくださった2010-11年度ガバナーの皆さん。ロータリーがこれからも卓越した奉仕団体であり続けていくため、この歴史を土台に、今度は皆さんにリーダーシップを発揮していただくことになります。

皆さんは一人ひとりが、今の現実と将来の希望とを、同時に背負っています。

ガバナー年度には、この赤紫色のブレザーを着て地区内各所へ赴くことになるでしょう。そして、全力投球した瞬く間の年度の終わりを迎えるその時、皆さんは「地区内クラブの強化のために、自分は全力を尽くした。ロータリーに何かを残すことができた」という感慨に浸るに違いありません。これこそ、ガバナー冥利に尽きる瞬間と言えましょう。

皆さんの行く手には、無数の課題と仕事が待ち受けています。クリンギンスミス会長エレクトが話されたように、これらの課題や仕事には多くのステップが伴います。会長エレクトは、クラブと地区には秩序と行動を、ガバナーには先見性のあるリーダーシップの発揮を期待しておられます。

先見性あるリーダーシップの下での秩序と行動について、いくつか皆さんにお尋ねしたいとます。地区内のクラブが後世に残すものは、何でしょうか。地区ガバナーである皆さんにとって、クラブの業績として語り継いでいって欲しいと思われることは何でしょうか。このような機会に恵まれた今、ロータリー・クラブとロータリーに対する皆さんの責任とは、一体どのようなものでしょうか。

皆さんはそれぞれ、夢を描き、ロータリーの奉仕に対する熱き思いを胸に、長時間に及ぶ研究、分析、準備の末、入念な計画を立てておられることでしょう。そこで、一緒に考えていただきたいことがあります。現在、ロータリーの最も優れた特徴は何でしょうか。また、ロータリーが最も必要としていることは何でしょうか。

私たちが何よりも必要としていること、それはクラブと地区の未来のための前向きで長期的な方向性です。慎重に長期計画を立て、これを会員にしっかりと伝え、実施していくことです。この計画は一貫性を備えた包括的なものでなければならず、知性と先見の明をもって実行されなければなりません。緻密で明確な上によくまとまっており、何よりも、最も重要な実行の担い手となるクラブに焦点を当てた計画。これこそが、ロータリーが必要としているものです。ガバナー年度中に先見性あるこのようなステップを踏むことが、当組織の最も重要なニーズに向けて皆さんが後世に残すことのできる貢献です。皆さんは、長期的な影響をもたらす多大な貢献を、短期間で果たすことができるのです。

未来の計画とは何を意味するのか。それは、目的地に至るためのロードマップ（計画予定）、青写真、飛行計画、行き方を定め、万全の準備を整えることです。どの道を進むかがわかっているならば、目的地に到達しやすくなるものです。ロータリーもこれと同じです。

国際ロータリーとロータリー財団はいずれも、2つの長期計画の立案において大きく前進しました。これら2つの計画の目的は異なっていますが、類似しています。各計画とも明確なビジョンと使命を備え、効果的に実行されています。掲げている目標も、似ていますが、同じではありません。

ロータリーのシニア・リーダーは、未来へ向けた計画の重要性を認めています。RI理事会は、慈善団体の世界におけるロータリーの位置づけ、世界におけるロータリーの認知、ロータリーのあらゆるレベルにおける会

員の考えやアイデアについて、継続的に評価を行っています。過去12カ月間、RIでは、世界14,000人以上のロータリアンを対象にアンケート調査を行い、世界各地でフォーカスグループ（座談会）を実施し、ロータリーの指導者やロータリアンからの意見を集めてきました。11月の理事会会合でこうした意見を吟味し、調査結果に基づいてRI長期計画に修正を加えました。

こうして打ち出された国際ロータリーの新しい長期計画は、包括的なものであり、一般の人々、会員候補者、協力団体から選ばれる奉仕団体としてのロータリーを思い描いています。理事会は、以下の3つの優先項目を承認し、これらをロータリーの未来のよりどころとすることに同意しました。

- クラブのサポートと強化
- 人道的奉仕の重点化と増加
- 公共イメージと認知度の向上

この新しい計画は理事会によって承認されましたが、2010年の実施に向けてさらに練り上げていく必要があります。本セッションの後、本会議場の外にある会員業務ブースにこの長期計画をまとめたパンフレットがありますので、ぜひお読みください。今後も新しい情報が皆さんに提供される予定です。

一方、ロータリー財団の未来の夢計画は、現在、既に導入が進んでいます。プログラム、運営、管理のモデルとなる未来の夢計画は、財団の能力を高め、将来の課題に備えることを目的としています。

これら2つの計画はいずれも、ロータリーの世界的使命と目標をクラブと地区のリーダーが理解するための貴重なりソース、手段となると同時に、クラブと地区が未来の活動とビジョンを盛り込んだ独自の計画を立てる上で役立つものです。

地区リーダーシップ・プランとクラブ・リーダーシップ・プランは、年次計画と長期計画を支える目的で立案されており、いずれも、地区とクラブが堅固な土台を築くための有用な手段となります。プランの推進にぜひとも皆さんのご協力をお願いいたします。

なぜクラブと地区に長期計画が必要なのか、特に、クラブと地区がなぜRIとロータリー財団の世界的な長期計画を念頭に計画を立てる必要があるのか、と疑問に思っている方もおられるでしょう。ロータリーでは毎年指導者が変わるため、その結果、交代や刷新が目まぐるしく起こります。このような変化は健全なものではありますが、思考や行動の一貫性を保つのが難しくなります。指導者の交代周期が短いために、継続性と存続性の面で課題が生じるわけです。

中期的、長期的な計画を立てれば、クラブと地区が、活動を単なる毎週、毎月、毎年の行事とみなすことがなくなり、3年から5年の目標を定めて取り組めるようになるでしょう。現在の問題に立ち向かい、解決に向けて今日と未来の世代のリーダーに参加してもらうためには、柔軟性を備えた明確な活動目標、すなわち長期計画こそが組織のよりどころとなるのです。ロータリーが必要とするのは、まさにこれです。

では、地区とクラブでこのような計画を立てる目的は、一体何でしょうか。それは、リーダーシップの継続性と、活動やプログラムの一貫性を図るための目標を定めることです。

地区を例に取れば、会員増強、プログラムの開発、ロータリーの青少年クラブとの協力、ロータリー財団の支援と参加、新しいリーダーの育成、広報の改善へと向けた目標を定めることです。こうした目標の実行に最適な手段となるのが地区リーダーシップ・プランであり、現ガバナー、次期ガバナー、ガバナー・ノミネーターが計画を立て、これを実行することが肝要です。先ほどから申し上げているように、活動に継続性を持たせるには先見性あるリーダーが必要なのです。

一方、クラブでは、地元で計画し、推進している有意義な活動に参加することで、会員の所属意識が高まります。クラブの方向性が定まり、目標が明確に定義されれば、クラブは劇的に改善されるでしょう。

未来の計画を積極的に立てているクラブと地区の多くは「次の次元」へと進んでいますが、私たちはさらに加速して前進する必要があります。よく構成された計画を備えたクラブと地区が増えれば、ロータリーは、さらに堅固な土台を得て、組織としてもっと多くを成し遂げ、結束していけるでしょう。

地区とクラブで長期計画を実行する責任者となるのは誰か。地区が効果的な計画を立てられるよう援助することで、地区ガバナーは、変化を実現させることができます。ロータリーが必要としているのは、先見性ある皆さんのようなリーダーです。大きな変容を遂げることができるのは、優れた適応力を備えた、リスクを恐れない個人や組織であるということを、どうか忘れないでください。

朋友の皆さん、私たちは重要な時期を迎えています。未来に目を向け、100年の歴史に支えられながら、機能的な長期計画を備えた長期的ビジョンを描いた先見性あるリーダーとして、皆さんは歴史に残る機会に恵まれました。皆さんには、既存のものを改善し、足りないものを創り出す力があり、また、そうしなければならぬのです。

1961年、ジョン・ケネディ大統領は、10年以内に月への有人飛行を実現するという構想を発表しました。1969年7月20日、アポロ11号の月面着陸がテレビ中継され、彼の構想は実現されました。この実現には、リソース、計画、方策、努力、そして確固たる決意が必要とされました。

クリギンスミス会長エレクトは、皆さんに月飛行をお願いしているわけではありません。しかし、さらに大きく、豊かで、大胆なロータリー・クラブをつくるというロータリーの構想を現実のものとするために、会長エレクトは、月飛行に必要とされるほどのリソース、努力、知性、方策、そして確固たる決意を用いて、地区内のクラブをまとめ、先見性あるリーダーシップを発揮していくよう、皆さんをお願いしているのです。大きく考え、リスクを恐れないことです。でなければ、クラブがその潜在能力をフルに発揮することはできないでしょう。

ガバナー・エレクトの皆さん、どうか大きく考えてください。世界はロータリーを必要としています。そして、ロータリーと全人類への素晴らしい遺産を築くため、ロータリーは、偉大なビジョンを備え、それを達成できるクラブ、そして、皆さんのような偉大なロータリアンを必要としています。

皆さんのご活躍を心よりお祈りしております。

2010-11年度ロータリー財団の目標

カール・ヴィルヘルム・ステンハマー ロータリー財団管理委員長エレクト

本日は、次年度の財団目標について皆さまにお話しさせていただきたいと思います。基本的に、2010-11年度に私たちが重点をおくべき主な目標は4つあります。まず第一の目標は、ご存知の通りポリオ・プラスです。2番目の目標は、未来の夢計画試験段階の実施です。3番目は、「毎年あなたも100ドルを」を通じた年次基金の建て直しで、4番目は、将来プログラムを維持していくための恒久基金の発展です。

ポリオ撲滅は、達成の日が訪れるまで、これまで通りロータリーの最優先事項となります。ポリオ撲滅活動が始まったのは、フィリピンで3-H全国予防接種プログラムが実施された1970年代後半のことでした。このプログラムが大きな成功を取めたことから、ロータリーは、スイスのジュネーブで毎年開催されている世界保健総会で、ポリオ撲滅に関する議題を提起することを決定しました。1988年、ポリオ・プラス募金キャンペーンの成功が発表された直後には、世界保健総会の加盟国166カ国が、野生ポリオウイルスの感染を食い止めるという決議を満場一致で採択しました。こうして、世界ポリオ撲滅推進計画が誕生しました。

ポリオ・プラスが私たちのプログラムであるということを忘れてはなりません。ポリオ撲滅は私たちが決意した目標であり、ロータリーは今でも毎年、世界保健総会でポリオ撲滅について発表しています。この活動の主導者はロータリーであり、撲滅が達成されるまで、それは変わりません。世界保健機関 (WHO)、ユニセフ、米国疾病対策センター (CDC)、国連財団からの協力はありますが、私たちのプログラムであることには変わりはないのです。

私たちは、インターナショナル・ポリオ・プラス委員会と、2つのポリオ撲滅提唱グループを通じて、プログラムを監督しています。ポリオ撲滅提唱グループのうちの一つは、米国のみで活動し、もう一つのグループは、それ以外の各国で活動しています。この両グループの委員長は、インターナショナル・ポリオ・プラス委員会のメンバーでもあります。私たちは米国連邦議会を通じて米国政府と協力していますが、米国政府がプログラムへの最大の寄付者であることから提唱グループのメンバーに米国のロータリアンを含める必要がありました。これが、ポリオ撲滅提唱グループが2つに分かれている理由です。世界ポリオ撲滅提唱グループは、国際的なメンバーから成り、世界各地に27人のポリオ・プラス全国提唱アドバイザーがいます。

ロータリーはまた、残るポリオ常在国において地域別または国別のポリオ・プラス委員会を設置しています。これらの委員会は、現地におけるポリオ撲滅活動へのロータリーの積極的な参加を促すほか、国や地方政府からの協力を確保し、協力団体との活動の調整を図っています。

大まかにご説明しますと、世界保健機関がプログラムの基盤を整え、デンマークのコペンハーゲンに大きな貯蔵庫を有するユニセフがワクチンを確保し、ロータリーが資金集めを行っています。

プログラムの資金管理は、ポリオ撲滅提唱グループ (PAG) が行っています。このグループは、前述した各協力団体の代表者1名ずつで構成され、職員がその支援に当たっています。最近では、ビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団が、このグループの活動に加わりました。ポリオ撲滅提唱グループの使命は、各国で行われる全国予防接種日に使われるワクチンのための資金確保など、必要なときに資金が利用できるようにすることです。ポリオ撲滅提唱グループは、プログラムにおいて非常に重要な役割を果たしていることから、グループは、毎月第二木曜日に電話会議を開き、3カ月ごとに参加団体の事務所で持ち回りで会合を開いています。例えば、最近の会合はワシントンDCにある国連財団の事務所で行われました。次の会合はジュネーブにある世界保健機関の事務所で開催される予定です。これまで、ポリオ撲滅提唱グループは、プログラムのためにおよそ50億ドルを確保しました。この資金の大部分は公共部門の寄贈者から寄せられたものですが、この資金が1銭

たりともポリオ撲滅提唱グループに送られていないのは興味深い事実です。集まった資金はこれを利用する団体に直接送られます。一例を挙げると、日本政府からの寄付は、多くの場合、ユニセフに送られ、ワクチンの購入に使用されています。数年前には、スウェーデン政府から3千万ドルの寄付が寄せられましたが、それは世界保健機関に直接送られました。またゲイツ財団からの寄付はすべてロータリーに送られています。

これまで、ポリオ撲滅活動に39カ国の政府から寄付が寄せられました。私たちはこれらの政府に心から感謝しています。この世界的活動の大部分の資金は各国政府からの寄付により成り立っています。従って、これら政府の協力なしに、活動を続けることは不可能です。最大の寄付国は米国ですが、国民一人当たりの寄付額で見ると、人口の少ないルクセンブルクが最大の寄付国です。

私たちの最優先目標であるポリオ撲滅に向けた進捗状況については、また後ほど詳しく報告される予定となっています。

皆さまがガバナーとなる2010-11年度から未来の夢計画が始まりますが、これほど大がかりな計画がどうして始められることになったのかをご説明したいと思います。未来の夢計画は、細心の注意と入念な調べの下に立案されました。まず、2つのコンサルティング会社、グラント・ソートン社とジェファソン・ウェルズ社がロータリー財団の分析を行い、1万人のロータリアンを対象に総合的なアンケート調査が行われました。このアンケート調査の結果を基に、未来の夢委員会と財団管理委員会が、検討を重ね、未来の夢計画を形づくりました。

これまでロータリー財団は、多くの功績を収めてきました。しかし、変わりゆく世界において、財団も変わる必要があるという声が上がっています。今日、多くの団体にとって未来へのカギとなっているのは、他団体との協力です。ロータリー財団にとってもこれは同じです。財団が従来通りのやり方を続けていくなら、未来へと前進する機会を逃してしまうでしょう。私たちは、ビジョンと抱負を新たにしなければなりません。今の人々は、大義の下に団体を選び、支援する傾向にあります。従って、私たちは、ポリオ撲滅プログラムの経験から学んだことを生かし、大きなスケールで考える必要があるのです。

ビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団から補助金が授与されましたが、私たちがそのような多額な資金を扱うことができたのも、20年以上にわたり構築してきた管理運営体制があったからです。しかし、このような多額の、あるいはこれ以上の資金が、例えば水プログラムに寄せられたとしたら、その資金を効果的に管理し活用する準備がクラブと地区にできているかどうかは定かではありません。今日の財団の運営システムで対応することができるでしょうか。今後、ポリオ撲滅以外の活動に多額の資金が寄せられる可能性は十分にあります。ロータリーが、米国国際開発庁 (USAID) と組んで、ガーナ、フィリピン、ドミニカ共和国の3カ国で水問題に取り組む試験的プログラムを始めたのは、このためです。小規模ではありますが、この試験的プログラムが成功すれば、今後多額の寄付が寄せられる可能性が出てくるでしょう。成功しないと信じる理由などありませんから、私たちはこれに備える必要があるのです。

未来の夢試験地区として選ばれた100地区が、この数日間にここサンディエゴで特別研修を受けましたが、これは、試験地区以外の431地区が、試験地区の様子をただ傍観しているだけでよいということではありません。試験地区であるかどうかにかかわらず、すべての地区が、未来の夢計画の進展に目を向け、夢計画の目標と重点分野に沿ったプロジェクトや活動を始める準備をできるだけ早く整える必要があります。未来の夢計画は継続していくものです。試験段階の目的は、課題や改善点を見極め、効果のあった点を発展させて未来の夢計画の完成度を高めていくことです。私たちは多くの経験や知識を備えていますが、すべてを知り尽くしているわけではありませんから、時には修正も必要になります。試験段階を必要とし、世界中の地区からの意見を求めているのは、このためです。

未来の夢計画では、地区とクラブにこれまで以上の柔軟性が与えられ、責任をもって資金を管理、運用してもらうことになります。ロータリー財団が皆さまの財団であるということを忘れないでください。地区とクラブが資金を独自に管理するようになれば、世界本部の職員がそのほかの仕事に当たることができるようになり、ゆくゆくこれが、ロータリー財団の未来における発展にもつながっていくでしょう。

財団への大きな改善事項については、本日昼食後の本会議でさらに詳しく説明される予定です。

ロータリー財団の成功には募金活動が欠かせません。私たちは、すべてのロータリアンが毎年寄付を行うことを願って、ここ数年、「毎年あなたも100ドルを」をスローガンとして掲げてきました。100ドルが大金だと感じる方がいる一方で、もっと多くの寄付ができる人もたくさんいます。一人ひとり、各自に見合った寄付を行っていただきたいのです。財団に寄付を行っているロータリアンはわずか25パーセントで、残る75パーセントは寄付を行っていません。この数字を変えることができたなら、あるいは100パーセントのロータリアンが寄付者となったなら、どのようなことが実現できるかを考えてみてください。

私たちは、複数の募金活動を同時に実施しています。第一に行っているのが、年次基金への寄付を呼びかける「毎年あなたも100ドルを」推進活動です。従来、年次基金への寄付は、3年間投資され、その収益ですべての管理運営費を賄った後に、シェア・システムを通じて寄付が地区とクラブに戻されてきました。この投資方法では非常に大きな効果があり、1990年代後半には、多額の投資収益が生まれ、「子供たちのための機会補助金」、「ポリオ・プラス」、「マッチング・グラント」のようなプログラムにおよそ1億ドルが充当されました。しかし2008年9月、世界市場が大きく下落すると、ロータリーの投資収益もその影響を受けることとなりました。通常、市場が下落してもその影響を受けるのは限られた投資部門だけでしたが、今回の場合は、全部門に影響が及びました。いずれの部門においても良好な投資収益が生み出されなかったため、私たちの分散投資をもってしても太刀打ちすることはできませんでした。ポリオ撲滅活動には多くの寄付が寄せられている一方、年次プログラム基金への寄付は減っています。資産の減少により、年次プログラム基金では、投資収益で管理運営費が賄えなくなったため、ご寄付に頼らざるを得なくなりました。

このような状況を踏まえ、事務総長は、委員会会合や職員の出張の数を減らしたり、職員への昇給を停止するなど、いくつかの経費削減手段を取りました。財団の運営予備金を回復させるための小委員会が任命され、既に2回会合を開いています。財団投資諮問委員会は、現在、財団管理委員会に提案するための新しい投資方針を検討中です。私たちは、マッチング・グラントの数を減らし、研究グループ交換については2010-11年度以降、1年につき派遣できるチームを1チームのみと制限することを余儀なくされました。また、未来の夢計画において6つのプログラムが段階的に廃止される予定でしたが、そのうちのマルチイヤー国際親善奨学金、文化研修のための国際親善奨学金、大学教員のためのロータリー補助金、ボランティア奉仕活動補助金、災害復興補助金は、予定よりも早めに廃止しなければならなくなりました。このほか、3-H補助金が、米国国際開発庁との協力を通じて行われる水プロジェクトのみに支給されることになりました。

年次基金を中心にお話してきましたが、恒久基金も忘れてはなりません。恒久基金は当初、年次プログラム基金への財政支援を目的に設立されたものですが、今では財団の主要なプログラムとなった平和および紛争解決の分野における国際問題研究のためのロータリー・センターも支援しています。

現在、これまでも増して、皆さまからのご寄付が必要とされています。皆さまへの還元が少なくなったにもかかわらず、これまで以上のご寄付を求めるとするのは、虫がよすぎるお願いかもしれませんが、しかし、このような厳しい状況にあればこそ、皆さまのお力が必要なのです。皆さまからのご支援をもってすれば、この困難な時期を乗り越え、健全なロータリー財団を維持していくことができるでしょう。どうか引き続きのご支援をお願い申し上げます。

ポリオ・プラスの最新情報

ペニー・ルゲイト

シアトルKIRO-TV 7局「Eyewitness News」

リポーター／特別プロジェクトプロデューサー

ロータリアンである皆さんは、今、躍動の時を迎えています。なぜなら、人類が描いた壮大な夢の1つ、世界的なポリオ撲滅の達成を目前に控え、最後の追い込みの時期にあるからです。あと一息というところですが、この最後の一押しが容易ではありません。そこで本日は、全世界のポリオの状況についてお話しし、この偉大なる試みの成功のカギはグローバルな奉仕組織全体ではなく、その中で活動する一人ひとりが握っているのだと私が考える理由を、皆さんにご説明したいと思います。ロータリーがこれほどの功績を残すことができたのは、一人ひとりの力があってこそと、私は信じているのです。

皆さんがロータリーに入会した理由は何でしょうか。ロータリアンになりたいと思ったのはなぜでしょうか。また、周りの人々やポリオのような問題に心を配るのはなぜでしょうか。それは皆さんの人生で、誰かが、いつか、どこかで、自分を支え、応援し、助言を与えてくれたからではないでしょうか。その誰かのおかげで、皆さんはご自分の個性と才能を信じるのができたに違いありません。

では、それは皆さんにとって誰だったのでしょうか。心の中に、今、その人物が見えているはずですよ。親や兄弟、または先生や友人かもしれません。私にとっては、父テッドと母メアリーがその人でした。私は3人兄弟の真ん中で、中西部のごく平均的な家庭に育ちました。愛情豊かな家庭でしたが、金銭的に恵まれていたわけではありません。食べ物に困ることはなく、学校へ行くために新品の靴も買ってもらえましたが、お金持ちではありませんでした。父は私によくこう言ったものです。「多くを与えられた者は、多くを期待されている」と。

当時の私には、その真の意味が理解できませんでした。その意味がわかり始めたのは、エズラ・テショメさんから誘いを受けて2002年にロータリーの旅行で初めてエチオピアを訪れたときのことでした。エチオピア育ちで、現在シアトルに住む、ロータリアンの模範ともいべきテショメさんは、毎年、50人を率いて母国に帰り、全国予防接種日に参加しています。彼は1人の力で大きな変化をもたらしている人物です。彼はチームを率いてエチオピア国内を回り、村の子供たちに予防接種を行いながら、異文化を吸収しています。テショメさんは、母国の人々の生活を変えているだけでなく、一緒に旅した人の人生にも変化をもたらしているのです。

この旅がきっかけで、私はポリオ撲滅活動に打ち込むようになりました。2002年以来、7回、旅に出ました。そのうち1回は夫を連れて、またある年は17歳になる娘のモリーを連れて行きました。これは私から娘への最高の贈り物になったと思います。

滞在中の私の仕事はポリオについてテレビ中継をすることでしたが、時にはカメラを離れて、貴重なワクチンの一滴を子供たちに投与したりもしました。それはとても感動的な瞬間です。腕に抱えたその子供が一生ポリオにかからずに済むのですから。

道中数々の冒険がありましたが、中でもあどけない子供たちに出会えた経験は大変特別な思い出です。彼らは、家族の結束の大切さについて、また貧しくても幸せに暮らせることについて教えてくれました。

昨年2月、私の大きな夢が叶いました。カリフォルニア州、第5240地区の元ガバナー、アニル・ガークさんと、全国予防接種日のためにインドを訪れる名誉にあずかったのです。北部のウッタルプラデシュ州とビハール州にある人里離れた農村を回りました。インド出身のガークさんは、2000年以来、協力者を連れて、母国を訪れています。その優しい物腰からは想像もつかないような、非常に大きなパワーを秘めています。ガークさんはインドの地域社会のリーダーと会ってポリオ撲滅への協力を働きかけ、黄色のジャケットを着てポリオ・プラス・プログラムを広め、人々の認識を高めるようと奮闘しています。このような不屈の精神と行動力を持つガー

グさんと一緒に旅する機会に恵まれたチームメンバーは、その後、どんなプロジェクトにも果敢に取り組もうという勇気が沸いてきます。これが1人の人間が持つ驚異的な力です。

ここで皆さんにお伺いします。ポリオ撲滅キャンペーンで全国予防接種日に参加したことのある方はどのくらいいらっしゃいますか。

ポリオ撲滅の使命は、ロータリーという存在の中心にあり、活動の中核を成しています。私はレポーターとして、ロータリーのポリオ撲滅活動取材することに情熱を感じていました。特に、1985年に地球上からポリオをなくそうと、壮大で崇高なこの使命への取り組みをロータリーが決意したときは感動的でした。それから間もなく、世界保健機関（WHO）、ユニセフ、米国疾病対策センターが、ポリオとの闘いに参加するようになりました。また、各国政府も協力に加わりました。その後、資金が先細りになり、活動の勢いが衰え始めたとき、新たに強力なパートナーが登場しました。それがビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団です。

ゲイツ財団が私の地元シアトルにある関係で、ビル・ゲイツ・シニア氏やポリオ撲滅活動の関係者をはじめ、ゲイツ財団の多くの人と話をすることができました。皆そろって、ロータリーのリーダーシップと貢献を称えています。ゲイツ財団は2回にわたる巨額のポリオ補助金、総額3億5,500万ドルを、世界保健機関、ユニセフといった他団体ではなく、あえてロータリーに授与しました。それは、ロータリーがポリオとの闘いの前線に立ち続けてきた最も心強いパートナーであると、ゲイツ財団が理解していたからにほかなりません。それだけでなく、この補助金に自らも資金を上乗せすると約束したロータリーを高く評価しています。

ゲイツ財団のウェブサイトにも、次のようなビル・ゲイツ氏の言葉がありました。「ロータリーが存在しなければ、今の世界は違っていただいでしょう。また、将来も、ロータリーがなければ、私たちが目標とする世界にたどり着くことはできないでしょう」

ここで簡単に振り返ってみると、ポリオ撲滅活動は、1985年から、驚異的な進歩を遂げてきました。当時は125カ国がポリオと闘い、毎年新たに35万件の発症が報告されていました。2010年の今、常在国はわずか4カ国となり、毎年発症件数は全世界で2千件を下回っています。これは信じがたいほどの功績ではありませんか。この功績に拍手を送りましょう。

現在、常在国として残っているのは、ナイジェリア、パキスタン、アフガニスタン、インドの4カ国です。各国はそれぞれ特有の課題を抱えています。一つずつ見ていきましょう。

まず、ナイジェリアでは大きな課題が残されています。2003年、ナイジェリアの北部では、ワクチンが安全ではないという噂が広まったために、ポリオ予防接種活動が1年間中断される事態が生まれました。その結果、ナイジェリアではウイルスが急速に広まり、ポリオがなくなったとされていたアフリカのほかの国でも再感染が見られるようになりました。国際的な各保健機関やビル・ゲイツ自身もナイジェリアの指導者と直接会い、現状を打開するための懸命な働きかけを行いました。しかし、実際は、さまざまな要因から多くの子供たちが予防接種を受けていないというのが現状です。ナイジェリアでは、第1種と3種の両ポリオウイルスが未だに猛威を振っています。去年は、発症を抑えるため、全種のウイルスに効くワクチンが新たに導入されました。最近では、政治、宗教、地域社会の各リーダーがポリオ撲滅プログラムに大いに協力するようになり、進展が見られています。

パキスタンでは、社会基盤の欠如に加え、治安と政情不安が大きな問題となっています。最近までは、遠隔地に赴くことが困難な状態でした。ポリオが一度なくなった地域でも新しく再発しているという報告が届いています。こうした状況の中でも、現在は予防接種活動において携帯電話のテクノロジーが大変役立っているそうです。医療チームが遠く離れた村の住民に携帯メールを送り、全国予防接種日の予定を知らせています。

アフガニスタンの予防接種活動が直面している難関は、紛争です。アフガニスタンもパキスタンと同様の問題を抱えており、社会基盤が不十分な上に、予防接種チームが遠隔地へ赴くのに、空襲、自爆テロ、暗殺といっ

た大きな障害が立ちをはかっています。しかし、タリバン勢力でさえも、子供たちをポリオから守ることに関心を寄せており、保健員が銃弾や爆弾にさらされることなく予防接種が行えるよう、休戦の日が設けられるようになりました。

最後にインドについてお話ししましょう。1年前に全国予防接種日に参加したこともあり、人々であふれかえり、混沌としていながら色彩豊かなこの地は、私にとって特別な国となりました。この国における撲滅は非常に大きな課題です。まずこの国では、人口が10億人を超え、ポリオが最も流行している北部の州では、毎日8千人の子供が生まれています。そのほかにも、不衛生、病気、きれいな飲料水の不足といった数々の問題があります。それでもなお、政府と一般市民の両方が、ポリオを永遠に追放しようと決意を固めています。多くの保健専門家は、このように大きな問題を抱えるインドからポリオを払拭することができれば、どの地域でも撲滅は実現可能だろうと考えています。

話は、ア Nil・ガーグさんのチームに戻りますが、私たちは現地でポリオとの闘いの表と裏、勝利と悲劇を見ました。ソヒという小さな村では、悲しい現実を目の当たりにしました。ミナクシと名づけられた1歳半の幼い女の子が数カ月前に、ポリオに感染しました。その子の祖母は、麻痺して力なく垂れ下がった女の子の小さな片腕を見せながら、尋ねてくるのです。「この子を治す薬はありませんか」と。ガーグさんは、ポリオに治療法はないことを説明しなければなりません。幼いミナクシちゃんは、予防接種を受けていなかったのです。

これは悲しい話ですが、インドでこのようなケースが稀であるということは唯一の救いです。インドでは人口が多い上に、村々の距離が離れているにもかかわらず、すべての子供に予防接種を行うという見事な記録が達成されています。ビハール州では、毎年大洪水の被害を受けている地域を訪れました。車で険しい道を進み、ボートで川を渡り、さらに徒歩で向かった先には、人里離れたサグレイ村がありました。そこには、予防接種チームが懸命に働く姿がありました。ポリオとの闘いに身を投じ、ポリオが撲滅されるまであきらめることなく活動を続ける人たちに会うことができ、感動しました。パトナという街で出会ったナクル・プラサードさんのことは一生忘れられません。予防接種用の黄色のベストに身を包んだプラサードさんは、駅のプラットフォームを駆け抜けながら、子供の指に接種済みの印がついているかを見て回り、5歳未満のすべての子供たちが予防接種を受けたことを確認していました。休む間もなく活動を続けるプラサードさんは、私が写真を取れるよう数秒間立ち止まってくれたものの、ますますさま各車両を覗き込み、子供の指を確認して、予防接種を行い、すばやく次へ移っていきました。

ここでもまた、たった一人で変化をもたらしている人の姿を見ることができました。

私の言わんとしていることを、ビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団の共同委員長、ビル・ゲイツ・シニア氏が上手くまとめて説明してくださっています。新著「Showing Up for Life」でゲイツ氏は、1章全体をロータリーに捧げ、世界でポリオを撲滅するという難題について記しています。この本からの引用をご紹介します。

20年以上前、身近な問題に取り組んでいたボランティア活動がほとんどであった時代に、ロータリーは全世界でポリオを撲滅するという誰もが不可能と思うような、グローバルな取り組みを始めました。以来、ロータリーは普通の人々が世界を劇的に変えられるのだと、私たちの思考にも革新をもたらしてきました。

1985年、ロータリーは世界中の子供たちと約束しました。私たちはその約束を果たさなければなりません。大きく、力強い組織の一指導者として、皆さんは何を行っていかうとお考えでしょうか。多くを持つ者には多くを期待されている、ということをどうか胸に刻んでください。

最後に、インドとエチオピアの将来の姿をイメージして作った、アメリカのアーティスト、メアリー・チャピン・カーペンターの替え歌をお贈りしたいと思います。「10,000マイル」という歌です。この歌を選んだのは、ロータリアンの皆さんが、ポリオ撲滅に10,000マイル分またはそれ以上の活動を続けてきたと思うからです。今こそラストパートをかけるときです。ポリオのない世界は、すぐそこにあります。

未来の夢計画の最新情報

キャロライン E. ジョーンズ
元ロータリー財団管理委員

2010-11年度ガバナーの皆さん、こんにちは。

2010年7月1日は私たちにとって忘れられない日となるでしょう。これは、地区ガバナーとしての12カ月間の任期が始まる日であり、可能性あふれるロータリー世界への第一歩を踏み出す日となるからです。ロータリー財団にとっては、3年間にわたる未来の夢試験段階開始の一日目、すなわち、全世界での奉仕へ向けていっそう効果的、効率的、計画的な財団を実現するための旅立ちの日でもあります。

現在、ロータリー財団は変革の時を迎えています。これは、ロータリアンが財団に対し、過去数十年にわたって莫大な支援を行ってきたことよって必要となった変革といえるでしょう。過去60年間にわたり、ロータリアンは、国際親善奨学金を通じて115カ国以上から39,000人以上の奨学生を援助してきました。また、過去40年間に、29,000件以上のマッチング・グラント・プロジェクトを実施し、14,000組近いチームが研究グループ交換を通じて海外を訪問しました。

こうした数字はどれも目を見張るものではありませんが、これまでのロータリアンの活動をもってしても、需要に追いつくことはできなかったことを考えると、過去と同じやり方を続けるなら、今後も十分な活動は望めません。これに関連して、ある逸話をご紹介させていただきたいと思います。

1969年、アメリカ人宇宙飛行士が搭乗したアポロの月面着陸による興奮がまだ冷めやらぬ中、アメリカのある大手航空会社が、月への初の旅客飛行の予約を受け付けることを発表しました。離陸予定は2000年、殺到した予約者の中には、ロナルド・レーガン元米国大統領の名前もありました。この航空会社は、パン・アメリカン航空、通称「パンナム航空」です。1991年12月4日に倒産するまでは、アメリカ有数の国際線の航空会社でした。この話から学べる教訓は、何でしょうか。壮大な計画は素晴らしいことですが、未来は、一つ一つの決定とともに、日々展開していくものです。変化を遂げ、時代に即して適応していかなければ、最終目的地にたどり着くことはできないのです。

悲しいことに、20世紀のロータリー財団とその補助金構成は、もはや過去のものとなっしまい、21世紀の最終目的地へと私たちを導く役割を果たすことはできなくなりました。

これを踏まえて、財団管理委員会は、ロータリーの過去の数々の成功に甘んじることなく、財団がいかにして組織的に発展し、確かな成果を残していけるかを検討しました。こうして生まれたのが、未来の夢計画です。この計画では、3年間の試験段階が設けられ、理論を実践に移し、その結果に基づいて手続きをさらに練っていくこととなります。莫大な時間と労力をかけて計画と準備が行われ、財団の新たな一章が書き始められるのです。

管理委員会によって選ばれた、6大陸、74カ国の100地区が、未来の夢試験段階に参加します。世界のロータリー地区の半数が参加を申請し、これをわずか100の代表地区にまで絞るのは困難極まる作業でした。管理委員会は、地理、会員数、過去の補助金提唱経験、年次寄付と資金管理など、具体的な選考基準を定めました。最終的にロータリーのほぼ完璧な縮図とも言えるような試験地区のグループが選ばれたことによって、試験段階中、多様な観点から幅広く検討することが可能になり、そこから得た教訓を、全地区への新構成の導入に容易に生かすことができるでしょう。試験地区のガバナー・エレクトと地区ロータリー財団委員長、ならびにロータリー財団地域コーディネーターは、未来の夢計画と新しい補助金構成における各々の責務について、2日間の集中研修を終えたばかりです。

これら100地区にとって、今からお話しすることは2日間の研修の総まとめとなるでしょう。また、現行の補助金構成を利用し続ける431地区の皆さまには、未来の夢計画の発展について学び、積極的に関心を向けていただければ幸いです。

試験段階への参加地区が選ばれた今、今後3年間、皆さんと財団との関係はどのようなものになるでしょうか。2010-11プログラム年度より、試験地区は新しい補助金構成に沿って活動し、それ以外の地区は従来の財団プログラムの活動を続けることとなります。従って、試験段階の3年間、財団では2つの補助金構成が同時に進行されます。

2つの別々な構成によって、長年にわたる協力関係が崩れてしまうのではないかと懸念している方もおられます。しかし、試験地区とそうでない地区は、試験段階中も引き続き協力できる機会があることを、指摘させていただきたいと思います。この協力は、試験地区が提唱する新地区補助金、またはそれ以外の地区が提唱する地区補助金を通じて、比較的小規模な活動というかたちで実現されます。

2013-14年度には、新しい補助金構成がロータリー全体に導入されますが、試験地区でない皆さまにも、新構成への完全移行を待たずに、「未来の夢試験段階のニュースレター」を受信したり、定期的にRIウェブサイトや新しい補助金と未来の夢試験段階に関する最新情報をお読みになることをお勧めします。さらに、試験地区以外のガバナー・エレクトの皆さまには、この国際協議会で、試験地区の同期ガバナーと知り合いになり、新しい構成の下での体験について話し合っていくことをお勧めしたいと思います。また、現在の活動を、徐々に未来の夢計画の内容に合わせていくことをご検討ください。未来の夢計画の焦点を取り入れるのに、早すぎるということはありません。未来の夢計画は、次の6つの重点分野の目標を支援する、持続可能な活動を支えています。

- 平和と紛争予防／紛争解決
- 疾病予防と治療
- 水と衛生
- 母子の健康
- 基本的教育と識字率向上
- 経済と地域社会の発展

少しずつこれらを取り入れていくことにより、2013-14年度に新しい補助金構成に地区が移行する準備を整えることができるでしょう。

試験段階中に試行される補助金には、2つの種類があります。一つは「グローバル補助金」、もう一つは「新地区補助金」です。整理統合されたプログラムの選択肢は、未来の夢計画の第一の目的である「簡素化」を反映しています。未来の夢はまた、支援業務に関する財団理念の重要な転換を映し出すものでもあります。

今後の補助金構成では、国際親善奨学金やマッチング・グラントといった特定のプログラムに重きを置く代わりに、世界で最も差し迫ったニーズ、すなわち、子供たちへの学校教育、疾病の予防、経済発展、安全な出産、平和、きれいな水といった問題を取り上げた総合的な活動の開発が奨励されています。財団の使命声明に記されている6つの重点分野は、世界的なニーズへの取り組みにおいて大きな成果が得られるよう、ロータリアンの活動、努力、専門知識を結集させる上での指針となるものです。私たちは、ロータリー・クラブと地区が、重点分野の目標達成に向けて、今後も、奨学金や交換チームなど、人気の高い活動を多く取り入れていくものと予想しています。しかし、未来の補助金構成の下では、多面的な要素を取り入れた長期的で持続可能な総合的活動を開発するために、画期的なアイデアを駆使することができます。例えば、これまでマッチング・グラントの資金が使われていた井戸プロジェクトの代わりに、井戸の建設、井戸から農場へ水を引くための灌漑、種子、耕作機を引く牛、作物を市場で売買する事業のための小口融資などを組み合わせたプロジェクトが可能となります。

今ご説明したようなグローバル補助金では、どのような仕組みで資金調達が行われるのでしょうか。この点については、補助金を誰が、どのように立案するかによって異なります。グローバル補助金は、ロータリー・クラブや地区が立案するものと、あらかじめ立案されたパッケージ・グラントに分けられます。

クラブと地区が立案するグローバル補助金は、プロジェクトの実施や奨学生の派遣など、世界的ニーズへの取り組みにおいて既にロータリアンが実証してきた成功の上に築かれています。簡単に申し上げれば、多くの点において、この補助金は従来のマッチング・グラントおよび国際親善奨学金と類似しているということです。クラブと地区が現金もしくはDDF（地区財団活動資金）を拠出し、WF（国際財団活動資金）を利用することができます。

パッケージ・グラントは、協力組織と提携して財団が補助金を立案するものです。これらの協力組織は、専門知識と豊富な財政的リソースを備え、6つの重点分野のいずれかにおいて提唱を行っています。パッケージ・グラントの資金は、WF（国際財団活動資金）と協力組織からもたらされます。補助金の内容は既に立案されているため、クラブと地区は活動の実施を申請するだけとなります。ロータリーにとっては、協力組織との関係確立により、クラブと地区の奉仕の機会が広がるという利点があります。

新地区補助金は、これら6つの重点分野と必ずしも関連している必要はありませんが、財団の全般的使命を支えるものでなければなりません。新地区補助金では、地区がその年度に利用できるDDFの50パーセントまでが、年に1回、「一括で」支給されるかたちとなります。資金の使用に関する指針には柔軟性があるため、地区が補助金資金を管理することで、独自に選んだ活動を支援し続けることができると同時に、これまで長期にわたって協力してきたクラブや地区と引き続き活動していくことができます。この場合、相手が試験地区とそのクラブであるか否かは問われません。資金は、地元地域や海外における当座のニーズのために使用できます。例えば、地元学校への教材の寄贈、高卒者の就職援助プログラム、警察官から成るチームの職業研修など、小規模な社会奉仕プロジェクトに充てることのできるでしょう。これまで地区補助金を受領したことのある方なら、新地区補助金をどのようなロータリーの活動に利用できるか、理解しやすいのではないかと思います。

プログラム選択肢の簡素化に加え、資格認定と補助金申請のプロセスも合理化され、すべてオンラインで行われるようになります。補助金を申請するには、試験地区はまずロータリー財団から参加資格の認定を受ける必要があります。この認定手続きにより、地区における補助金管理の責任遂行能力が高まり、補助金資金の監督がさらに徹底され、申請、支払い、報告の手続きがさらにシンプルなものとなり、補助金活動を成功させるためにクラブと地区が利用できるリソースが増えることとなります。一言で言えば、認定手続きを経ることで、参加地区は、国際的な資金管理基準を理解することができるのです。試験地区は、この協議会の後、「会員アクセス」を通じて必要な認定書式をオンラインで入力することができます。グローバル補助金と新地区補助金の申請書式も、4月からオンラインで入力できるようになります。試験地区でない地区は、2012-13年度までこの認定手続きを経ることはありませんが、すべてのクラブと地区は、参加資格の規定について今から情報に通じておくことができます。すべてのクラブと地区にとって、これらの情報は、資金管理の国際基準を知るのに最適です。

では、未来の夢計画の成功をどのように測ることができるのでしょうか。この点に関しては、ここにおられる皆さんをはじめとする多くのロータリアン、そして世界中のプロジェクトの受益者からのご意見を大きく取り入れることとなります。もちろん、試験段階に参加するクラブと地区が、2013-14年度の全ロータリー世界での新補助金構成の導入に先立ち、管理運営プロセスをさらに練るためのフィードバックを提供してくださることになっています。これに加え、財団では、未来の夢計画の最終的な成功を計るマトリックスを作成するために、外部のコンサルティング会社も雇っています。

さあ、いよいよ開始の時がやってまいりました。私たちに課された未来の夢計画の実施という課題は、時として困難なものであるかもしれません。しかし、可能な限りの手段を用い、私たちの感性と知性を最大限に発揮し、これに臨まなければなりません。目標は高ければ高いほど、成功のチャンスが高まるという一見理屈に合わない素晴らしい結果が生まれるのです。

ロータリーと平和

カール・ヴィルヘルム・ステンハマー ロータリー財団管理委員長エレクト

1938年9月30日、当時の英国のネヴィル・チェンバレン首相がドイツ、ミュンヘンで署名した文書を手にロンドンに帰ったとき、「これからは平和の時代だ」と宣言されたはずでした。しかしその時代を迎えることなく、第二次世界大戦が勃発しました。

大戦後、ウィンストン・チャーチル首相がスイスのチューリッヒで、ヨーロッパにおける平和構築について講演を行いました。その講演の中で首相は、武器製造の主要産業である石炭と鋼鉄産業の規制について語りました。1950年、フランスのロベール・シューマン外相が、フランスとドイツの間で戦争を繰り返してはならないという願いの下に、欧州石炭鉄鋼共同体の創設を提唱しました。そして1952年、欧州石炭鉄鋼共同体が動き始めました。ヨーロッパの統合が必要であると確信していたシューマン外相は、欧州議会と欧州連合結成の立役者の一人と考えられています。

1957年、イタリアのローマで、ローマ条約を通じ、欧州経済共同体が設立されました。「人、物、サービス、資本の移動の自由」という4つの自由に基づくローマ条約には、ベルギー、オランダ、ルクセンブルク、フランス、西ドイツ、イタリアの6カ国が署名しました。その数年後の1960年、EFTAとして知られる欧州自由貿易連合が、欧州経済共同体の枠外にあったオーストリア、デンマーク、英国、ノルウェー、ポルトガル、スウェーデン、スイスの7カ国の間で設立されました。そして最終的に、欧州経済共同体と欧州自由貿易連合が統合され、今日の欧州連合 (EU) に発展しました。

これまで欧州連合の加盟国の間で戦争が起きていないことは興味深い事実です。チャーチルがヨーロッパで目指していた平和が達成されたという考え方もあるかもしれませんが、これは当初の彼の計画とは違ったシナリオだったのではないのでしょうか。

私たちは、平和と戦争という文脈のみで平和を語ることがしばしばあります。しかし、市民平和活動という形で平和を語ることもできるのではないのでしょうか。市民平和活動とは、「国と国の間の友愛 (フラタニティー) を推進する、兵器削減に貢献する、平和会議を開催する」とするノーベル平和賞の受賞基準によく言い表されているのではないかと思います。これには、市民平和活動のさまざまな可能性が秘められています。

2006年、ノーベル平和賞が、女性を主に対象とする小口融資を始めたバングラデシュのムハマド・ユヌス氏と彼のグラミン銀行に授与されたことは、皆さんの記憶に新しいのではないのでしょうか。しかし、その7年前の1999年にシンガポールで開催された国際ロータリー年次大会で、ムハマド・ユヌス氏とグラミン銀行に、ロータリー国際理解と平和賞が授与されたことを覚えている方は果たしてどのくらいおられるのでしょうか。ロータリーは、ノーベル平和賞委員会よりもいち早く、ユヌス氏の市民平和活動の恩恵に着目していたのです。私たちは、ノーベル平和賞委員会を負かしたこの事実を常に誇りに思うべきでしょう。

もう一つの例に、ギリシャ系住民とトルコ系住民との間で分断されているキプロスでの市民平和活動があります。キプロスでは、トルコ系の地区に所属するクラブと、ギリシャ系の地区に所属するクラブが計18クラブあります。私たちは数年間にわたり、これを変えようと努めてきました。そしてルイス・ジアイ元RI会長の働きかけもあって、2005-06ロータリー年度の2006年1月に、キプロスのニコシアで都市連合会が開かれ、キプロスの全18クラブが1地区の下に結合することになりました。これは、私たち全員が誇りにすべき市民平和活動です。

イスラエルには、「セイブ・ア・チャイルズ・ハート」と呼ばれる小さな病院があります。致命的な心臓疾患を患う子供たちのためのこの病院は、イスラエルのロータリアンの医師により運営されています。待合室には、アラ

ブ系、イスラエル系、パレスチナ系の母親や子供たちの姿が見えます。この母親たちは、宗教、政治、言語にかかわらず、ただ子供たちを救いたがために病院にやってきました。これも市民平和活動の素晴らしい一例です。

アフリカで実施されたポリオ撲滅キャンペーンでは、兵士が一旦武器を置く一時停戦日が設けられたことにより、子供たちに予防接種を行うことができました。これも市民平和活動の一例です。

毎年、およそ8千人の学生がロータリーの青少年交換プログラムに参加しています。私は、青少年交換プログラムが市民平和活動の最も優れた一例ではないかと考えています。参加者の滞在期間はさまざまですが、外国で生活する十代の学生にとっては、言語、文化、宗教、学校、通貨、友人と、基本的に何もかもが新しい体験です。派遣学生にも受入学生にも、共通して言えることは、人生を精一杯に生きたいという願いです。彼らが望んでいるのは、戦争に行くのではなく、平和です。以前にも述べましたが、世界中の17歳の学生全員が交換学生となったなら、戦争が起こることはないでしょう。青少年交換プログラムを実施している団体はほかにもありますが、最も優れたプログラムを提供しているのはロータリーだと思います。ほかの団体と競争するのではなく、協力することによって、可能性が開けるのではないのでしょうか。青少年交換は、たくさんの団体が力を合わせて作り上げていく巨大なパズルのようなものです。それぞれの団体がパズルの一片をはめ込んでいく必要がありますが、その中でもロータリーができるだけ大きな一片をはめられるように努めなければなりません。

インターアクト、ローターアクト、国際親善奨学金など、すべての青少年プログラムが市民平和活動プログラムであり、平和構築の役割を果たしています。

私たちの平和プログラムの代表的なものが、「平和および紛争解決の分野における国際問題研究のためのロータリー・センター」プログラムです。このプログラムは、2002年、世界各地の大学8校で、平和と紛争解決の分野の2年間のコースとして開始されました。その後、新たに1大学が加えられ、平和と紛争解決の分野で既に働いている人々を対象とした3カ月のコースが設けられました。現在は、合計7つの大学と提携してプログラムが実施されています。また、世界各地にいる400人以上のプログラム学友は、草の根で活動する地元の非政府組織、各国政府、法的機関をはじめ、国連や世界銀行といった二カ国間組織や国際組織でも活躍しています。この後、学友の講演がありますが、その講演をお聞きになり、皆さまご自身でこのプログラムの効果を判断していただけることでしょう。

財団が強調する教育、保健、飢餓追放、水への取り組みは、国連ミレニアム開発目標と重なるものです。水は私たちの生活のすべての土台となります。作物の生育に水がなかったとしたら、作物は育ちません。水がなかったら、皆さんの庭や花壇は枯れてしまうでしょう。識字能力のない若者の多くは、働くことができません。働くことができなかつたら、収入もありません。収入がなかったら、食べることもできません。全く食べ物がなかったら、と想像してみてください。そんな状況に置かれたら誰しも、食べ物を得るために闘わざるを得なくなるでしょう。私も例外ではないと思います。こう考えると、教育、保健、飢餓追放、水への取り組みを忘れることはできません。これらの強調事項を支援することが、市民平和活動なのです。

最後に、ロータリーそれ自体が、市民平和活動に貢献している団体であるということをお伝えします。市民平和活動を私たちのクラブで、地域社会で、そして世界中でこれからも推進していきましょう、「超我の奉仕」を通じて、ロータリアンは、平和の実現に向けて今後も世界で活動を続けていくことができると信じています。

私の人生を変えたロータリー世界平和フェローシップ

ナイ H. ウー

2005-07年度ロータリー世界平和フェロー

今日この場で、ロータリー世界平和フェローとしての私の経験と、その経験が私の人生をどのように変えたかを皆さまにお伝えできることを、大変光栄に思っております。カール・ヴィルヘルム・ステンハマー元RI会長から、最初に国際協議会でスピーチをしてほしいと頼まれたとき、まず私の脳裏に浮かんだのは、「なぜ私が？」ということでした。しかし、私には、皆さまにお話しできる素晴らしい体験、そしてこの平和プログラムが私やほかのフェローの人生をいかに変えたかを皆さまにお伝えできるのではないかと考えました。ですから、次の15分間で、北米からアジアへ、アジアからアフリカへ、そしてアフリカからこの場にいたるまでの旅路についてお話しさせていただきたいと思えます。

私は台湾で生まれ、高校生のときに交換学生として米国にやってきました。その後、経営管理学と国際ビジネス学の学士号を取得し、オクラホマ大学の修士課程で人間関係学を学びました。修士課程で研究中、企業では人員削減と不祥事が相次ぎ、私はこのような風潮に困惑せずにはられませんでした。企業は善いことも悪いこともできるでしょうが、善良な世界市民となり、ほかの企業の模範になることが大企業の責任であると信じていたからです。社会的正義を助長していくのが企業の責務であると、考えていました。

ある日、大学の教授がロータリーについて言及したのをきっかけに、ロータリーの世界平和フェローシップについて知りました。幸いにも、ロータリー財団のロン・バートン管理委員にお会いする機会に恵まれ、お話しさせていただいた後、フェローシップに申請する決心をいたしました。そして、ロン・バートン管理委員とオクラホマ州の第5770地区は、米国市民ではない私を推薦してくださったのです。私はこのとき初めて、ロータリーの真髄に触れたように思います。ロータリーに国家間の隔たりは存在せず、より良い世界を目指して、手に手を取り合い活動するロータリアンが存在するだけなのだと感じました。

私は、平和フェローとして選ばれ、東京の国際基督教大学で学ぶことになりました。日本では、多くを学び、素晴らしい体験をしました。平和プログラムの一環として、夏季にはインターンシップに相当する実地体験を選ぶことが義務づけられていました。私には、ニューヨークの国連本部での実施体験と、2004年にノーベル平和賞を受賞したワンガリ・マータイさんの下、ケニアで活動する機会の2つの選択肢がありました。私が選んだのは、ケニアに渡って、ワンガリ・マータイ氏が始めた「グリーンベルト運動」で、マータイさんとその娘さんのもとで活動することでした。皆さまに同じような選択肢があったとしたら、きっと私と同じ道を選ばれたのではないのでしょうか。これは、ワンガリ・マータイさんと私の写真です。

ケニアでの実施体験中、私はこの運動の責任者の下で働くインターンとして、2007年1月にナイロビで開催される予定となっていた世界社会フォーラムの諸手配を担当しました。世界社会フォーラムは、世界各地から市民社会の代表が集まる公開討論会で、この年、アフリカで初めて開催されました。私は、「グリーンベルト運動」のプレゼンテーションの準備を任せられました。インターンシップ中、フォーラムの会場について交渉し、企画における重要な決定をする際に意見を提供しました。多くの困難な場面にも直面しましたが、こうした困難を乗り越えたことが私の成功の土台となりました。私は柔軟な姿勢で臨機応変に対応し、事が順調に進まなくても、不満を口にしませんでした。まずは聞く耳を持ち、周りに目を向け、限られたリソースの中で最善の解決策を考え出すスキルを身につけました。インターンとして、単独で活動し、ケニアの非政府組織と政界について独力で学びました。地元を代表する非政府組織や企業の人々と対話することもしばしばありました。最終的に、「グリーンベルト運動」のプレゼンテーションは成功し、いくつかの協定を取り付けることができました。

ケニア滞在中には、上司、同僚、地元のロータリアンから多くを学びました。その例をお話します。

これは、茶園の前に立つマータイさんの写真です。この土地には以前、食用の果物を実らせ、時には燃料として使われていた自生樹木が生い茂っていましたが、現在はすべて茶園に変わってしまったと、マータイ氏は説明してくれました。茶園では、輸出のみを目的に茶が生産されており、土がすっかり痩せてしまっただけでなく、農民は茶の生産から十分な収入を得ていません。発展途上国でお茶やコーヒーを生産することが必ずしも良いことであると言えるでしょうか。判断は皆さんにお任せします。

これは、ナイロビで最大のスラム街の写真です。子供たちは、水道や電気はおろか、あちこちにごみが散乱する中で暮らしています。この光景を見てはじめて、私は、貧困というものの真の意味を理解しました。このような子供たちのために、私たちは何をすることができるか。このような光景を目の当たりにし、「自分には関係ない」と言って立ち去ることのできる人は絶対にいないはずで

私の人生の中で、ロータリー世界平和フェロウシップほど貴重な機会に恵まれたことはありません。この経験のおかげで、世界中のロータリー世界平和フェロウやロータリアンという素晴らしい仲間ができました。

ソルトレークシティで開かれたロータリー世界平和シンポジウムの後に、2003-05年度にロータリー世界平和フェロウとしてアルゼンチン、ブエノスアイレスのサルバドル大学で学んだノルウェー出身のガート・ダニエルセンさんが、仲間のフェロウに次のようなEメールを送りました。

「シンポジウムでは感動し、心を動かされました。ロータリアンは、私たちのプログラムに多大な支援を寄せてくださっています。そして今こそ、何かお返しをするときだと思います。私はお金持ちではないし、ローンもたくさん残っていますが、不自由なく生活しています。恩返しすることを一番に考え、アフリカなどの貧しい国や地域からフェロウをもっと増やすことに貢献したいと思っています。私は平和教育と長期的な解決策の力を信じています。そして、貴重な機会を与えてくれたこのプログラムの素晴らしさを信じています。この私の気持ちを、ロータリアンに何らかのかたちで示したいと思うのです。みんなも私に賛同してくれることを願っています」

このフェロウシップは、4百人以上もの平和フェロウを輩出してきました。2009年9月1日現在、平和フェロウのほとんどが、平和活動に関連する非営利組織や非政府組織で活動しています。このプログラムは、世界平和の推進に大きく寄与しています。この円グラフから、平和フェロウがどのような仕事に就いているかがおわかりいただけるでしょう。

私は現在、テキサスA&M大学の経営管理学の博士課程で学んでいます。企業の社会的責任に関心を持っており、企業を通じて世界に恩恵がもたらされるような環境をつくりたいと願っています。人生の目的は、お金儲けをし、快適に暮らすことではなく、人々の生活を改善し、世界をより良い場所にするために努力することであることを忘れてはならないと固く信じています。人々に恩恵をもたらすために活動し、その目的を見失うべきではありません。

最後となりましたが、ロータリアンの皆さま、私は、平和はきっとかなうと信じています。皆さまは、ポリオ撲滅活動において大きな成果を残し、そして今、世界平和においても大きな貢献を果たされています。ロータリアンの活動があってこそ、この世界はより良い場所になっていると心から思っています。このような機会を与えてくださったことへの私からの感謝の気持ち、そして、このプログラムへの皆さまの投資が大きな価値あるものだと、ご理解いただければ幸いです。

素晴らしい体験をさせていただいた皆さまに重ねて感謝申し上げるとともに、世界により良い場所にするため、これからも決してあきらめないことをお約束いたします。どうもありがとうございました。

継続は力なり

マイケル・マクイーン The Nexgen Group創設者

お話をさせていただく前に、簡単な統計を取ってみたいと思います。

6月、モントリオールで開かれる2010年国際大会に出席される方はどのくらいいらっしゃいますか。

ニューオーリンズの2011年大会に出席しようと計画されている方はいらっしゃいますか。

2015年国際大会に出席される方はいますか。

2025年はどうでしょう。

2035年国際大会にはどなたが出席されるでしょうか。

考えてみると、面白いですね。本日は、ロータリーの将来像について皆さんに簡単にお話しさせていただきたいと思います。プログラムや方針の話ではありません。「人」についてです。今後数年、数十年に、どういった人々が世界のロータリーで活動していくのか。また指導者である皆さんが明日のロータリーをどのように築くことができるのか。

私は、人口構成の推移、若者の文化、世代の移行といった分野の研究を専門に仕事をしております。ここ数年は、世界各地の組織がY世代と呼ばれる次世代を理解し、この世代との関係を築いていくお手伝いをしてきました。

皆さんの地域でも同じかもしれませんが、オーストラリアと米国では、このY世代が少なからず批判の対象となっています。メディアは、彼らが自己中心のかつ物質主義な上に、忍耐力と礼儀を欠いていると決めつけています。

しかし、本日のお話の目的は、次世代についてもっとバランスのとれた、現実的で、ポジティブな見方を、皆さんにご紹介することです。全世界8万人の若者を3年間にわたって研究調査し、その結果を本にまとめた経験を基に、明日のリーダーについて明るい話題をお伝えしたいと思います。

今の若者の価値観や態度、期待していることを見ても、考えが甘い、思い上がりが強い、そしてときとして人に不快感を与えかねないといった傾向があることは事実です。しかし、この世代が、世界をグローバルに捉え、野心と新しいアイデアにあふれ、テクノロジーに通じているのも事実です。このような世代の存在は単純にとらえるならロータリーにとっての朗報と言えますが、新たな課題と機会の両方を伴うものです。課題の一つには、若者を新会員としてクラブに惹きつけるということがあります。若者の多くは、ロータリーとは何であり、何のために存在するのか、何を成し遂げてきたのかを知らないから、まず、それを説明することから始めなければなりません。次に、彼らが会員となったら、指導的役割を任せ、この世代がもたらすことのできる恩恵を最大限に生かすという課題が続きますが、これは同時に新しい機会でもあります。

そこで、世界各地の指導者である皆さんにお尋ねします。地区ガバナーとして後世に何を残すことができるでしょうか。ガバナーとしての職を去るとき、各クラブは就任時に比べて、大きく、若く、生産的になっているでしょうか。これから末永くロータリーを支えていく堅固な土台をどのようにして築くことができるでしょうか。

限られた時間の中で、若い世代に、会員または指導者になってもらうための重要なポイントを3つお話ししたいと思います。

1. 世代を超えたつながりを育む。現代の都市社会では、世代の断絶が見られます。自分と同世代の人としか交流しないため、競争相手も尊敬する人物も同年代の人たちになってしまいがちです。ここに隠された危険性は、違う世代から学び、互いに影響しあうことの大切さが見過ごされてしまうことです。若い世代は、エネルギー、情熱、熱意を持つ一方、上の世代からの助言、知恵、指導を求めているのも事実です。

新会員やリーダーとなりうる人材の多くが、年上の世代とのつながりを求めて、ロータリーに集まってくるのをいずれ目にされることでしょう。若い人たちが心から信頼し、尊敬できる先輩世代と交流し、指導を受けられる唯一の場がロータリー・クラブ、という地域が少なくありません。

2. 常にポジティブなフィードバックを与える。全世界で一斉に行われた調査によると、Y世代は外からフィードバックを受け取り、認めてもらうことを重んじる世代と定義されています。その前の世代は、自分だけが目立ったり、貢献や功績を個人的に褒められることを避ける傾向にありましたが、Y世代では、肯定的に認めてあげることが意欲を高めるのに大きな威力を発揮します。

Y世代の存在を認め、的を得たフィードバックを提供するには2つのキーポイントがあります。まず、直接的に彼らの存在を認めてあげることです。テクノロジーが非常に進んだ時代に育った彼らは、個人的な触れ合いに特別な意味を見出します。手書きの一言、アイコンタクト、「よくやった」と背中を叩いてあげるといった行為が、大変重要なのです。次に、この世代の人を人前で認めてあげることが大切です。Y世代は競争心が強く、野心的な傾向にあり、人の前で感謝や表彰されるために骨身を惜しまず働く人たちです。

3. プロセスでなく、成果に注目する。Y世代の関心を引く3つのポイントで、一番難しく、同時に一番効果があるのがこのポイントです。「成果」と「プロセス」という2つのコンセプトを切り離して考えれば、成果は「なぜ活動するのか」ということであり、プロセスは「何をどのように行うか」ということです。成果とプロセスは表裏一体のように思われますが、組織や企業の多くがプロセスだけに偏りがちです。企業の新入社員向けの冊子や研修マニュアルは、どれもプロセスを説明したものばかりです。これをして、あれをして、次にこれをする、といった具合です。基準に沿って評価し、組織図を作り、構造や指令系統を並べ立てています。そういった組織に若者がやってきて、開口一番に聞くのは、「なぜ」という質問です。

若者のグループから出る、この典型的な「なぜ」には、2つの「なぜ」があります。一方は、「なぜそのやり方でやるのか」、そして他方は、「なぜそれをやるのか」です。

一つ目の「なぜそのやり方でやるのか」という質問は、権威に逆らうことから来るのではなく、実は革新的なアイデアの生まれる源なのだ、と、賢明な組織は既に認識し始めています。若い人たちは、新鮮な目と新しい視点を持ち、テクノロジーと現代のニーズを良く理解しているのです。

二つ目の質問、「なぜそれをやるのか」という質問も同じく大きな意味を持っています。若い会員やリーダーが、所詮自分は歯車の一つでしかないと思うようになれば、全く意欲をなくしてしまうでしょう。「生産ライン」の一角を彼らに与えるだけでなく、彼らの貢献が全体としてどのような目的につながっているのか説明しなければなりません。

指導者である皆さんに、ここで少し距離を置いてご自分の地区、そしてロータリーの組織全体を客観的に見ていただきたいと思います。皆さんが毎週、日々、地区で行っていることは、成果、ビジョン、目的意識とどれだけつながっているでしょうか。皆さんの行っていることは、初めてロータリーに入会したときの理由とどれほど結びついているでしょうか。

これとは反対に、現状を維持し、守り、自分たちのやっていることや、やり方ばかりに気を取られていることは、どれくらいあるでしょうか。それは服装規定や、会合の形式、出席規定であるかもしれませんが。あるいは文化の象徴や、過去に効果のあった手続や手順の羅列であるかもしれません。プロセスが必ずしも悪いのではな

く、プロセスが成果から離れて一人歩きを始めたとき、つまり、私たちが活動する理由を忘れてしまったときが問題なのです。

率直に言えば、これは難しい問いです。答えによっては、変化を強いられたり、新しいやり方に適応しなければならぬ場合もあります。また今後、会合や、プログラム、会員の構成がまったく違ったものになるかもしれません。こうした変化や未来の話は、面倒で厄介なものであり、気が遠くなると思われても無理のないことです。確かに、クラブや会員を未来に導くのは容易なことではありません。しかし、時代に即した組織として生き残れるかどうかは、これにかかっているのです。

2010年1月、この会場に集う皆さんは、どのようなロータリーの未来を描いておられるでしょうか。ロータリーの成功、そしてこれまで皆さんが成し遂げられたことを祝うのは素晴らしいことです。ただし、そこで終わってしまうべきではありません。リーダーの真の成功は、継承にあるのです。長期的な成功は、既に成し遂げたことや皆さんが何をするかではなく、次世代に力を与え、彼らの準備を整えることにあるのです。地区ガバナーとなられる皆さんには、ロータリーの次の100年を迎えるための土台をつくる機会が与えられているのです。

情熱と才能にあふれる若者は、皆さんの後を継ぎ、各地域社会と世界でロータリーの素晴らしい活動を続けていってくれることでしょう。ただし、彼らがそうした活動に携われるよう、導き、チャンスとゴーサインを与えることができるは、皆さんしかいないのです。

皆さまのご活躍をお祈りしております。

私たちはリーダーなのか、それとも管理者なのか？

レイ・クリンギンスミス
RI会長エレクト

来年度、ロータリーのガバナーとしての職務において、私たちはリーダーとなるのか、それとも管理者となるのか、という問いを考えると、私は「くまのプーさん」の言葉を思い出します。A.A.ミルンが創造したこの架空のクマは、ウォルトディズニーの漫画で人気者になりました。パンのほかにミルクが欲しいか、ハチミツが欲しいか、と聞かれた時、プーさんは、「パンはいらないから、ミルクとハチミツの両方が欲しい」と答えました。プーさんは、自分の優先したいことがはっきりとわかっていたのです。

実際には、ガバナーとなる皆さんはリーダーと管理者の両方の役割を果たします。しかし、管理者としての仕事は最小限に抑え、リーダーとしての役割を最大限に発揮することを、皆さんに奨励したいと思います。地区には、銀行口座など管理を必要とする重要な資産があり、また、助言や監督が必要な地区役員や地区委員会もありますから、管理者としての仕事をないがしろにしてよい、と申し上げているわけではありません。しかし、幸い、管理者としての仕事は、この能力に長けていて信望の厚いほかのロータリアンに委ねることができます。彼らに手伝ってもらえば、より良きリーダーとなるためにもっと時間を費やすことができるでしょう。

では、管理が必要な仕事と、リーダーシップが必要な仕事との違いは何でしょうか。私にとって、その区別は簡単です。地区の管理運営には管理者が必要とされますが、仕事の目的さえあらかじめ明確に伝えれば、効果的に委任できるものです。しかし、クラブ指導者に情報を伝え、その意欲を高めるのは、ガバナーのリーダーシップが必要とされる仕事です。皆さんと私にとっての来年度の一番の責務は、クラブ指導者に情報を提供し、意欲を引き出すことです。私たちは、クラブが地域社会でさらに大きく、豊かで、大胆になれるよう支援する必要があります。結局、私たちの成功の一番の証となるのがクラブであり、クラブへの支援を通じてこそガバナーとしての業績が試されるのです。

ここで、注目すべきボブ・バース1993-94年度RI会長の言葉をご紹介します。バース元会長は、あらゆる権利には相応する責務が伴う、とおっしゃいました。この逆もまた真なり、です。管理者としての仕事を地区の役員に委任するなら、この仕事の遂行に必要な権限も与える必要があります。委任しても権限を与えなければ、結局、すべての決定をガバナー自らが行わなければならないため、時間の節約にはつながりません。この理由から、私は、2011年ニューオーリンズ国際大会に関する権限と仕事を、ロン・バートン国際大会委員長に託しました。もちろん、大切な決定については私が相談に乗ることもありますが、ロンには権限を遂行する能力、国際大会に関する責務を管理する能力が備わっていますから、私はリーダーとしての役割に専念することができるのです。

また、この協議会に関する管理運営の仕事の多くは、ホセ・アントニオ・サラザール氏、ブレンダ・クレシー氏、モンティ・オーデナート氏に委ねました。その結果、私は時間の余裕ができたため、協議会のほぼすべての講演者に直接招待状を出し、講演で取り上げていただきたい話題について自分で説明することができたのです。私からの個人的な手紙を喜んでいただけたと思いますが、何よりも大切なのは、これらの講演がどれも非常に素晴らしく、話題を的確に捉えたものになったことです。こういうわけで、私が投資した時間の見返りは十分にありました。このような投資は必要なことなのです。

クラブ指導者とのコミュニケーションにも、これと同じ教訓が当てはまります。クラブ指導者に関心に向け、友人として接すれば、皆さんのリーダーシップに応じてくれるでしょう。私たちはクラブの管理者ではありません。重ねて申し上げますが、私たちはクラブの管理者ではないのです。代わりに、クラブ指導者のリーダー、つまり、コーチ、助言者、応援団長となる必要があります。私たちがクラブの目標に向けて支援を提供すれば、クラブ

が大きく、豊かで、大胆になる、という私たちの目標をクラブが支えてくれるでしょう。私の故郷、ミズーリ州出身の有名人、デール・カーネギーは、リーダーシップについて次のように巧みに言い表しています。「自分に関心を持ってもらうために2年間を費やすよりも、他人に関心を向ければ2週間でよりたくさんの方を作ることができる」真実をこれほどの的確に表している言葉はありません。

クラブ指導者の大半は、会員からありがたいと思われるような仕事をしたいと考えています。しかし、中にはロータリーについての知識がほとんどなく、クラブをもっと良くしようという意欲がほとんど見られないクラブ指導者もいます。私たちの仕事は、クラブの長所と短所を正しく評価した上で、クラブに必要な支援を提供することです。クラブ指導者にロータリーの知識を提供し、意欲を喚起する仕事をほかのロータリアンに任せられることもできますが、各クラブに直接関心を示す皆さんの代役は誰にも務まるものではありません。究極のリーダーシップとは直接模範を示すことであり、最も優れたガバナーとは、クラブ指導者と末永い友情関係を築くことができる人々です。その方法はいたってシンプル、すなわち「友人を作りたければ、友人になること」です。

クラブ指導者と貴重な友情関係を築く一番の方法は、ともに時間を過ごすことです。ガバナーが各クラブの上位3人の役員と私的な会合を持つことを最近奨励しなくなりましたが、私はこれを残念に思います。私がガバナーだった頃、公式訪問の度にクラブ会長、幹事と2時間の会合を持ち、その際、話題のチェックリストを持参して全クラブの指導者と同じ話題を話せるようにしていました。こうした会合は、公式訪問における最も貴重な時間でした。皆さんにもぜひ、クラブ公式訪問の際に各クラブの会長、会長エレクト、幹事と私的な会合を持つようお勧めします。2010-11年度の会長賞には、クラブのための活動チェックリストが含まれており、各クラブと話し合いたいトピックを皆さんご自身で追加できるようになっています。これは、皆さんがクラブに心からの関心を抱いていることを示す最適な方法であり、このような関心を示すことこそが、リーダーとしての最たる資質でもあるのです。

私たちの仕事に管理者が必要なのか、リーダーが必要なのかを判断するもう一つのテストがあります。簡単に言えば、「物事が正しく行われるように事を運ぶのが管理者の仕事であり、正しいことを実践に移すのがリーダーの仕事である」ということです。この文章について、少し考えてみましょう。ロータリーには有能な人材がたくさんいます。管理運営に必要な仕事を遂行できるロータリアンを地区で見つければ、これら有能な管理者であるロータリアンが、物事を正しく行ってくれます。しかし、地区の最高指導者として、正しいことを行うのが皆さんの仕事です。従って、地区のあらゆる活動を見直し、正しいことを行っているかどうかを判断する必要があります。地区のプログラムや慣習の中には、必ずといって言いほど、旧態依然としたものや時代遅れのものがあり、もっと新しく、より良い代替活動を探さなければならないはずですが、物事を正しく行う際にはほかの方々が手伝ってくれますから、皆さんは、正しいことは何か、という基本的な問題を考え、見極めることに集中すればよいのです。

先ほどマイケル・マクイーン氏がお話しになったように、若いY世代は、「なぜそのやり方でやるのか」とか、時には「なぜそれをやるのか」というような質問をしてくる。これはなかなかいい質問です。私たちもこのような質問をすべきなのです。ロータリーの親睦と奉仕の精神が末永く続いていくよう、若い世代をロータリーに引き付ける必要があります。世代格差（ジェネレーションギャップ）を埋めなければ、そうすることはできません。テクノロジーの変化がますます急速化しているため、この格差は、私たちと前世代との格差よりもずっと大きいものとなっています。しかし、若い世代の資質を理解し、彼らの態度や才能をもっと評価することで、私たちが若者に対して真に関心を抱くなら、この格差を埋めることができるのです。私たちが心から望めば、必ずできると確信しています。

マーシャル・ゴールドスミスとマーク・ライターによる著書、「What Got You Here Won't Get You There（過去に成功をもたらしたものは、これからの成功をもたらすものではない）」という大変興味深い本があります。タイトル自体が関心をそそるものであるだけでなく、若い世代をロータリーに引き付けるという課題において、その言葉が言わんとしていることも真実であると賛同できます。この課題は、クラブに変化を受け入れても

らうことさえできれば、達成することが可能です。草の根の団体であるロータリーを支えるロータリアンの飽くなき創造性は、誰もが知るところです。クラブはこの創造性を、地域社会や海外のプロジェクトで発揮していますが、これを会員増強においても同様に生かすことによって、大勢の若い会員を引き付けることができるでしょう。しかし、Y世代の関心に合わせるには、彼らの目標を理解すること、そして新しい発想が必要です。次年度に私たちが発揮すべきリーダーシップの最も重要なテストは、会員候補者として貴重な存在である若い世代を理解してもらうために、クラブを援助できるかどうかということです。

皆さんはこの探求を単独で行わなくてもよいのです。なぜならRI理事会は、RRIMC (RI会員組織地域コーディネーター) プログラムを拡張することを承認したからです。RRIMCは、全ゾーンにおいて「ロータリー・コーディネーター」(「RC」と呼ばれるようになります)と入れ替わり、これらRCは、クラブと地区に対してRIプログラム、ならびにクラブと地区のためのベストプラクティス(最善の実践方法)の説明と推進にあたることとなります。RCの人数はRRFCと同じであり、RRFCとまったく同じ地域を担当することとなります。これによって、RCとRRFCが連携して協力し合うことができます。この変更の結果、新しいRCは地区内のクラブに対してセミナーを提供し、あらゆる種類のRIプログラムの専門家として、地域社会でクラブが大きく、豊かで、大胆になれるようベストプラクティスを紹介できるようになるでしょう。

良きリーダーシップの形や大きさはさまざまですが、皆さんは全員、リーダーシップの能力をお持ちです。そうでなければ、地区から選ばれ、ここ協議会にいらっしゃることはなかったでしょう。私たちの中で秀でたガバナーとなるのは、進んで活動計画を立て、この計画に沿って行動する方です。しかし、最大の成功の秘訣、それは「大きく考えること」です。計画を立てる前に、夢を抱くことです。スーネンス枢機卿が言った次の言葉を思い出してください。「幸せは、夢見る人、そしてその夢を叶えるために喜んで犠牲を払う人に訪れる」この年度のガバナーの皆さんが、夢見る能力をお持ちであること、そしてこの夢に向けて努力する意思をお持ちであることを願っております。

地区ガバナーとしての成功のこつはシンプルです。クラブと友達になることです。クラブ指導者の声に耳を傾け、彼らの目標をかなえるための力添えをすることです。クラブのコーチ、助言者、応援団長となることです。私たちは、クラブ指導者がロータリーについて多くを学べるよう支えていく必要があります。彼ら自身、そしてクラブ会員、地域社会の人々、ひいては世界中の人々が、ロータリーの価値を理解し、この価値を正しく評価する必要があります。どのような経験の持ち主であれ、クラブ指導者を友人として扱い、正しいことを行えば、クラブの役に立つことができるでしょう。

歴史上、このような変化の時代に私たちがロータリアンであることは大変幸せなことです。ポリオ・プラスのおかげで、ロータリーは世界的に認められるようになりました。その結果、クラブがもっと大きく、豊かで、大胆になれるよう、私たちが助けることができます。世界でロータリーが得意とすること、すなわち「地域を育み、大陸をつなぐ」ことをクラブが実践できるよう援助するなら、私たちは世界をより良い場所へと導いていけるでしょう。

職業奉仕の実践

田中作次

ロータリー財団管理委員

皆さますでにご存じの通り、2007年6月のRI理事会で改定された国際ロータリーの使命は「他者に奉仕し、高い倫理的基準を促進し、事業と専門職種および、地域社会のリーダーの間の親睦を通じて世界理解、親善、平和を推進することである」と述べています。また職業奉仕に関する声明では「職業奉仕とは、あらゆる職業に携わる中で、奉仕の理想を生かしていくことをロータリーが育成、支援する方法である」とあります。

さて、人間の生きる目的とは一体何でしょうか。一言で表現すれば「他人や社会のために役立つこと」だと私は思います。何世紀にもわたり発展し続けている今日の社会に住むことができるのは、私たちの先祖、両親、家族、地域社会、国、そして世界中の人たちのおかげです。

このような特別な恩恵について私たちはしっかりと認識を深めながら、すべてに対して感謝の気持ちを持ち続け、「至誠天に通ず」の精神を貫き、真心を持って社会に対してお返しをしていくことが私たちの務めです。それによって次世代の人々がさらに住みやすく、より豊かな社会を築くことができます。

ロータリアンは、ロータリー独特の職業奉仕の理念を率先垂範できる恵まれた立場にあります。私が出会ったある会員は、ロータリーに入会して初めて職業を持つ真の意味が理解できたと言います。入会前は自己研鑽、金儲け、生活の糧を得ることなど自分本位の考え方でした。しかし現在は変わりました。社会のために尽くすことが生きる目的であり、職業を持つ目的となり、他人が喜んでくれることに自分の喜びを覚え、正直な仕事を通じて信頼を得、そして職業を通してさらに世の中に役立つ努力をするようになったそうです。

私たちは奉仕の理想を実践するとともに、高度な職業倫理と社会道徳を自らの行動で示すことによって、あらゆる場面で多くの人々に倫理運動を奨めていくことが求められています。社会生活において、事業生活において、そして個人生活においても自己の信念と行動が一致する「言行一致」こそ、企業でも個人でも信頼を得る最善の道です。

私が尊敬する先輩ロータリアンは、善悪を知りながら小さな過ちをいつか犯すかも知れない自分を戒めるために、自らを厳しく律する標語を作り、ずっとそれを守り続けています。それは「一瞬の間も常に最も正しき道を歩むべし」というものです。信頼をお金で買うことはできませんが、誰でも日頃の正しい行動によって信頼を得ることができます。常に物事の善悪を明確に意識し、強い自律心で行動することを心がけています。

それでは、身近な例を挙げてお話しします。1973年に起きたオイルショック時の話です。多くの商品が暴騰し利益を得る千載一遇のチャンスと考える人がほとんどでした。しかし、ある会社では、いかなる環境下でも良心的にいつもと同じ利益率で販売するよう担当者に命じました。そのために他社と比較してかなり安くなり、注文が殺到しました。しかし公平な配分が最も重要であることを考慮し、顧客の了解を得て過去の顧客別販売実績に基づいて数量を制限し、配給制にしました。その後数カ月でパニックが収まりましたが、利益よりも信用を最重視した経営姿勢が顧客から大変評価されました。

東京のデパートの衣料品売り場には多くのテナントが入り、互いに競争でお客様を奪い合っています。しかし、ある店は他の店と全く違って、お客の望む商品がない場合にはお客様の立場になってライバルの店でも紹介します。目先の利益よりも顧客第一のサービスに徹しています。自分ならこうしてほしいと思うことを他人に対しても同様に行っています。

信頼を勝ち取るためには相当の時間が必要ですが、信頼を失うのは一瞬です。そのために常に正しい判断と行動が求められます。山道で大きな石は誰も避けて通りますが、小さな石や木の根っ子で躓き大けがをすることがあるように、油断をすれば最初は些細な過ちや小さな不正直を繰り返すことによって、徐々に大きな問題になりがちです。この程度なら問題がないと安易に思ってはならないと自分を戒めることです。

一方、職業人を育てることも、職業奉仕としての重要な使命です。日本においては、ロータリーと商工会議所との連携が、例として挙げられます。当時会頭だったロータリアンが次のような事業を提唱しました。地域における雇用環境改善のために若い人たちの働くことへの意識を高め、企業人としての健全な社会生活を送ることを支援するキャリアサポート事業を2004年10月から始めました。このアイデアが契機となり日本政府は2007年ジョブ・カード構想委員会を立ち上げた後、職業能力形成プログラム受講者が急増し、資格者は全国で既に10万人を超えています。

このような商工会・商工会議所との協力のほかにも、ガバナー・エレクトの皆さまがクラブに推奨できる職業奉仕の例には、次のようなものがあります。

- 会員事業所における中学生、高校生の3～5日間の職場体験学習。このプログラムは社会において働くことの大切さ、そしてさまざまな仕事を通して社会の成り立ちを理解する上で重要な役割を果たします。また、ロータリアン同士の職場見学訪問による研修会の開催や、クラブ例会に高校生を招いて行うテーブル別職業懇談会もあります。これは青少年に対して職業指導、就職相談、面接、職業情報を提供するものです。
- クラブでは、「四つのテスト」と「ロータリアンの職業宣言」の唱和およびその実践、または、クラブ例会で会員による仕事上の成功談や失敗談の卓話もできます。
- さらに、会員の専門的知識や能力をクラブの奉仕プロジェクトに提供することもできます。職業奉仕月間の10月は、有意義な職業奉仕プロジェクトを検討または開始する絶好の機会です。
- 職場では、会員の事業所で身障者ができる仕事を探し、働く場を提供したり、近隣地域における事業所の優秀な従業員を表彰したりできます。

わが国では、多くの地区が職業奉仕セミナーを開催していますが、その内容には、職業倫理、時事講演会、職業フォーラム、職業奉仕の講演集発刊、職業奉仕に関するクラブ・プロジェクトの具体的提案などがあります。

1920年代後半の世界大恐慌時においても、職業倫理基準を持つロータリアンが経営する会社は倒産から免れるか、あるいは他社と比較して被害が少なかったという報告もあり、昨今の世界的経済不況の中で、改めて私たちロータリアンが職業奉仕の理念に真剣に取り組む最も適切な時期とも言えます。職業奉仕における法令順守、高い倫理的水準の推進とその実践は自ずと人と人との信頼につながり、仕事にも人間関係にも社会にも良い結果をもたらしていきます。

それがロータリーでの職業奉仕の最もユニークな特徴です。他の団体には類いのないこの理念を、地区やクラブを通じてすべてのロータリアンに強調し続けていくなら、人に問われて、ロータリーの魅力と言えば、胸を張って職業奉仕であると近い将来多くのロータリアンが答えるようになるでしょう。ロータリー特有の職業奉仕を推奨・強調し、実践すれば、未来におけるロータリーのさらなる発展を約束する原動力となるはずです。

職業奉仕の実践

アントニオ・アラジェ RI理事

職業奉仕はロータリーの特質です。ロータリーが他の組織と一線を画しているのは、この奉仕部門があるからです。職業を通じての奉仕がかつてないほど必要とされているこの世界で、ロータリーの存在理由は、まさに職業奉仕にあると言っても過言ではありません。

ロータリーのこの概念を共有しているロータリアンは、互いの性格や考え方の相違はさておき、責任を持って倫理的行動を取るというビジョンを語り、模範を自らが示すことによって、日々の行動や決定の中で一貫して職業奉仕の概念を実践することができるよう、互いに助け合っているのです。

仕事において責任ある倫理的行動を取ることの必要性をご理解いただくために、私の個人的な体験を一つお話したいと思います。ある多国籍企業の役員会で、大切な製品の納入が遅れているという問題が持ち上がり、私は、その解決策を求められたことがありました。この製品は、社内の通信システムの導入に必要なものでした。会社のニーズに合う新しい納品期日を提案し、遅れによってもたらされた損害を補う手配をした私に対し、社長は次のように聞いてきました。「君がその新しい期日を必ず守るという保証はどこにあるのかね」と。そのとき私が返答するより早く、ある役員が、私の背広のロータリーの襟ピンを指して、こう言ったのです。「彼はロータリアンですよ。期日を守るためにあらゆる努力を払ってくれる、彼なら信頼できます」こうしてわが社は信頼を得ることができ、私は重大な責任を担うことになりました。

この会議の後、期日を厳守することは、単なる仕事上の問題だけでなく、私の個人的な使命となりました。あの時、私に助け舟を出してくれた役員員の信頼に何としても応えたかったのです。同時にロータリアンとしての誇りと責任感を実感しました。

期日は無事、守ることができました。

あの日以来、ロータリーのピンを身に付けることによって、ロータリアンの象徴ともいえる誠実さと信用を背負っているのだということを、決して忘れたことはありません。

私は、ブラジルのレバノン系移民の息子であることを誇りに感じています。1918年、ラテンアメリカに初めてロータリー・クラブができた年に、父はブラジルに移住しました。父の教えを私は今でも覚えています。「自分よりも家族をもっと愛しなさい。仕事を持ちなさい、なぜなら、仕事こそ父から子へと受け継ぐことのできる最も大切なものだから。正直でありなさい、そして仕事でも私生活でも常に公平でありなさい」

父はこれらの言葉を常に守って生きていました。

父の教えは、職業奉仕部門の原則と重なるものがあります。322ページから成る「手続要覧」で、職業奉仕の説明に割かれているのは3ページです。わずか3ページです。しかし、この3ページには、この奉仕部門こそが、奉仕の理想を支援し、育成する方法であると明確に述べられています。そこには次の内容が記されています。

- 永遠に絶えることのない道徳的水準
- 雇主と従業員間の忠実さと公正な扱い
- あらゆる有用な職業の価値
- 自己の職業上の専門能力を地域社会に役立てること
- 全クラブ会員、顧客、また、競争相手ではなく協力者となるべき同業者に対する誠実さと公平さ
- 四つのテスト

- 専門職団体への正当な参加
- 未来に対する私たちの責任である、青少年への職業研修
- 職業奉仕を通じた地域社会への貢献

これらすべてが3ページに凝縮されているのです。まさに徳の指導書です。

倫理的な人格の形成と、地域社会におけるこうした価値観の普及にあたって職業奉仕が果たす役割をご説明するために、2つの例をご紹介しますと思います。

最初の例は、バージニア工科大学で創設されたプロジェクトで、ジョセフソン倫理研究所 (Josephson Institute of Ethics) により開発され、数カ国で実施されているものです。このプロジェクトは、第4650地区の7つのクラブが関与するマッチング・グラントを通じて、ブラジルのジョアンビルにある60の学校で再現されました。プロジェクト名は「Character Count (人格は重要である)」です。このプロジェクトでは、生徒たちが、勤勉に働き、正義感ある職業人かつ市民となるよう人格形成を行いながら、倫理的な価値観と原則を身につけるのを支援します。この活動はどこでも実践できます。

遊び心あふれる授業と効果的な教授法を通じて、子供たちは、善良な人格を形づくる6つの中心的要素、すなわち信頼性、尊敬、責任感、公正さ、思いやり、市民としての正義を学びます。これらの要素は、子供たちの人生を導き、幸せにあふれる調和した社会を築くために必要不可欠なものです。私たちは、手本を示すために、自ら率先して善良な人格を備えるよう心がけ、試練の時にも道徳を貫く精神を身をもって示す必要があります。何事にも、前向な姿勢で信念をもって当たらなければならず、人気を得るためや自己満足、楽をするために倫理を二の次にしてしまう誘惑に打ち勝たねばなりません。たとえささいなことでも、常日ごろから正しいことを行っていれば、大きな困難を乗り越えるための自信と強さが身につくはずで

もう一つの例も学校プロジェクトです。これは、「四つのテスト」の概念を客観的に表す絵や文章を載せた小冊子です。この冊子は、米国ジョージア州のミレン・ロータリー・クラブが作成した「四つの塗り絵本」に基づいて作られたもので、ブラジルの文化やスポーツに合わせて内容を変えています。

以上2つの例をご紹介しますのは、これらがいずれも、正直で高潔な社会人や専門職業人になるよう地域社会の青少年を育むという、職業奉仕における大切な役割を示しているからです。青少年たちが麻薬や犯罪に手を染める前に、彼らに手を差し伸べなければなりません。彼らに人生の目的を与え、人生の中で突き当たる問題を克服する方法を教え、徳のある人格を育てていく必要があるのです。

最後に、シドニオ・ムラルハの詩の一節をご紹介します。

止まることはできない
 つまづかずに逃げ切れるかもしれないが
 一旦つまづいたらもう止まることはできない
 私は思いやりに値しない人間だ
 誰も私に手を差し伸べたり
 私を気遣ったりすべきではない
 人徳が高価なものなら
 それを払うためにどんな努力だってしよう
 たとえ希少なものであっても、その代価を払おう
 独りで立っていても
 投げる石の強さは
 その石の重さと等しいのだ
 人徳が高価なものなら
 それを払うためにどんな努力だってしよう

職業奉仕の実践

トム・ソーフィンソン RI理事

「自らを助けるか、それとも他人を助けるか」これは、職業奉仕を定義し、ロータリーの理念を実践していく上で中核を成す問いです。

実際の例を挙げて考えてみましょう。私は弁護士です。また弁護士か、とお思いの方もいらっしゃるかもしれませんが、私の主な仕事は、顧客を弁護することです。書面や口頭によるコミュニケーションであれ、原告あるいは裁判官とのやりとりであれ、顧客の立場を弁護するのが私の仕事です。これまで私は羽振りの良い企業を顧客の多くとしてきましたが、私が本当に顧客としたいのは、弁護士を雇う余裕のない人たちです。

その顧客とは、遠く離れた世界に、安全な飲み水もなく暮らしている少女で、おそらく一生顔を合わせることもない子供です。机やイスはおろか黒板さえない学校に通うこの少女は、ポリオの予防接種もまだ受けていません。私がこの少女にしてあげられることは、この子の声となってあげることです。私がこの少女の代弁者とならなければ、この子は水系感染症にかかって命を落としてしまうかもしれません。あるいは、一生読み書きを覚えることも、歩くこともできないかもしれません。私の後ろに映し出されている写真は、マイク・マッカラ元RI理事と私が、数年前にボランティア活動でハイチを訪れたときにマッカラ元理事が撮影したものです。このハイチの少女は、割れた卵を土の中から必死にすくい上げようとしています。この貧しい少女の姿は、一生私の心に焼きついています。

職業柄、私は、裕福な企業を弁護すべきか、あるいはこのような幼い少女を弁護すべきか、二者選択を迫られることがよくあります。ロータリーの人生哲学では、「超私の奉仕」の実践という選択肢が求められます。これは容易な選択肢ではありませんが、いったん心を決めたなら、それが正しい選択であったと気づくに違いありません。職業奉仕は、「超私の奉仕」の実践なしには論じることのできないものなのです。

この「超私の奉仕」の実践を踏まえた上で、職業奉仕に従事するには、3つの要素があると私は考えます。その第一は、私たちの職業能力を生かして、恵まれない人々に奉仕することです。第二は、職業を通じて、未来のリーダーを育成することです。そして第三は、自分の職業の中で、また職業の枠を越えて、高潔性を育み、推進していくことです。

まず、第一の要素、職業能力を生かして恵まれない人々に奉仕することについて考えてみましょう。私が英雄として仰ぐ一人、第5580地区のデイビッド・フィン元地区ガバナーについてお話をさせてください。フィン元地区ガバナーは、自分の職業能力を生かして恵まれない人々に手を差し伸べ、職業奉仕を自ら実践された方です。

米国ミネソタ州のデトロイトレイク出身の元ガバナーは、現在、歯科医としての現役を引退しています。退職前には、シャーリー夫人とともに、ロータリー・ボランティアとして16回海外に赴いた経験があります。海外訪問の度、仮の歯科診療所を設置し、極貧生活を送る人々のために無料で歯科検診を行いました。この職業奉仕のボランティア活動で訪れた国は、ホンジュラス、タイ、メキシコなどです。ジャマイカの海岸沿いや、香港の難民キャンプに仮診療所を設置して、歯科検診を行ったこともありました。

私は、フィン元地区ガバナーに最初に会った1995年11月のことを鮮明に覚えています。ロータリー財団夕食会で基調講演を行ったフィン元地区ガバナーは、当時、参加したばかりのボランティア活動の経験についてお話しされました。ブラジルの熱帯雨林から帰ってきたばかりの元ガバナーは、これまで一度も歯科医に診てもらったことのない先住民の歯を抜いたり、診察したりしたときの経験を語ってくださいました。

ボランティア訪問の滞在期間は4週間以上となることがほとんどでした。これまでの滞在時間をすべて合わせると、20カ月以上を貧しい国での無料診察に費やしたことになります。これこそ、職業奉仕の実践と言えるのではないのでしょうか。フィン元地区ガバナーは、今でも私の人生の支えとなっています。そして、これからも私たち一人ひとりに、ロータリーの真の意義と、「超我の奉仕」の真髄を教えてくれる存在であり続けてくださるでしょう。

職業奉仕の第二の要素は、職業を通じてリーダーを育成することであると私は考えます。自分の職業を通じて若い社会人に助言を与え、指導を行っていかねばなりません。可能性を秘めた若い社会人は、将来、地域社会の、そして職業のリーダーとなっていくでしょう。私たちは、長年における職業経験から学んだことを伝えていくことができます。若い社会人に耳を傾け、彼らの友人となり、ときにはそつと正しい方向へ導いていくのが私たちの仕事です。

弁護士として、またロータリアンとしての歩みの中で、同じく弁護士である経験豊かなロータリアンが私を導いてくれたことは幸運でした。その中でも、一番価値ある教訓を、父であるロス・ソーフィンソンから学びました。父は弁護士であり、またロータリアンでもありました。弁護士だった当時、「四つのテスト」を常に自分の事務所に掲げていました。退職後は、それを自宅に持ち帰り、大切にしていました。私が助言を求めると、父はよく「四つのテスト」について話してくれました。私たちと同様、父は完璧な人間だったわけではありませんが、常に正しいことをしようと努力し、私にもその価値観を教えてくださいました。私をロータリーに導いてくれたのもこの父です。

時を経て、私はロータリーのシニアリーダー、チャールズ・ケラー元RI会長と出会いました。私とかなり年齢が離れたケラー元RI会長が最初に参加した国際大会は、なんと55年前となる1955年のシカゴ国際大会です。ケラー元RI会長は、私が生まれる前からロータリーの国際大会に参加していたということになります。

年齢がこれほど離れているにもかかわらず、ケラー元RI会長は私の素晴らしい友人、そして指導者となってくれました。これまで幾度も助言を与え、励ましてくれ、今でも何か疑問があつたり心配事があるときは、いつでも相談に乗ってくれます。

本日ここにおられる皆さまの多くと同様に、私も自分の父親やケラー元RI会長のようなロータリアンから、多くの恩恵を授かってきました。彼らは、私が人間として、そしてリーダーとして成長していくために、多くの時間を割いてくださいました。私はそのことに心から感謝しています。

職業奉仕の第三は、最も重要な要素である高潔性です。高潔性は、ロータリーの105年の歴史において、ロータリーの中核となる価値観とされてきました。中でも職業奉仕は、私たちがこの高潔性を実践する上で重要な役割を果たしてきました。

ロータリーで初めて高潔性に触れるのは、クラブ会員として「四つのテスト」を復唱するときです。ロータリアンのハーバート・テイラーが自分の事業のために編み出した「四つのテスト」は、立案当初から職業奉仕の重要な一部となっていました。

30年前に私がミネソタ州ホプキンズにあるロータリー・クラブに入会した日、「四つのテスト」が復唱されました。当時私は、「四つのテスト」について深く考えていませんでした。経験の浅い私はむしろ、「四つのテスト」に書かれたことがあまりにも単純で当たり前のことのように思えたので、それを毎週復唱するのは少々ばかげていると考えていました。しかし、30年間事業に携わり、現実の社会を体験した私は、高潔性がいかに重要で、またそれを実践している人々がいかに稀であるかということに気がついたのです。現実を目の当たりにして、私は「四つのテスト」の真の価値を学びました。ロータリアンとして私たちは、高潔性を推進し、その理念の実践に向けて努力する必要があります。

これまで私は、プレッシャーに屈して、非常に誤った判断を下した顧客を何人か目にしてきました。その顧客の一人は、窮地に追い込まれたプレッシャーから、自分の会社の金融資産を金融業者に偽って伝えるという過ちを犯しました。真実を知った金融業者は、その会社へのすべての取り引きを停止し、地元当局にその虚偽を通報しました。この顧客は自分の事業も名声も失い、千人以上の従業員は職を失うことになりました。

弁護士である私は、特定の事態に対する合法的手段についてよく顧客から尋ねられます。単に最低の法的要件を満たしているだけの行動が、必ずしも倫理的であるとは言えません。また合法的な行動だからといって、それが常に受け入れられるとは限りません。私たちは、自分たちの社会と職業において高い倫理の基準を設け、ロータリアンとしてこれを推進していく必要があります。

私たちがこれまで以上に高潔性を求めていく時代がやってきました。不正がまかり通る現代において、率先して世界に高潔性を求めていくのがロータリアンの仕事です。世界中の多くの司法制度において裁判官に課されている倫理基準について考えてみてください。先進国のほとんどで裁判官に求められているのは、非の打ちどころのない言動です。裁判官は、不適切なことをしているのではないかと疑いを持たれるような振る舞いさえも見せることはできないのです。これは、すべてのリーダーが目指すべき行動規範ではないでしょうか。

職業奉仕の実践の一環として、高潔性を推進することがこれまで以上に重要となっています。ただ単に例会で「四つのテスト」を復唱しているだけではいけません。私たちはロータリーを通じて、自分たちそれぞれの職業において、自分たちの地域社会の中で、そして世界中で高潔性を推進していく必要があります。

5年前、大学時代の友人、アンから電話がありました。久しぶりに旧友の声が聞いただけで嬉しく思っていたところ、なんと彼女が私の地区内のロータリー・クラブの会長になったというニュースを聞いて、私が手放して喜んだのは言うまでもありません。私は、彼女のクラブで卓話を行い、財団への寄付を呼びかけるよう頼まれました。彼女と再会し、旧交を温めることができたのは素晴らしいことでした。

ところが数カ月後、彼女から再び電話がありました。彼女のクラブがロータリー財団に送った寄付が、財団に届いていないと言うのです。そして調査を行ったところ、クラブ会計が財団に寄付を送っておらず、寄付金がクラブの口座から消えていることがわかりました。友人は、クラブ会計に電話をし、翌日朝食を共にする約束をしました。しかし翌日になっても、会計は朝食に姿を現しませんでした。その同じ日、友人は、地元で警察署長を務めるクラブ会員から電話を受けました。クラブ会計はギャンブルに依存するようになり、寄付金を悪用した末、自殺を図ったのだと伝えられたのです。

ただ単に高潔性を推進するだけでは十分ではありません。クラブにおいてロータリアンは、クラブ指導者に透明性も要求していく必要があります。地区においては、クラブ指導者が、地区指導者に透明性と高潔性を求めていかなければならないのです。ゾーンとそれを越えたレベルでは、地区指導者である皆さまが国際ロータリーの理事に透明性と高潔性を要求していく必要があります。そして私たち理事は監視役となり、ロータリー財団管理委員会に、会長に、ロータリーのシニアリーダー全員に透明性と高潔性を求めていかなければなりません。

職業奉仕はロータリーに不可欠です。職業奉仕こそ、ほかの奉仕団体や人道的組織にない、ロータリーならではのユニークな特徴です。しかし、私たちが最大の成果をもたらすには、全員が自分たちの職業能力を生かし、未来のリーダーを育成し、職業生活においても、私生活においても、またロータリアンとしても、一貫して高潔性を求め、また自らがそれを示していかなければならないのです。

RIからの支援

エド・フタ(布田) RI事務総長

RI事務局は、クラブと地区に対して、管理運営や広報での援助、会員増強のベストプラクティスの提供、人道的補助金と奨学金の手続きなど、幅広い支援を提供しています。この中で最も重要な役割の一つがコミュニケーションですが、これにはトップダウンの連絡だけでなく、会員からのコミュニケーションも含まれています。本日は、事務局と会員、そして会員同士があらゆる方法でコミュニケーションを取ることができるよう、新しいテクノロジーを駆使した事務局の画期的な取り組みについてお話しさせていただきたいと思います。

例えば、今週、Twitter (ツイッター) をご覧になった方なら、この協議会のニュースに関する「つぶやき」が世界中で掲載されていることにお気づきになったでしょう。このように瞬時に世界中と会話できることを考えると、実はロータリーがデジタル時代に向けた組織であることがわかります。ロータリー・クラブは、インターネットが一般に普及するずっと以前から、人と人のネットワークを築いてきました。これまで何十年にわたり、世界中の会員は互いにコミュニケーションを取り合ってきました。その方法が前よりも簡単になったというだけなのです。

過去5年間、ロータリーはこのデジタル革命に全面的に参加してきました。いくつかその例をご紹介します。

- Eクラブ試験的プロジェクトによって、Eクラブがなければ退会を余儀なくされていた何百人もの会員に、柔軟性と利便性が与えられました。Eクラブはまた、ほかの会員にも簡単に例会のメイクアップをする機会を提供しています。
- 不況による財政的制約の中、ウェブ会議を活用してインターネットでの委員会会合を開くことにより、RIの経費が大幅に節減されました。
- 「Googleブックス」を通じて、99年間のザ・ロータリアン誌すべてをオンラインで閲覧できるようになりました。Googleが無料で1,100号分のバックナンバーをスキャンし、ウェブサイトに掲載してくれたのです。検索機能が付いているため全号から記事を簡単に探すことができます。

ロータリーのウェブサイトは大勢の利用者があり、四半期ごとに150万人近くがこのサイトを訪れています。組織の財務状況やポリオ撲滅活動、「ロータリーの2億ドルのチャレンジ」のニュースなど、最新情報を探すにはRotary.orgが最適です。また、新会員がロータリーについて手早く学べるEラーニングの学習資料も、ウェブサイトに掲載されています。さらに、未来の夢計画の詳しい情報や試験段階の進展状況の確認はもちろん、ロータリー財団への寄付やモントリオール国際大会のオンライン登録もここで行うことができます。

これだけでなく、インターネットによって事務局とロータリアンとのコミュニケーションも大幅に改善されました。

- Facebookにロータリーの公式ページがあることをご存知でしょうか。ロータリーのファン数は3万6千人以上に上ります。ポストिंगをするたび、世界中のロータリアンからコメントが書き込まれます。
- LinkedInのロータリーのページでは、さまざまなトピックについてロータリアンが興味深い議論を行っています。このサイトは、会員が懸念していることについて話し合ったり、アイデアを共有するのに最適な場となっています。公式のRIグループには約6千人のメンバーがおり、現在もメンバーが増え続けているため、メンバー数の上限を引き上げるようLinkedInにかけあう必要があったほどです (LinkedInの通常のメンバー数の上限は5千人)。
- また、ロータリーのYouTubeチャンネルにはビデオが掲載されています。これは、YouTubeで初となる非営利団体のチャンネルです。およそ千人の登録者があり、毎月8万人余りがビデオを閲覧しています。

- FlickrのRIサイトでは、メンバーが莫大な量のロータリーのフォトアルバムを作成しています。このサイトを訪れ、皆さんの地区における活動の写真もぜひポスティングしてください。
- 国際ロータリーの今の活動に関心を寄せる6千もの人々が、Twitterのロータリーのページを利用しています。さらに利用者は、ロータリーからのお知らせを自分のポスティングの中で引用できるため、ロータリーについて耳にする利用者の数が飛躍的に増えることになります。

以上は、新しい試みの一部にすぎません。RIでは、このほかのソーシャル・ネットワーキング・サイトも模索しています。アジア、ラテンアメリカ、ヨーロッパで人気のあるサイトもあります。世界のあらゆる地域でロータリーを紹介するとともに、あらゆる言語グループのロータリアンに、互いに結びつき、オンラインでコミュニティーを築く機会を提供したいと考えております。

ロータリーのウェブサイト (www.rotary.org) を一層インタラクティブ (参加型) なものにするための取り組みもあります。各記事の下にコメントを投稿する欄が設けられていることにお気づきの方もおられるでしょう。このコメント欄で読者は、記事への感想を寄せたり、クラブで実施している同じようなプロジェクトについて紹介することができます。こうしたコメントは、ロータリアンが一番関心を寄せている話題は何かを把握する上でも役立ち、ロータリアンがロータリーについてどう感じているかを知る手がかりにもなっています。優れたクラブや地区のプロジェクトの記事には多くのコメントが寄せられますが、どの投稿者も皆、こうした記事を読むことでロータリアンであることへの誇りを実感すると述べています。財団への惜しみない寄付や2億ドルのチャレンジへの寄付に関する記事の場合、記事が掲載されるたびに、ロータリアンの読者から感謝のコメントが殺到します。

コメントは必ずしも好意的なものばかりとは限りませんが、RIでこれを編集することはありません。ロータリアンからの不満や反対の声にも耳を傾ける必要があるからです。ただし、暴力的な言葉や個人への攻撃、商業的な要素を含むコメントについては、RIはこれを削除する権利がありますが、幸いにも今のところ、こうしたコメントはほとんどありません。

またロータリーは、「Your Voice, Your Solution (会員の声、あなたならどうする)」と呼ばれる新しいコーナーを通じて、会員から積極的にアイデアを募るようにしています。毎月、ここで異なる場面を提示し、これにどのように対処するか、ロータリアンから提案を寄せてもらっています。これまで、若年層の会員の増やし方、興味深いストーリーを持つ卓話者の探し方、クラブのウェブサイトの更新方法などについて、会員からアイデアが投稿されました。皆さまもどうぞこのコーナーをご覧ください、情報源として、あるいは具体的な課題への取り組み方法を紹介する場としてご活用ください。

RIではこのほかに、幅広い主題についてアンケート調査を行うことで、ロータリアンの意見を探る試みも行っています。約1年前、四半期に一度発行されるクラブ会長と地区ガバナー向けの会報、「ロータリー・ワールド」の読者を対象に、アンケート調査を行いました。その目的は、この出版物の良い点、改善点を探り、指導者としての仕事にこの会報が役立っているかどうかを見極めることでした。さまざまな回答が寄せられた中、大半の読者は、クラブや地区の日々の運営における事柄や課題に焦点を当てた内容を望んでいることが判明しました。また、ペーパーレス (紙を使わない方法) を望む声もありました。

最も指摘の多かったこの2点を受け、私たちは、指導的役割に就く全ロータリアン向けの電子会報、「Rotary Leader」を生み出しました。紙面による「ロータリー・ワールド」は今月が最終号となりますが、この協議会で初のお披露目となる「Rotary Leader」の予告版が既に作成されています。7月からは、発行の頻度も増え、四半期ごとではなく隔月となります。

「Rotary Leader」は、クラブと地区の指導者が関心を持つような話題を中心に扱っています。例えば、今回の予告版には、広報補助金の申請書を作成する際のアドバイス、若い会員を引き付けるためのアイデア、

国際親善奨学金とロータリー世界平和フェローシップの候補者を見つけ、推薦するためのベストプラクティスが紹介されています。また、ウェブサイトの記事へのリンクも張られています。この電子版には、メッセージを広めるためにメディアを駆使したビデオやオーディオも含まれています。

「Rotary Leader」は、印刷と国際郵便の費用がかからないため、「ロータリー・ワールド」以上に多くのロータリアンにお届けできることになるだろうと願っています。RIにEメールアドレスが報告されているクラブ会長、地区ガバナー、ガバナー・エレクトには、自動的にこの会報が送信されます。しかし、「Rotary Leader」の内容の多くは、クラブと地区のその他のリーダーや、指導的役割に関心のあるロータリアンにとっても役立つものです。ガバナー補佐や地区委員長にも受信の申し込みを勧め、クラブ会長全員がこれを受信しているかどうかをご確認ください。この予告版のデモは、ロータリー・ブックストアでご覧いただけます。また、今後の号でご紹介できる記事のアイデアなどありましたら、ぜひお寄せください。

数十年にわたり、国際ロータリーは、会員に出版物や書簡を送ってコミュニケーションを行ってきましたが、このコミュニケーションは主に一方的なものでした。しかし今では、皆さんのご意見や関心事項、指導者をより良く支援するために事務局にできることなどを、皆さんの方から伝えていただくための方法が数多く存在しています。

今週のように顔をつき合わせて会合を行うことは、常に、最も充実感のあるコミュニケーションの方法であり、ここサンディエゴで職員と話す機会を進んで見つけていただけることを願っております。しかし、ロータリーに200以上の国と地域が存在するのに対し、RI事務局は世界8カ所にしかないため、このような直接的なコミュニケーションを維持するのは容易ではありません。ですから、職員とのコミュニケーションにぜひテクノロジーを活用していただきたいと思うのです。FacebookのRI公式ページのファンになったり、LinkedInでの議論に参加したり、Twitterを利用してください。あるいは、ロータリーのニュース記事にコメントを投稿したり、RIのアンケート調査に協力してください。ご自分に一番合う方法を見つけ、対話を続けてください。皆さんのご意見を知ること、これが私たちの願いです。

ロータリー独自のブランドを築く

K. R. ラビンドラン

RI理事

経営学の専門家、ジェームズ・コリンズが、ハーバード大学は果たして本当にほかの大学よりも優れた教育を行っているのかと、教育界に一石を投じました。しかし、寄付の促進という点に限れば、人々の情感に訴えて寄付を誘うハーバードの力は疑う余地がありません。

赤十字は、果たして本当に優れた災害救済を行っているのかと問われれば、「おそらく」としか答えようがありません。しかし、「力になりたいが、どうすればよいか」と尋ねる人々に、単純明快に即答できる組織であることは明らかです。

がん協会は、どうでしょう。果たしてがんを克服する最良の組織と言えるでしょうか。また、ネイチャー・コンサーバンシーは環境保全に最も秀でた組織かといえば（おそらくそうなのでしょうが）、ここでも明白な答えはありません。しかし、これらの組織は独自のブランド、つまり銘柄というものを明確に打ち出しているがゆえに、その目的に賛同する人々から容易に支援を集めることができるのです。

今日、私たちが自らに問うべきなのは、一般の人々にとってロータリーが何を意味するかということです。

ロータリーの徽章が人道的奉仕を意味するものであることは、ロータリアンの誰もが理解しているところです。しかし、私たちはロータリーが優れた人道的奉仕を提供する世界有数の組織であることを、世界に知ってもらう必要があるのです。

これは、言うは易し、行なうは難しです。

革新を意味するアップル社、喉の渇きを癒す清涼飲料を意味するコカコーラ、高品質と耐久性を誇る車を意味するトヨタといった大手企業のように、ロータリーも独自のブランドを築く必要があります。

ロータリーが、宣伝費やマーケティングに大枚を費やすことができないのは事実ですが、私たちには、ほかの組織にはない強みがあります。それは、全世界3万3千のロータリー・クラブと120万人の会員であり、この莫大なりソースは、最も権威あるトップ企業を凌いでさえいます。

これを念頭に、私は、ほかの企業と交渉する際には一つの持論を持ち出すことにしています。仮に、120万人の会員のうち1日に30万人がロータリーの仕事を行っているとして、一人当たりの報酬が1日30米ドルだとすれば、どのような計算になるでしょうか。そうです。1日に900万ドルになります。これこそが、私たちの切り札であり、強みなのです。

このような力を動員することとロータリーに対する世間の認識を高めることは、私たちの重要な課題の一つです。

RIでは、有料広告を大規模に展開して広く一般の人々に広報する費用を負担できないことは承知しています。しかし、質の高い画期的なプロジェクトで一般の人々の心をとらえ、草の根の会員が持っている人脈や才能を生かすことができれば、広報のリソースが増幅し、大きな成果がもたらされるでしょう。

公認広報協会は、「広報とは評判であり、自らの言動の結果であり、それに対する人々からの評価である」と言っています。

これは、私たちが公共イメージを打ち出すためにお金を一切使わないとか、使うべきではないと提案するものではありません。RI理事会は、広報部を通じて、斬新な広報プロジェクトに取り組むクラブと地区に対し何百万ドルもの補助金を提供し、広報活動に惜しみない支援を送ってきました。世界中のクラブからは、過去2、3年にわたり、国際ロータリーに何百ものメディアクリップが送られてきています。そして、近年、ロータリーはニュースに取り上げられることも多くなっています。

また、RIの制作する「人類のために活動します」という公共奉仕広告を地元地域にふさわしい形に修正して活用するクラブや地区も増えています。「人類のために活動します」をまだ利用したことのない地区があれば、ぜひ地元のニーズに合わせて活用することをお勧めいたします。

それでは、数多くの昨年の成功例の中から、いくつかご紹介しましょう。

ただ今スクリーンに映し出されているお馴染みの有名な建物は、世界各地においてテレビ、雑誌、カレンダー、カタログ、パンフレット、冊子などに広く登場してきました。昨年2月23日、これらの建物には「End Polio Now (今こそポリオ撲滅のとき)」というロータリー独自のシンプルなメッセージが映し出されました。

シドニー・オペラハウス、イギリスの国会議事堂、南アフリカ、ケープタウンの貿易港、そしてローマのコロシウムに「End Polio Now」の文字が浮かび上がり、メディアと一般の人々からの注目が集まりました。各地での式典には、多くのロータリアンをはじめ、名士やジャーナリストが出席し、このときの様子は、地元だけでなく全国的に報道されました。

広報の成功例は、ほかにもあります。フランスでは、ある月の一週間、18の地区が、看板広告やラジオ局、雑誌を通じての広告キャンペーンをはじめとするさまざまな広報の催しを一斉に実施しました。そして、新聞記事の掲載などメディアに協力を求めることによって、ロータリーという組織について、また、その活動についての認識を高めました。

米国では、訪問者がロータリーの情報を閲覧し、地元クラブのリンクを利用できる専用のウェブサイトを開いている地区があります。このサイトが成功しているのは、ユーザーフレンドリーであること、そして何よりテレビ、ラジオ、印刷、看板用の「人類のために活動します」の広告を真っ先に掲載したためです。

エリトリア、エチオピア、ケニア、タンザニア、ウガンダのクラブを含む第9200地区では、地区大会を開催する前に、複数の国でテレビ・キャンペーンを行いました。同時進行で地区独自の情報を盛り込んだ看板も作り、「ロータリー・インフォメーション・デー」と銘打ったこのキャンペーンは、ロータリーとそのプログラムに対する一般社会からの理解を深める上で多大な成果を挙げました。

台湾では、ある地区が地元企業の協力を得て、建物のロビーにあるエレベーター付近500カ所にスクリーンを設置し、ロータリーについての30秒間の公共奉仕広告を流しました。このビデオ広告は、70万人の目に触れたということです。

また、ブラジルでは、23の地区が一丸となって、ケーブルテレビの協力の下、30分間の番組を制作し、3,200万人近くの視聴者に向けて毎週放送しました。各回では、ブラジル全国で実施されているロータリーのプロジェクトの現場から、レポーターが報道しました。

残念ながら、広報にはこれといった決定打が存在するわけではありません。一つの際立ったプロジェクトや大規模なプログラム、あるいはあっと驚くような斬新な企画、信じられないような幸運や奇跡的な瞬間などが、単独でロータリーの仕事を広めるということはありません。ポリオ・プラスのような偉大なプログラムでさえも例外ではありません。必要なのは、世界各地で質の高いプロジェクトを実施すること、そして広報によってこれを効果的に伝えることです。ロータリーのブランドを築くには、プロジェクトの質、奥行き、深さ、有益性といった要素が必要とされます。一方、ブランドが確立されれば、ロータリアンやロータリー財団が資金を募る際にブランドの威力が発揮されるだけでなく、才能を備えた優れた新会員が集まってくるのです。

このように、皆さんが地区に戻った後には、好ましいロータリーのイメージづくりという課題が待ち受けています。次の休憩時間に、ぜひ広報ブースに立ち寄り、USBドライブをお受け取りください。「人類のために活動します」の広告資料をはじめとする広報のツールが入っていますので、皆さんや地区の広報コーディネーターにお役立ていただけるはずです。

最後になりますが、私の母国のプロジェクトをご紹介します。ロータリーに対する一般の人々の理解を深め、ロータリーというブランドを築く話です。

2004年の津波は、国の半分に甚大な被害を及ぼし、6万人近くの死者を出しました。

スリランカのロータリアンたちは、何か行動を起こさなければならないと覚悟していました。破壊された学校の数は100を超えると推測されましたが、津波が襲った日が日曜日で、子供たちが登校していなかったことが不幸中の幸いでした。それでも、子供たちの心に残された傷跡と精神的なトラウマは永久に消え去ることはないでしょう。

そこで失われた学校の代わりとして、新しく立派な学校を建てようということになったのです。

私たちはこのプロジェクトを「よみがえる学校：壊れないものを築く」と命名しました。津波が子供たちから学校を奪い去り、家も身の回りの必需品も奪い、両親さえ奪ってしまったとしても、その精神だけは、決して奪うことはできません。この精神こそ、私たちが立て直そうとしたものでした。

とてつもなく大きな仕事でした。多くの障害に直面しましたが、巨額の資金と広大な土地を手に入れることは、さほど難しい問題ではありませんでした。私たちは一つひとつ問題に立ち向かい、それを乗り越えていきました。

その結果、わずか36カ月の間に、1,200万ドルの資金で20校を完成させることができました。そして前の学校よりもずっと立派になった新しい校舎に15,000名の生徒を送ることができました。

落成式のたびに、新しい学校の詳細を伝える全面広告が全国的に掲載され、大きな太文字で「ロータリアンが約束を果たす」の見出しがっていました。

このような広告には莫大な費用がかかりますが、幸いある銀行がスポンサーとなってくれました。この銀行は、100万ドルの資金を提供してくれただけでなく、プロジェクトの運営に必要な事務所も提供してくれました。

運営費3パーセント未満を誇るこのプロジェクトは、ロータリーのプロジェクトの中でも優れたものの一つに数えられるに違いありません。

さて、私がなぜこの話を持ち出したかという、確かに優れたプロジェクトであることは事実ですが、それをお伝えしたかったわけではありません。私たちが効果的に活動したことも事実ですが、それをお話したかったわけでもありません。この例を挙げたのは、これが広報のサクセスストーリーであるからなのです。

津波により、スリランカには世界中の多くの非政府団体から関心が寄せられました。その多くが、いくつかの約束を誓い、さまざまなプロジェクトを開始しました。しかし、最後までやり遂げた団体は一握りです。ロータリーは約束を果たしました。そして、その評判は広がっていきました。

一方、ほかのNGO（非政府団体）によるプロジェクトは遅々として進まず、政府はこれに業を煮やしていました。義援金の寄付者を集めてこれらのNGOの活動の進展を報告しなければならなかったとき、政府はロータリーを招き、大規模なプロジェクトで透明性を保ちながら、費用効果や効率を高める方法についてプレゼンテーション（発表）をするよう依頼してきました。これは、学校を建設するという活動をしながら、ロータリーのブランドを築くことのできた証しです。

首都コロンボでデング熱が流行したときも、認識向上を促すプログラムを立ち上げるにあたって市役所が助けを求めたのはロータリーでした。

最近国内で戦闘が終結した後、政府は復興活動の一環として、兵士をはじめとする若者たちを対象とする大規模な職業訓練センターを設置する計画を立て、民間組織に協力を求めました。このプロジェクトの資金と協力者が必要だった政府が白羽の矢を立てたのは、国際的な大手広告代理店でしたが、この代理店は、ロータリーが協力者として加わることを条件に、政府の申し入れを受け入れたのです。

そうです、朋友の皆さん。わが国では、ロータリーのブランドが威力を発揮し、ロータリーの徽章が人道的奉仕の象徴となっています。ですから、これは皆さんの国でも実現可能なのです

広報とは有意義な活動を多くの人に知らせること

ジェニファー・ジョーンズ
元地区ガバナー

本日は、皆さんの前でお話しすることができ誠に光栄です。まずは、あるストーリーの紹介から始めたいと思います。

数年前、私は夫のニックとともにボランティア活動をするため、小さな島を訪れました。医師だったニックは、人里離れた村まで行って診療してほしいと頼まれたのです。医師が訪れることなどめったにない村ですから、医者にかかったことのある人はほとんどいない状態でした。

私たちは今にも沈みそうな小さなボートに乗り込み、海を渡って、その村へ向かいました。海岸へ近づくと、息を呑むような光景が広がっていました。海辺に何百人もの子供たちが一列に並んでいるのが見えます。船が近づくとつれて、しだいに子供たちの姿がはっきりと見えてきました。多くは裸のまま、ボロボロのTシャツを着ている子や大人用の下着を身にまとっている子もいました。大きく突き出たおなかの子が何人もいました。いわゆるクワシオルコルと呼ばれる栄養失調の症状です。それなのに、皆、嬉しそうに無邪気に戯れていて、自分が病気であるなどとは知らない様子でした。

私たちが小さな診療所を設置すると、「メディスン・マン（呪医）」を訪ねて人が集まり、長蛇の列となりました。私の仕事は主に、通訳の助けを借りてメモを取ることです。その日は大勢の人が診療所を訪れましたが、意外なことに、多くは先進国で見られるような症状、糖尿病や高血圧などを訴えていました。

しかしその中で、別々にやってきた20代半ばの男性二人が、同じ症状を訴えたのです。ニックは、通訳を介して詳しく症状を尋ねました。二人とも、おなかを指して「熱がある」と言うのです。彼らはおなかの痛みをそう表現していました。1週間に1度か2度、食事をしたときにだけその「熱」がなくなるのだと言います。診断は必要ありませんでした。必要なのは食べ物だったのです。

皆さんを悲しませるためにこの話をしたのではありません。体験談を聞いていただければ、行動する意欲が湧いてくるに違いないと信じているからです。現在この村には、ロータリアンをはじめとする支援者のおかげで初めて学校ができました。その学校には給食プログラムがあり、子供たちや村の人々に食事を提供しています。医師が定期的に訪問して、診察を行うようにもなりました。

広報とは、自分の体験を語ることです。

ここで、挙手していただく必要はありませんが、次の質問について考えていただきたいのです。子供の頃、物語を聞かせてもらったり、お気に入りの本を読んでもらった思い出のある方はどのくらいいらっしゃるでしょうか。

その物語はいつまでも私たちの心に残っているものです。物語を聞かせるという行為こそが、広報の核心なのです。

毎年行っている募金活動のパンケーキ・セールについて話すとき、大切なのはパンケーキではありません。ニュースリリースやメディアのインタビューでは、私たちの活動の受益者、つまり私たちが集めた資金で掘った井戸のおかげできれいな水が得られるようになった人々、または身体に障害のある子供たちも楽しめるようになった公園こそが、話の焦点となります。私たちの善行を人と結びつけながら、ロータリーという絵を描いていくのです。

本日、私がお話しさせていただくのは、ロータリーにおける広報の重要性についてです。かつては、人に認めてもらうためではなく、何も語らずに善行を行うことが奨励されていました。私たちの体験を伝えることがロータリーで重要視されるようになったのは、ここ十年のことです。今ではRIの長期計画にも盛り込まれるようになりました。広報こそが成功のカギであると、シニア・リーダーが認識するようになったのです。

昨年、ビル・ゲイツがこのステージに登場したとき、彼は貴重な資金だけでなく、ロータリーに深い信頼を託してくれました。ゲイツ氏はロータリーが信用できる組織であるとお墨付き与えてくれたのです。そしてこう述べました。私はロータリーの皆さんを信頼している、皆さんがどんな活動をしているか知っている、と。彼は私たちのストーリー、ポリオのストーリーを知っていたのです。

このメッセージには、かつてないほどの大きな広報効果がありました。ゲイツ氏とメリンダ夫人は、命を救うワクチンのための資金を寄付して下さっただけではありません。撲滅活動においてロータリーが信頼のおけるリーダーであると世界に示し、私たちのキャンペーン、組織、ボランティアに息吹を吹き込んでくれたのです。世界では徐々に信頼できる団体として認識されるようになってきているとはいえ、私たちのストーリーがまだ十分伝わりきっていないのは、周知の事実です。もっと多くの人々に手を伸ばし、多くの人にロータリーに参加してもらう必要があります。

ビル・ゲイツは私たちのストーリーを知っていました。

現在では、効果的な広報を行っているクラブが成長していることが、次々と実証されています。会員増強、すなわち会員の勧誘と維持において一番よい方法が、実は広報なのです。私たちがストーリーを語れば、志を同じくする人は私たちの仲間になりたいと思うものです。ロータリーがどのような組織で、何をやっているか既に知っている人を相手に、「ロータリーに入会しませんか」と誘う方が、はるかに簡単です。

ここまでお話ししてきた中で、効果的な広報とはストーリーを語り伝えることだにご理解いただけたことと願っております。それでもまだ、自分は広報の専門家ではないのに、どうやってこれを実践したらよいのかと懸念される方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

まず認識すべきことは、これが一人の仕事ではないということ。広報を行うのは会員一人ひとりの責務であり、それはロータリーの襟ピンを毎日身に付けることから始まります。私たちは皆、ロータリーを代表しているのです。

では、私たちの意義ある活動をどのように紹介すべきでしょうか。先日、弟を訪ねて、シカゴに行った時のことです。感謝の気持ちを書き留めておくための日記帳を買おうと、ある日の午後、ショッピングに出かけました。一日に3つ自分が感謝したことを書き留めるというのが数年前から流行っていて、こうすればポジティブに考える習慣が身につく、というものでした。これは名案だと思い、私もその習慣を始めたのです。

ある素敵なお店で、「これだ」という日記帳を見つけると、私は、「これが私の感謝の日記帳になるの」と小声で夫に告げました。その後もう少し店内を見て回ってから、カウンターで支払いを済ませました。店員はカウンターの横から美しい包装紙を取り出し、その日記帳を丁寧に包みました。そしてカウンターの別の場所から、青地に金色の線模様の入った箱を取り出して日記帳を入れ、豪華なりぼんをかけて、私に差し出してくれました。

店員は言いました。「実は先ほど、この日記があなたの感謝の日記帳になると話す声が聞こえてきたので、ぜひ私のことを書いてくだされば、と思ったんですよ。店員のおかげで、買い物をもっと楽しい体験になったとでも書いていただければ嬉しいです」実際に、私が日記帳の一番始めにこの店員のことを記したのは言うまでもありません。

では、私たちが重要だと考えることをどのように紹介したらよいのでしょうか。ロータリーをより美しく見せるために、どのような包装紙で包み、特別なりぼんをかけることができるのでしょうか。これを可能にしてくれるのが広報です。すなわち、ストーリーを語ることです。

ロータリーは広報に力を入れているため、皆さんが活用できるリソースを豊富に用意しています。その一部をご紹介します。

ここ5年間に作られた一番効果的なツールは、DVD「人類のために活動します」です。これには、印刷、ラジオ、テレビ、看板広告に利用できる、大変優れた公共奉仕広告の素材が収められています。

広報素材は簡単にカスタマイズできるほか、世界のどの地域でもロータリーの一貫したイメージを伝えられる形式となっています。私たちが成功を収めるには、一貫性と継続性が非常に重要です。これがロータリーという「ブランド」を高めることにつながるのです。

このほかに、私たちが持つ素晴らしいリソースに人材があります。国際ロータリーは世界各地で広報を専門とするロータリアンに支援をお願いしました。この協議会会場に設置された広報ブースで、各地域を担当するゾーン・コーディネーターのリストをお配りしています。この公共イメージ支援グループのメンバーは皆さんと地区広報委員長を支援するために研修を受けた人たちです。広報の対象となる人々に向けてコミュニケーションを図る上での指導や支援、貴重なアドバイスを提供してくれるでしょう。

広報の対象となる人々、と申し上げましたが、ここで重要なのは、誰を対象とするかを決めることです。広報では、メディアを介したコミュニケーションだけを考えがちです。確かにこれは重要ですが、ロータリーの会員を通じたコミュニケーションも等しく大切です。何を伝えるべきかを会員が心得ていれば、私たちのメッセージが広く伝わっていくからです。

私が地区ガバナー・エレクトとして国際協議会に出席したときのことです。現在RI理事を務めるトム・ソーフィンソン氏のお話に心を打たれました。彼はドミニカ共和国とハイチでボランティア活動をした経験を語ってくださいました。両国を何度も訪れ、安全な水源を求めて活動を続けていたそうです。ある日、仲間のロータリアンが村の女性から大変重みのある言葉を聞きました。「ロータリーが井戸を掘ってくれてから、子供たちが死ぬこともなくなりました」と。

この簡潔な一言で、きれいな水がいかに重要であるかを人々は理解できます。ソーフィンソン氏は、受益者の顔が思い浮かぶようなかたちで、この問題を語ってくださいました。数字や事実を伝えようとしたのでも、井戸を掘るための支援をお願いしたのでもありません。「ロータリーが井戸を掘ってくれてから、子供たちが死ぬことがなくなった」という事実が、問題の核心を突いているのです。

皆さんの地区にはどのような人道的なストーリーがあるでしょうか。地域の地域社会でそのストーリーが与えるインパクトを考え、どのようにそれを伝えることができるでしょうか。私たちには強力なリソースがあり、これを分かち合うことができます。まだ地区広報委員長を指名していない方は、地区に戻ったらすぐに、この任務に最もふさわしいロータリアンを探し出してください。地区広報委員長は、クラブに広報委員長を指名するよう呼びかけ、クラブ委員長に研修を提供することによって、ロータリーのストーリーを広く人々に語り伝えてもらう役割を果たします。既に地区委員長を任命された方は、広報について学び始めたばかりというガバナー・エレクトの仲間、ぜひアドバイスをしてくださるようお願いいたします。

本日皆さんにお話したい最後のコンセプトは、活発な広報を行う上で、パートナーシップが大変重要な役割を果たすということです。ゲイツ財団との協力関係については先ほど少し触れましたが、これは、ロータリーという組織を発展させていく上で、いかにパートナーシップの力を利用できるかという良い例です。パートナーシップとは皆さんにとってどのような意味を持つものでしょうか。

RIの地区広報補助金が設けられた主な理由がここに 있습니다。広報においてメディアと協力するには、この補助金を利用するのが一番の方法です。世界各地の地区が、大きな成果を達成しようとパートナーシップを組む例をご覧いただきましたが、メディアと協力することで、できるだけ費用を抑えて、私たちのストーリーを伝えることができるのです。

これまでお話ししてきたコンセプトはすべて、午後の討論セッションで引き続き皆さんに検討していただくトピックです。ロータリーの広報活動は比較的新しいものですが、現在の指導者はこれを最も差し迫った大きな課題として取り組んでいます。

最後に私に深い影響を与えたストーリーを皆さんにご紹介したいと思います。わが地区はカナダと米国にまたがっているため、週に何度も国境を行き来します。国境に近づくと、警備官が待ち構えていて、入国の理由について矢継ぎ早に質問を浴びせてきます。その日はたまたま機嫌の悪い警備官に当たってしまいました。

腕組みをして、しかめっ面の入国警備官は私に行き先を尋ねました。ロータリーの会合に出席するのだと答えると、警備官の表情はさらに険しくなりました。「ロータリー？ロータリーとは何だ」と問いただします。そこでつい調子に乗って、長い説明がいいですか、短い説明がいいですかと私が聞くと、「何でもいから、説明しろ」と怒鳴られました。

ロータリーは、地元や世界で人道的奉仕に携わる120万人の会員から成る世界的な奉仕団体だと、私は話しました。警備官はまた「君はそこで何をしているんだ」と怒鳴ります。

私は自分のクラブとそのプロジェクトやプログラムのことを話しましたが、警備官はまだ物足りないようでした。続けて、きれいな水、保健と飢餓、識字率の向上に触れ、話はポリオに及びました。警備官は身を乗り出して言います。

「ポリオ？ポリオなんてなくなったじゃないか」と。ポリオは世界の多くの地域からなくなったけれど、まだ4カ国に常在しており、私たちは子供たちを1人残らず守るため、懸命に活動を続けている、と返答しました。

警備官の態度は一転し、ロータリーについてもっと知りたがっていました。話に夢中になり、質問をします。「でもエイズはどうなんだ。ロータリーはエイズについて何かやっているか」私は説明を続け、確かに多くのロータリアンがエイズをはじめ、マラリアや結核、その他多くの問題について活動していると話しました。

「世界にはそんなにひまな人がたくさんいるのか」と言う警備官に、私はこう答えました。「いいえ。多忙でも助けの手を差し伸べようと思いやる人が、世界にはたくさんいるのです」

鬼の目にも涙で、警備官は涙を流し、私の目を見て言いました。「その人たちにどうかお礼を言ってください。彼らのやっていることに感謝すると伝えてください」その時は私の目にも涙が浮かんでいました。「君のおかげでいい一日になった」と言う警備官に、「こちらこそ、ありがとうございます」とお礼を言いました。

今日はその警備官に代わり、皆さんに感謝申し上げます。これまでの活動、そしてこれから皆さんが行われる活動に、お礼申し上げます。皆さんは、ロータリーに深く心を動かされたからこそ、今日ここに座っておられるのだと思います。その皆さんがストーリーを語れば、クラブの意欲を高め、新年度に向けて志を固めてもらうことができます。

私の好きな言葉、マーティン・ルーサー・キング・ジュニアの名言で、私からのお話を締めくくりたいと思います。「一人ひとりが偉大な行動を起こす力を持っている。名声のためでなく、大義のために行動するのだ。人の素晴らしさとは、いかに他者のために尽くすかで決まるからである」

今こそ、私たちのストーリーを語るときです。ロータリーが一層輝いていくときがやって来たのです。人々を偉大な行動へと導いていこうではありませんか。

ロータリー青少年交換の舞台裏

アル・カルター 多地区合同青少年交換委員長

ロータリーにおいて最も際立ち、成功しているプログラム、青少年交換で味わう経験はほかにもまして個人的なものです。本日は、この青少年交換についてお話できることを大変光栄に思います。

世界中の数多くの地区で、青少年交換にかかわるロータリアンは、とりわけ熱心であり、若者を信じ、10代の青少年に国境を越えたユニークな体験が提供できることを誇りに感じています。多くのロータリアンは、青少年交換が好きだからこそ、これに力を注いでいるのです。しかし、本日は、このプログラムを少し違った角度から見てみたいと思います。諸々の書類手続き、政府の規制や組織規定の遵守、プログラムを毎年継続するための努力など、ロータリー青少年交換は、単なるプロジェクトやプログラムではありません。そこで、本日はロータリー青少年交換の「ビジネス」について、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

ビジネスは、「発想」、「投資家」、「納入業者」、「顧客」、「製品」、「マーケティング」といったさまざまな要素から成り立っていると一言でよいと思いますが、これを青少年交換に当てはめると、どのようになるでしょうか。一つずつ考えていきましょう。

ロータリー青少年交換の背景にある「発想」は、互いの文化を学びあい、学校や地域社会で世界に触れる機会をもたらす、世界への扉を人々に開くことです。青少年交換は、青少年に投資し、直接的かつ個人的な方法で、国際理解と平和というロータリーの目標を推進することのできる機会です。そこで、使命声明を掲げるのがよいと考え、カール・ヴィルヘルム・ステンハマーRI元会長のお考えを伺ってみました。

ロータリー青少年交換に対するステンハマー元会長の思いをお尋ねしたところ、次のように答えてくださいました。「私たちの目標の一つに、人々の間に平和とより良い理解を育むことがあります。ロータリーの青少年交換プログラムは、これを実践するのに最適な方法だと思います。私の夢は、すべての17歳の青少年が交換学生となることです。これを実現したなら、この世から戦争は消えてなくなるでしょう」

このように、青少年交換の発想がロータリーの理想そのものであることは明らかです。では、このほかの要素はどうでしょうか。

「投資家」には2つのグループがあると考えられます。1つ目は、親です。結局、財布のひもを解くのは親からです。しかし、プログラムに対して財政的、組織的な支援を提供する地区ガバナーの皆さんも投資家です。

「納入業者」は、学生を推薦してくれる地区やクラブです。学校まで足を運んでプログラムを推進したり、学生の面接や留学の準備を手伝うのは、地区やクラブです。

一方、「顧客」というと、留学生を受け入れる地区やクラブがこれに当たります。この定義にいささか驚く方もおられるでしょう。学生こそ顧客であると、私たちは考える傾向にあるからです。しかし、そう考えるなら、青少年交換を担当するロータリアンは、旅行代理店に毛が生えた程度のもものとなってしまいます。国際理解と平和の推進が真の目的であるなら、毎年、顧客、すなわち交換相手となる地区やクラブを満足させる努力を怠ってはなりません。この努力があつてこそ、このビジネスを末永く続けていけるというものです。

私たちの「製品」となるのが、実は学生です。学生は、私たちが顧客に提供し、納入業者から仕入れる製品とも言える存在なのです。ロータリーの目標を叶えてくれ、私たちが全力を傾ける対象となる製品、それが学生です。

今、「全力を傾ける」と申しましたが、これが「マーケティング」活動です。この活動で、製品を選定し、準備して磨き上げます。ビジネスでこれは特別なことではなく、むしろ、私たちの活動においては当たり前のことなのですが、納入業者や、交換を行う海外のパートナーもまた顧客であるということは、覚えておく価値があります。ですから、ビジネス関係を強めるには、双方が、できるだけ最良の製品を提供し合うよう努めなければなりません。ここで、「製品」について少し詳しく見てみましょう。

毎年、新モデルの「製品」が出ます。聡明で輝かしく、時に燃料をたくさん消費する「製品」です。これらの「製品」は世界中に輸出され、輸入されます。多くの国々、特に米国では、輸入が輸出を上回るという貿易不均衡が若干見られ、「輸入品」のほうが、「輸出品」よりも質が高くなる場合が多いという事実は、認めざるを得ません。また、私たちの「輸出品」が、国際市場に適していないケースが多々あることも事実です。私が何のことを話しているのかご想像いただけるのではないのでしょうか。

さて、市場でのポジショニングと商品のブランドづくりに話を移しましょう。どんなビジネスでも、広く人々に知られるような商品の独自性を定義し、親しみやすさと信頼を生むブランドづくりをすることが大切です。とは言え、いくらデザインが良く、上手く宣伝しても、製品以上の価値は生まれません。このスライドの下の方にある、大きく「E」と入ったロゴに見覚えのある方はいらっしゃいますか。ご記憶の方も多いと思いますが、これはサクセスストーリーと呼べるものではありません。

人気のブランドと製品を望むなら、顧客の好みを調べる必要があります。それは高性能でたくさんの機能が付き、一流のサービスを提供している最新鋭モデルでしょうか。このタイプの製品なら、顧客の満足度が高く、その製品を所有することが誇りとなるため、顧客定着につながります。中級モデルを提供する場合、顧客はほどほどに満足しますが、飛びつきたくなくなるような魅力はありません。顧客は、次回は違う品に鞍替えするかもしれません。品質の低いモデルを提供する場合、それに伴う努力も少なくなりますが、顧客が負担するメンテナンス費用が高つくため、満足度は全体的に低くなります。そのような製品を所有することを恥ずかしく感じることさえあるでしょうし、次回に再び取り引きを申し出てくることは、まずありません。さあ、私たちの顧客が望むのは、果たしてどのモデルでしょうか。また、私たちが納入業者から仕入れたいと思うのは、どのモデルですか。

確かな性能によって、数十年にわたって世界中で認知され、尊敬されてきたブランドを付した製品はどうでしょうか。もしかしたら、皆さんの地区で既にこのブランドを扱っているかもしれません。その場合は、皆さんの努力を心から称賛いたします。

製品についてもっと知るために、試運転のドライブをしましょう。ドライブのルートは、私たちが行っているプログラム、「Rotary Youth Exchange Florida」（フロリダ・ロータリー青少年交換）のウェブサイトと、私たちの派遣・受入学生たちの日誌です。これらの日誌は、青少年交換での体験がどのようなものかを直に知る機会です。では始めましょう。

まず、日本に1年間留学したチェルシー・キングさんをご紹介します。日誌の中で、チェルシーはこう書き記しています。「どうして日本を選んだのか同級生に尋ねられたので、『冒険したいからよ』と答えたら、『私は冒険なんて怖い。うちが恋しくないの?』と聞かれた。『いいえ、うちやアメリカがなくなることはないし、こんなチャンスはめったにあるものじゃないでしょう』と私は答えた。

……アメリカに帰る日まであと48日。でも、そんなこと考えたくない。お別れ会でスピーチをするけど、「さようなら」という言葉を忘れたいとさえ思うほどつらい。日本も、この9カ月で知り合った人も、みんな大好き。どの交換留学もそうかもしれないけど、私の交換は最高に楽しかった。残された48日で楽しい思い出をたくさん作りたい」

次に、エクアドルに留学したタジャ・シュロフさんをご紹介します。彼女はこう書いています。「ヘクターが次の人を紹介して、社会における呪医の役割、仕事、責任や、呪医になる訓練について説明してくれた。その後、ドミンゴが帽子の中に火を点し、2本の葉巻のようなものに火を付けた。私たちが一人ずつ中央に置かれた椅

子に座り、ドミンゴが伝統的な浄化の儀式をした。葉っぱでできた小さなブラシで私の体を払い、背中や顔のまわりに煙を吹きつけた。

……ホストファミリーとの抱擁、友達との外出、人々からの優しい言葉や励ましの言葉など、たとえ留学が終わっても、生涯絶対になくならない思い出ができた。私は帰国するけど、ここで出会った人々の気持ちを持って帰ろうと思う。そして、私の気持ちをここに残して行きたい」

次に、マイク・ウィリアムズ君をご紹介します。青少年交換に参加したとき、彼は祖父母と暮らす都会っ子でした。「信じられないかもしれないが、都会よりも、(イタリアの)この農場での生活が好きだ。匂いのせいかもしれないし、ただ楽しい時間を過ごしているからかもしれない。

……今までにない感情が生まれたが、それが何なのかははっきりとはわからない。これまでに体験したことのない不思議な気持ち。ある日、目が覚めて、それが僕が帰国する7月14日なら、その日、僕は、ホストファミリーや、新しい友達や、新しい生活にさようならを言わなければならない。帰りたくない。僕に言わせれば、ここが自分の故郷だと感じる」

次は、2004年12月の大津波の際に、タイのプーケットに留学していたジェイコブ・ダブス君です。「このレポートを書いている現在、死者は約7万人に達した。昨日、僕は市役所で丸1日を過ごした。そこでは、30人以上の世界中の大使館員が、パスポートの再発行やお金の問題について被災者を助けたり、バンコクに彼らを送る手配をしていた。そこは、最愛の人の顔写真を印刷したチラシであふれ返り、病院の掲示板には、損傷が激しく身元が識別できなくなってしまった人々の写真が貼り出されていた。僕は、英語・スペイン語・タイ語の通訳として、観光客らが母国に帰るためのあらゆる書類手続きを手伝った」

次にご紹介するのは、フロリダ州のジャクソンビルで生まれ育ったマット・ハグラール君です。私たちは彼をシベリア南部に派遣しました。「芝居の後、僕たち5人は近くのカフェに行った。5カ国から来た僕たちを、人々はじろじろと見た。ヤクーツクでは、外国人1人でも珍しいのに、5人もいたら追い出されても仕方ないところだ。

……生の馬肉が変な味だと思わなくなった。ポテトチップやポップコーンを食べるのとあまり変わらない。ただ時々、凍った肉のかたまりの中に紫色の血管が見えたときにだけ、“あれっ”と思ったのを憶えている」

日本に交換留学をしたハナ・クラインさんはこう書いています。「愛する日本で、夢のような素晴らしい経験をしている。“夢のような”と言ったけど、留学中は、ここ日本が私の現実。日本以外に、いる場所が想像できない。友達と付き合い、英語を忘れ、桜の木の下でおしゃべりし、弓道大会の学校代表となり、ハリー・ポッターを漢字で少し読めるようになった。ずっと探し求めていたものすべてが、ここにある。

……私にこの経験を与えてくれたロータリーには、いくらお礼を言っても言い足りない。私を世界市民として育ててくれたロータリー、どうもありがとう。ロータリーが私に与えてくれた自信、知識、愛は、生涯続くと思う。私になりたいものが一つあるとすれば、それはロータリアン。ロータリアンとなって、母国以外に故郷を見出したいと望んでいる、自分のような子供たちに、同じ経験をさせてあげたいと思う」

最後に、もう一度マイク・ウィリアムズ君に戻しましょう。「今、わかった。このプログラムが一体何なのか。それは「理解」だ。交換は決して終わらず、永遠に続いていく。なぜなら、人生で誰もが絶対に経験する唯一のことは「変化」であり、変化を理解して初めてそれに意味が生まれる。真に理解に達するための唯一の方法は「適応」だからだ。適応による理解の中で変化を直に体験する機会を、ロータリーは僕に与えてくれた。本当に奇跡的なことだと思う。平和はこのように実現できるし、だからこそ実現可能だと思う。僕たちはみな違っているようで、とても似ている。1年に1人ずつ、こうして世界を変えていくことが実際に可能なのだ。次は誰の番だろうか?」

皆さん、この質問への答えは、まさに皆さんの手の中にあります。

ご協力とご支援、そして国際理解と平和を推進するという現実的なビジョンと目標さえあれば、ロータリー青少年交換のビジネスの機会は皆さんに開かれています。ここにおられる全員に、このプログラム、そして未来への投資家となっていただけることを、心から願っております。

ローターアクトからロータリーへ

ブリトニー・カットン、リズ・レイズ 現ロータリアン、元ローターアクター

私たちは、ロータリアンです。

私は、ブリトニー・カットンと申します。28歳で、国軍YMCAに勤務しております。私は、サンディエゴ大学でローターアクトの初代会長を務めました。ラ・ホーヤ・ニュー・ジェネレーション・ロータリー・クラブの創立会員で、広報委員長としてクラブ理事会のメンバーを務めた経験があります。

私は、リズ・レイズと申します。26歳で、ガールスカウトに勤務しております。サンディエゴ大学のローターアクト・クラブの元会長で、第5340地区のラ・ホーヤ・ニュー・ジェネレーション・ロータリー・クラブの元会長です。24歳で、私たちの地区の歴史の中で一番若いクラブ会長となり、非常に大きな人生経験をさせていただきました。現在は、ローターアクト委員長として地区で活動しています。

本日は、ここカリフォルニア州サンディエゴで、私たちがローターアクト会員からラ・ホーヤ・ニュー・ジェネレーション・ロータリー・クラブの会員となった経緯をお話しさせていただきます。

大学時代ローターアクターであった私たちは、力になってくださったロータリアン、海外での奉仕活動、地元での奉仕プロジェクト、そして多くのロータリーの会合を通じて、ロータリーとかわって来ました。私の父と祖父は、オレゴン州ポートランドのクラブの熱心なロータリアンでしたから、ロータリーは自然に私の生活の一部となっていました。しかし、ロータリーに対する熱意を強く抱くようになったのはローターアクトを体験してからでした。

ローターアクターからロータリアンとなることは、私たちにとって大きな意味がありました。それは、プロジェクトや会合で、それまで以上に、ロータリーの力を生かすことができるからです。ローターアクトでの経験はもちろん素晴らしいものですが、ローターアクト・クラブにはロータリー・クラブのような構造はありません。さらに、地区やほかのクラブとのつながりも、現在ほど強いものではありません。私たちは、ロータリー・クラブとして完全に機能し、専門職従事者のネットワークの一員となる準備が整ったと感じていました。ロータリーを通じて世界と地域社会をより良い場所にしようと活動している人々の仲間に加わりたいと考えていたのです。

ずいぶん若い頃から、いつかはロータリアンになりたいと考えていましたが、それがこれほど早く実現するとは思ってもみませんでした。私が訪問したクラブのほとんどは、年配の会員から成るクラブでした。これらのクラブではいつも素晴らしい体験をさせていただきましたが、若い社会人の会員は求められていませんでした。しかし、サンディエゴの地区ガバナー数名が、新世代のためのロータリー・クラブを創設してくださったおかげで、地域社会の若者がロータリーに参加できるようになったのです。

ここで、新世代のためのロータリー・クラブについてご紹介します。新世代のためのロータリー・クラブは、通常のクラブと同様に定款と細則に則って活動します。平均年齢は33歳です。毎週例会を開き、海外と地元で奉仕プロジェクトを実施します。また、親睦のために集まり、長時間の理事会会合にも参加します。会員は前向きな姿勢で熱心に奉仕活動に取り組み、それが私たちクラブの原動力となっています。温かく、打ち解けた雰囲気の中で、会員はのびのびと活動しています。会費は月に55ドルと低く、例会への出席規定にも柔軟に対応し、幅広い奉仕の機会があることから、軍人、教師、私たちのように非営利団体に働く人も含め、多様な会員を引きつけることが可能です。私たちは、仕事後の夕方に例会を開き、週末にプロジェクトの計画を立てます。このように毎週集まり、会員同士の絆を深めていることが、ほかの奉仕活動にはない私たちの特徴で

す。私たちは、自分たち独自のニーズと課題に取り組みながら友情を培っています。クラブでは、3人の会員が結婚し、1人が婚約し、赤ちゃんに恵まれた会員もたくさんいます。一方、独身生活を楽しんでいる会員も多数います。このように、人生の節目を共に祝いながらの活動が、クラブをさらに楽しく、親密なものにしています。

私たちのクラブには、16人のポール・ハリス・フェローと7人のマルチプル・ポール・ハリス・フェローがいます。また、ポリオ・プラスの目標もすべて達成し、ロータリー財団には、会員一人につき毎年平均で190ドルを寄付しています。私たちは、計画のすべてを仕事後の例会で低予算の食事を共にしながら行っています。クラブが誇りにしていることの一つは、ジャマイカ、キングストンに新世代のためのロータリー・クラブが結成された際に、支援を提供したことです。以前に所属していたローターアクト・クラブもキングストンに赴き、手伝ってくれました。これは非常に感動的な体験でした。リズと私は、再びキングストンに招かれ、クラブの加盟認証伝達式に出席しました。

「新世代のためのロータリー・クラブ」というアイデアは、私たちの地区ガバナーと、3つのクラブによって3年前に編み出されました。このアイデアは、元ローターアクト、若年層のロータリアン、若い社会人を会員として勧誘するために、地区全域で積極的に推進されました。人々との交流を求め、地元貢献したいと願うサンディエゴの若い社会人を集めるために、ソーシャルネットワーキングサービスのようなオンラインの手段も活用しました。私たちの会員の多くは、ロータリアンの家族や友人、ロータリアンの営む事業、ローターアクト・クラブを通じてクラブに入会しています。中には、飛行機での旅行中に偶然隣合わせたロータリアンに、クラブ例会に来よう説き伏せられたことがきっかけで入会した会員もいます。私たちは、あらゆる手段でクラブの推進に努めていますが、その中でもクラブに対する私たちの情熱が一番のセールスポイントでしょう。皆がロータリーに夢中なのです。

若い会員の奉仕への熱意を支え、成功を導いているのは、活発でペースの速い例会です。プロジェクトを計画するたび、会員はアイデアを絞り出し、創造性を培っています。これまでに、水プロジェクトの資金集めのためにボーリング大会を実施して5千ドルを募金したり、負傷した兵士のために物資を送ったり、会員が経営するショットバーでポリオ・プラスのために特別なカクテルを提供して500ドルを集めたりしてきました。月によっては5つのプロジェクトが同時に行われることもあるため、会員は、自分の関心とスケジュールにあわせて柔軟にプロジェクトを選ぶことができます。

若い会員を対象としたロータリー・クラブという概念は、ロータリーについて知るようになった若い社会人が増えると同時に広まっています。地区指導者の支え、地元のほかのクラブからの指導、奉仕に関心を抱く若いリーダーという成功の条件の下、新世代のためのクラブが次々と結成されています。

新世代のためのロータリー・クラブという概念は、皆さまのご支援により、今後ますます広がっていくでしょう。手を取り合えば、断絶した若者の世代とのつながりを築き、「超我の奉仕」の精神を分かち合う仲間たちとともに、生涯を通じて奉仕するロータリアンとしての道を歩んでいくことができるのです。

会長による閉会の辞

ジョン・ケニー RI会長

スコットランド出身の作家、ロバート・ウィリアム・サービスは、かつて「約束をすることは借りをつくることである」と言いました。

今、この会場にいる私たち全員が、約束をしました。ロータリアンとなったその日に、ロータリーのピンを身に付けたその日に、私たちは正直であること、そして倫理に従って生きることを約束しました。可能な限り他者を助けることを約束しました。また、世界をよりよい場所にするためにできる限りを尽くすと約束しました。つまり、私たちは「超私の奉仕」に徹することを約束したのです。

これがロータリアンとして私たちが誓った約束です。私生活において、クラブにおいて、また、自らの職業と地域社会においても、私たち一人ひとりが、人とのあらゆる触れ合いにおいて日々守らなければならない約束です。この約束はロータリーを代表するものです。どのような場所にしようとも、どのような行動を取ろうとも、ロータリーのピンを付けている限り、それを見る人の目に、私たちの姿はロータリーそのものであると映ります。私たち個人の言動は、ロータリーの言動とみなされ、その視点から評価を受けることになるのです。信頼を築くには生涯をかけなければならないが、失うときは一瞬であると言いますから、この責任を軽んじてはなりません。

ここにおいでの方々には、ロータリーの栄誉と信頼を支えるという大きな責務が待ち受けています。地区ガバナー・エレクトである皆さんは、7月1日から地区で国際ロータリーを公に代表し、エバンストンにいるシニアリーダーと世界中の120万人のロータリアン全員とをつなぐ重要な役割を果たします。皆さんなしでは、ロータリーは、それぞれのクラブが自分たちのやりたいことをするだけで終わってしまうことになるでしょう。皆さんという存在があってこそ、私たちは力を合わせ、最も効果的なところへ力を結集させることによって、最大の成果を生み出すことができるのです。

毎年、ロータリー指導者のバトンが次期ロータリー指導者へと引き継がれます。ポール・ハリスが後継者に渡したバトンが、もうすぐ皆さんに回ってきます。ロータリーの将来は、まさに地区ガバナー・エレクトである皆さんの手の中にあるのです。ですから、私たちはここサンディエゴに集い、一週間で共にしたのです。皆さんは、入りて学ばれ、まもなく出でて奉仕されることとなります。皆さんは今、幾世代にもわたって受け継がれてきたロータリーの指導者たちの仲間入りをされたのです。情熱を新たに、新鮮な考えをもたらし、先人の功績を土台として、よりよい地区と堅固なクラブを築き、後継者のためにそれを残すこと、これが皆さんの仕事です。

ロータリアンである私たちにできる最も重要な奉仕とは、ある特定の年度に特定の役職を得て行う仕事ではなく、クラブを通じて日々行う奉仕だと、私は心から信じております。指導者としての役職を経験することによって、ロータリーに対する理解と敬意が深まり、ロータリーの奉仕をさらに充実させるための懸け橋となる機会に恵まれるのは、事実です。しかし、自らのクラブで毎週の例会に出席し、仲間とともにプロジェクトの計画を立て、その実施に力を注ぐことこそが、ロータリーを成功へと導き、ロータリーの未来を形づくるのです。来るロータリー年度の皆さんの仕事は、クラブを支え、強化するとともに、温かで魅力的な雰囲気づくりを奨励し、親睦や友情が育まれているか、スムーズに機能しているか、よく奉仕しているかを見守ることにあります。

今日この場で私たちは、ロータリーの真髄であるクラブの大切さを理解し、これを認識しなければなりません。クラブが始めなければ、何も始まらないのだと、私は申し上げたい。ここサンディエゴで、私たちがどれほど立

派な計画を立て、多くの感銘を受け、新しいアイデアを得たとしても、私たちがそれをクラブに伝え、指導し、意欲を喚起できなければ、何一つ実現することはできません。クラブは、現在もこの先も変わることなく、ロータリーのあらゆる面において最も重要な部分です。ですからクラブとその成功は、過去、現在、そしてこれからの地区ガバナーすべてが焦点を当てるべき対象なのです。

私は、クラブが実施する奉仕活動をロータリーのリーダーとして命令するよう皆さんに申し上げているのでは、決してありません。クラブは、ロータリーを通じて奉仕したいという意思の下に集まった事業や専門職務に携わるボランティアから成り立っているということを、私たちは肝に銘じておく必要があります。私たちの仕事は、そのクラブの奉仕を指図することではなく、助言を提供し、導くこと、そして最も効果的な形で能率よく奉仕が行われるのを見届けることです。これは、思慮と慎重さ、そして心配りが必要とされる仕事です。

地区のすべてのクラブが目標を立て、その達成に向けて努力するよう導き、また、すべてのロータリアンがロータリー年度の目標とその達成方法を理解していることを確かめることも、これからの皆さんの仕事です。ロシアの劇作家、チェーホフが書いたように、「『進め!』と叫ぶなら、どちらの方向に進むべきかも必ず明らかにしなければならない」のです。

この一週間、皆さんに多くのことを学んでいただけたことを願っております。これから何が待ち受けているのかを知り、これから皆さんが成すことが将来に大きな影響を与えていくことをご理解いただけたのではないかと思います。世界中のいたるところでロータリーがどれだけ多くを成し遂げ、現在もそれを続けていることもお分かりいただけたことでしょう。また、ロータリーにはまだやらなければならない仕事がたくさん残されているという重要な事実と、それをやり遂げるロータリーの真の力も実感されたことでしょう。そして何より、多くのことが皆さん自身にかかっていることをおわかりいただけたことと思います。

ガバナーの職に就くロータリー年度は、まさに光陰矢の如く過ぎ去ってしまいます。1月の終わりにあつて、7月まではまだ余裕があると思われるかもしれませんが、あつという間に時は経ちます。これを踏まえ、残された時間を大切に、明朝の旅立ちとともに持ち帰るエネルギーをどうか無駄にされることのないようお願いいたします。計画と準備の共同作業に向けて、この時間とエネルギーを賢明に使ってください。また、地区内のクラブと次期クラブ会長について知るようにしてください。

新しくロータリーを塗り替えるのではなく、豊かな経験を備えた地区の諸先輩から貴重な教えを学んでください。明日への最良の備えは、今日すべきことを精一杯やることです。ですから、来年度を思うあまりに今年度を軽んじるようなことのないようお願いいたします。

皆さん一人ひとりを待ち受けている素晴らしい機会には、大きな責任も伴います。皆さんが責任を持ってご自分の役職を引き受け、それに恥じることはないよう精一杯精進していく覚悟であることを、私は知っています。さらには、皆さんがこの仕事の重要性を理解しておられることも存じております。ジョン・ボローは次のように言いました。「本当に価値あるものを手に入れるには、必ず、労働や忍耐や愛情や自己犠牲という代価を払わなければならない。紙幣や手形ではなく、真の奉仕という黄金が必要とされるのだ」この言葉は真実です。

朋友の皆さんに申し上げます。「ロータリーの未来はあなたの手の中に」と。これからの準備期間中、ガバナー在任中、そしてロータリアンであり続ける限り、ロータリーの未来はいつも、あなたの手の中にあります。ロータリーの役職は1年限りですが、ロータリアンとしての役割は生涯終わることはないと、これまでも重ねて申し上げてきました。

ロータリーとは決して普遍的な概念ではなく、誰に入会を認めるかを厳選する組織であり、それが私たちのあるべき姿です。ロータリアンとは、賢明な判断力と優れた技量を備え、誠実さをもって立派な行動を取る気骨ある人物でなければならないのです。

ロータリーが105年間の長きにわたり栄えてきたのは、私たちが超我の奉仕を生き、「四つのテスト」を実践してきたからです。ロータリーの発展のもう一つの理由は、最初のロータリー・クラブが奉仕ではなく親睦に基づいて結成されたという事実を、決して忘れたことがなかったからです。最初の4人のロータリアンが2度目の会合を開こうと考えたのは、シカゴという不案内な都市で味わった交流の温もりが忘れられなかったからでした。私たちもまた、ここサンディエゴで、彼らと同じ温もりを交わすことができたのではないのでしょうか。

このロータリーの親睦の集いにお招きいただき、ありがとうございました。そして、皆さんのご奉仕に感謝し、「ロータリーの未来はあなたの手の中に」あることを、今一度お伝えし、閉会のご挨拶とさせていただきます。

会長エレクトによる閉会の辞

レイ・クリンギンスミス RI会長エレクト

アメリカにはギャリソン・キーラーという人気ラジオ番組の司会者がいますが、私も彼のファンの一人です。キーラーは、毎週、「ええ、レーク・ウォベゴンでは何事もない静かな一週間でした」という決まり文句とともに、彼の架空の故郷にまつわる話で番組をスタートさせます。私もキーラーのこの句をもじって、使わせていただくことにします。「ええ、ここサンディエゴではさまざまなことがあったためまぐるしい一週間でした」まさにめまぐるしい一週間、そう思いになりませんか。

この一週間は、世界各国から集まったロータリアンが、世界をよりよい場所にするために、平和と調和にあふれる理想的な環境の中で学び合った素晴らしい時間でした。ここグランドハイアットに、ロータリーの精神が満ちあふれ、魔法にでもかけられたような一週間であったと感じます。親睦と友情に基づいた奉仕クラブをつくりたいという新しい試みについて話し合おうと、一人の男が3人の友人を会合に招くという極めて単純な行動から、親睦と奉仕の精神が世界中へ広がっていきました。なんとというシンプルな、しかし強力なコンセプトでしょう。1905年にポール・ハリスが提唱した新しいアイデアにより、私たちは直接恩恵を受け、奉仕プロジェクトを通じてさらに何百万人もの人々が恩恵を受けてきました。

この一週間、私たちが体験できたロータリーの精神と魔法は、1人の人間が思いついた新しいアイデアのおかげです。その後、「四大奉仕部門」、「標準ロータリー・クラブ定款」、「四つのテスト」、そして地区ガバナーの役職など、いくつかの新しいアイデアが生まれました。これらのアイデアはいずれも個人のロータリアンが考えたものですが、理にかなっていたため、多くのロータリーの指導者から賛同が寄せられました。これらのシンプルな概念には、ロータリーの魔法を生み出す力がありました。

さあ、今度は皆さんの番です。皆さんは、地区の改善に向けてどのようなアイデアをお持ちでしょうか。計画をしっかりと立てることはもちろんですが、その前にまず夢を描いていただきたいのです。それも大きな夢を。地区内のクラブがより大きく、豊かで、大胆になるために、何ができるでしょうか。皆さんには、地区を新たな方向へと導き、新しい魔法をもたらすまたとない機会が待ち受けています。夢を描くことができれば、それは実現できます。1957-58年度RI会長、チャールズ・テンネント氏が述べた「ロータリーの魔法と本領、そして力の源は、人々の生活に根付いた思いやりあふれる奉仕である」という言葉は、まさに至言です。私たちは、ロータリーの魔法の力をさらに素晴らしいものにすることができます。それには、壮大な考えを持ち、行動を起こすことが重要です。

この協議会における信じがたいほどの素晴らしい経験が、これで終わってしまうことを寂しく感じるのは当然のことです。明日の朝、私たちは親しくなった新しい友人に別れを告げ、このホテルの外の現実の世界へと戻っていきます。しかし、それは終わりではなく、ロータリーにおける新たな船出に過ぎません。私たちはここに到着したときよりも知識を蓄え自信をつけ、「出でて奉仕せよ」の伝統に従う準備が整ったはずです。夢を描き、クラブを支え助けるための計画を立てる心構えもできました。しかし同時に、気難しいパスト・ガバナーなど、提案した新しいアイデアに反発するロータリアンに遭遇することも覚悟しておかなければなりません。

そこで、私たちの投げかける新しいアイデアに冷や水を浴びせかけるような、変化に対する抵抗について、少しお話ししましょう。新しいアイデアを提供したつもりでも、25年も前に似たようなアイデアを試して失敗に終わった苦い経験を覚えている古株のロータリアンが出てこないとも限りません。しかし、そのときこそ私たちのリーダーシップが試される正念場です。自分の計画がきつと成功すること、その理由は自分が考えついたアイデアだからではなく、理にかなったものであり、正しい選択だからだということを、説得する必要があります。

未来という不確かな領域に踏み込もうとするとき、決まって抵抗する人々が出てきます。「未来が抱える問題は、現在のすべてが変わってしまうことにある」とは、ある賢者の言葉です。ロータリーは、いくつもの段階的な変化を経て、現在の世界的な地位を築いてきました。ときには、勇気と先見の明をもった指導者の先導の下に、飛躍的な変化に踏み入ったこともありました。1970年代に承認された3-Hプログラムがこの例の一つで、後にポリオ・プラスが生まれるきっかけとなりました。この変化は、バミューダのジャック・デービス、オーストラリアのクレム・レヌーフ、米国のジェームス・ボーマーという3人のRI会長が年度ごとにバトンを渡し、受け継ぎ、実現させたものです。この経験から得られる学びは、非常にシンプルながら力強いものです。すなわち、皆さんが地区において末永く残る成果をもたらす改善を望むなら、その計画を実施する前に2人の後継者から支援を得る必要があるという教訓です。自身の計画を後継者と分かち合うことです。功績を分け与えるのが、良き指導者というものではないでしょうか。

自分の計画を説明する際には、変化を論じる代わりに、改善すべき点について話すのがよいでしょう。変化のみを目的とした変化からは、何も生まれません。しかし、ロータリーを常に活力に満ち、時代に即した組織に保っていくには、継続的な改善が非常に大切です。また、クラブが現在の親睦と奉仕のレベルを保っていくには、躍動的かつ行動的でなくてはなりません。修正されたRI長期計画も、それを前提としています。「変化は進歩を保証するものではないが、変化なしに進歩が起こりえないことは明らかである」とは、ヘンリー・コマジャーという歴史家の名言です。変化全般について語るより、それぞれの地区における進歩について語るほうが遥かに賢明です。

私は、来る年度が革新と実験の心意気を映し出すロータリー年度となることを、切に願っています。RI理事会は前進する準備ができています。夢を描き、実践する構えが出来ている皆さん、ぜひ一体となって前に進んでまいりましょう。私の提案するアイデアがすべて成功するかどうかはわかりませんが、やってみる価値はあると思います。新しいアイデアから成果が得られれば、私たちは進歩を遂げ、その成果は継続されていくでしょう。仮にそれが失敗に終わり、廃棄物の山の片隅に追いやられたとしても、その試みから学ぶことが必ずあるはずで、ロータリーの進化の大部分が試行錯誤から生み出されたことを踏まえ、皆さんも私とともに、クラブを支え、強化するために地区がもっと積極的に取り組めるような新しい方法を模索してください。お願いしたいと思います。ロータリーの魔法の力を借りて力を合わせるなら、ロータリーに違いをもたらし、世界をよりよい場所にすることができるでしょう。

財団の未来の夢計画の立案にかかわった委員は、全員がジェームズ・コリンズの書いた「ビジョナリー・カンパニー2」という本を読みました。この書の非営利団体のための付録の中で、コリンズは長期計画を立てる際に用いるべき3つの問いかけを紹介しています。未来の夢計画を立てるにあたって、私たちはこの問いを指針としました。その問いとは、「団体のリソースをつき動かすものは何か」「会員が情熱を抱いているものは何か」「あなたの団体が世界一と誇れるものは何か」というものです。

財団の資金が任意の寄付から成り立っていることは周知のとおりですが、成果の出ているプログラムにはより多くの寄付が集まってきます。一方、RIの資金は会費から成り立っています。ですから、RIプログラム、特に青少年プログラムへの支援を増やしたり、クラブがより大きく、豊かで、大胆になれるよう支えるために地区の資金を増やしたりするには、ロータリーの会員の増加が必要なのです。会員基盤が成長すれば、躍動的な組織としての望ましい循環がもたらされますが、減少すればこれとは反対に下降の一途をたどることになります。

次に、ロータリアンはどんなことに情熱を抱いているのでしょうか。私は、親睦と奉仕であると思います。楽しみ、友情、親睦はロータリーの礎石のようなもので、私たちはこれに情熱を感じます。これがなければ、ロータリーがここまで成果を挙げることはなかったでしょう。奉仕に関しては、ロータリアンによって、青少年交換やポリオ撲滅、識字など、情熱を傾ける対象はそれぞれです。専念するプログラムは違っても、ロータリアンであるなら、世界をよりよい場所にするためのロータリーの精神とロータリーのプログラムに対する情熱は同じです。世界各地でロータリー・クラブの運営の仕方はさまざまですが、すべてのクラブは親睦と奉仕という目的を

共有しています。つまり私たちは、クラブのネットワークを通じて「画一化ならぬ結束」を見事に実現しているのです。そして、より大きく、豊かで、大胆になれるようクラブを援助できるなら、ロータリーにさらなる全盛期が確実に訪れるはずです。

それでは最後の重要な問いに移ります。私たちが世界一と誇れるものは何でしょうか。それは、幅広いプログラムを通じて国際理解、親善、平和を推進するために、200余りの国と地域に存在する33,000のロータリー・クラブのネットワークを活用することに尽きます。ポリオ・プラスのおかげで、今日私たちは世界の表舞台に立ち、世界有数の奉仕クラブ団体に数えられるまでとなりました。しかし、ロータリーをシンプルにという自分自身の忠告を顧み、私たちが世界一と誇れるものを最も簡潔に表現するなら、「地域を育み、大陸をつなぐ」というシンプルな言葉に集約されるのです。

